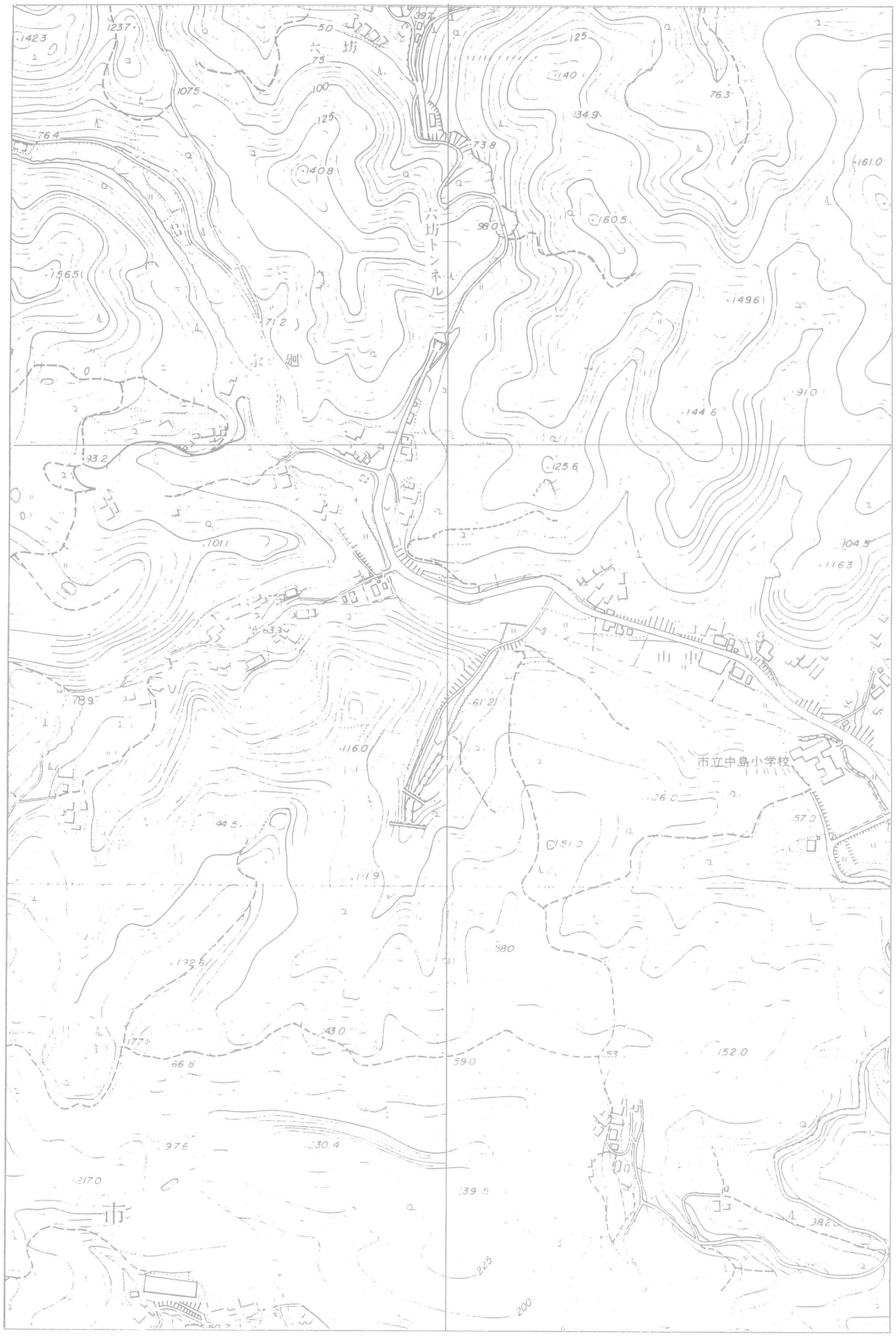
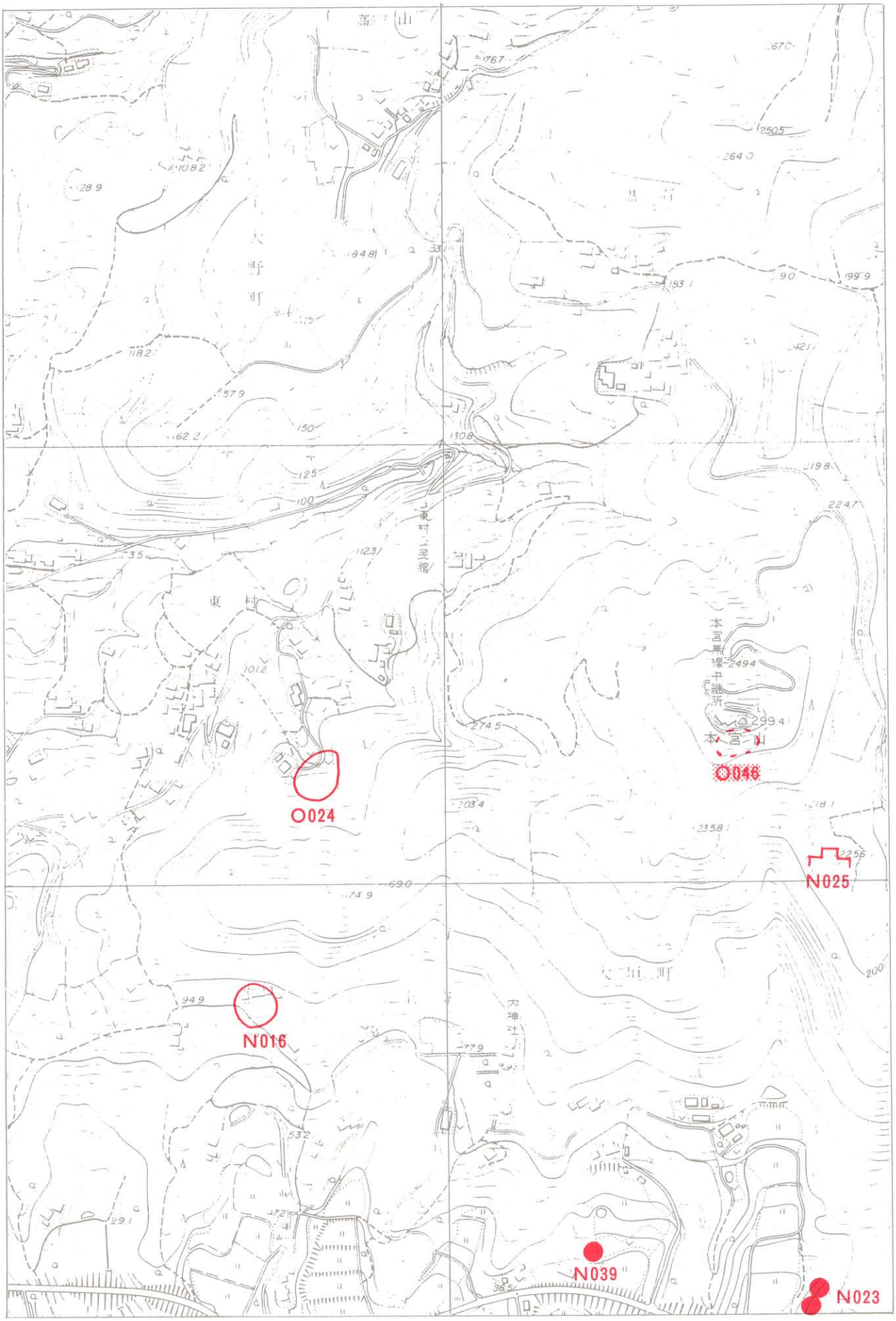
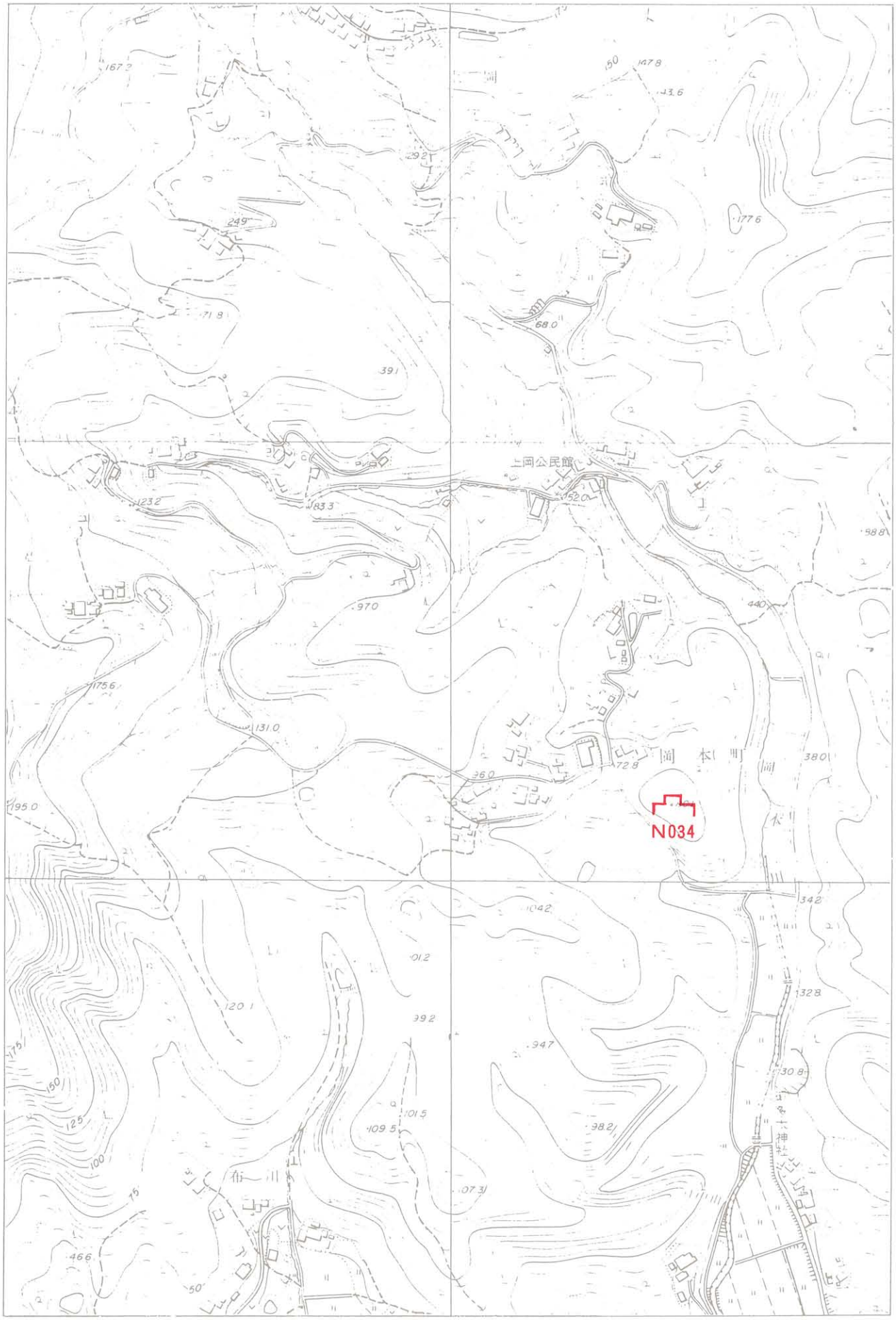
N-92・N 秋鹿（秋鹿町）



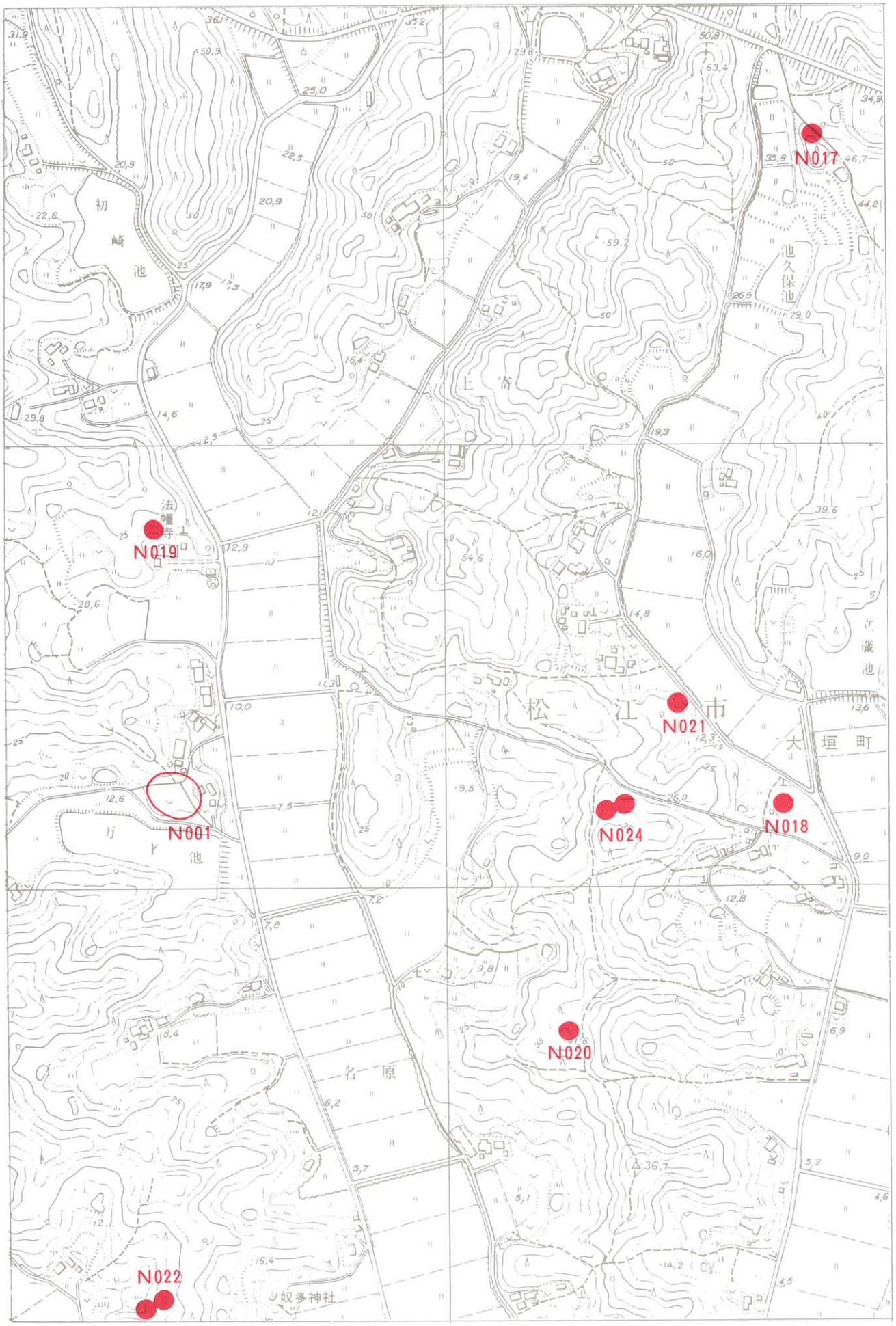
N-93・O 大野（上大野町）
N-93・N 秋鹿（大垣町）



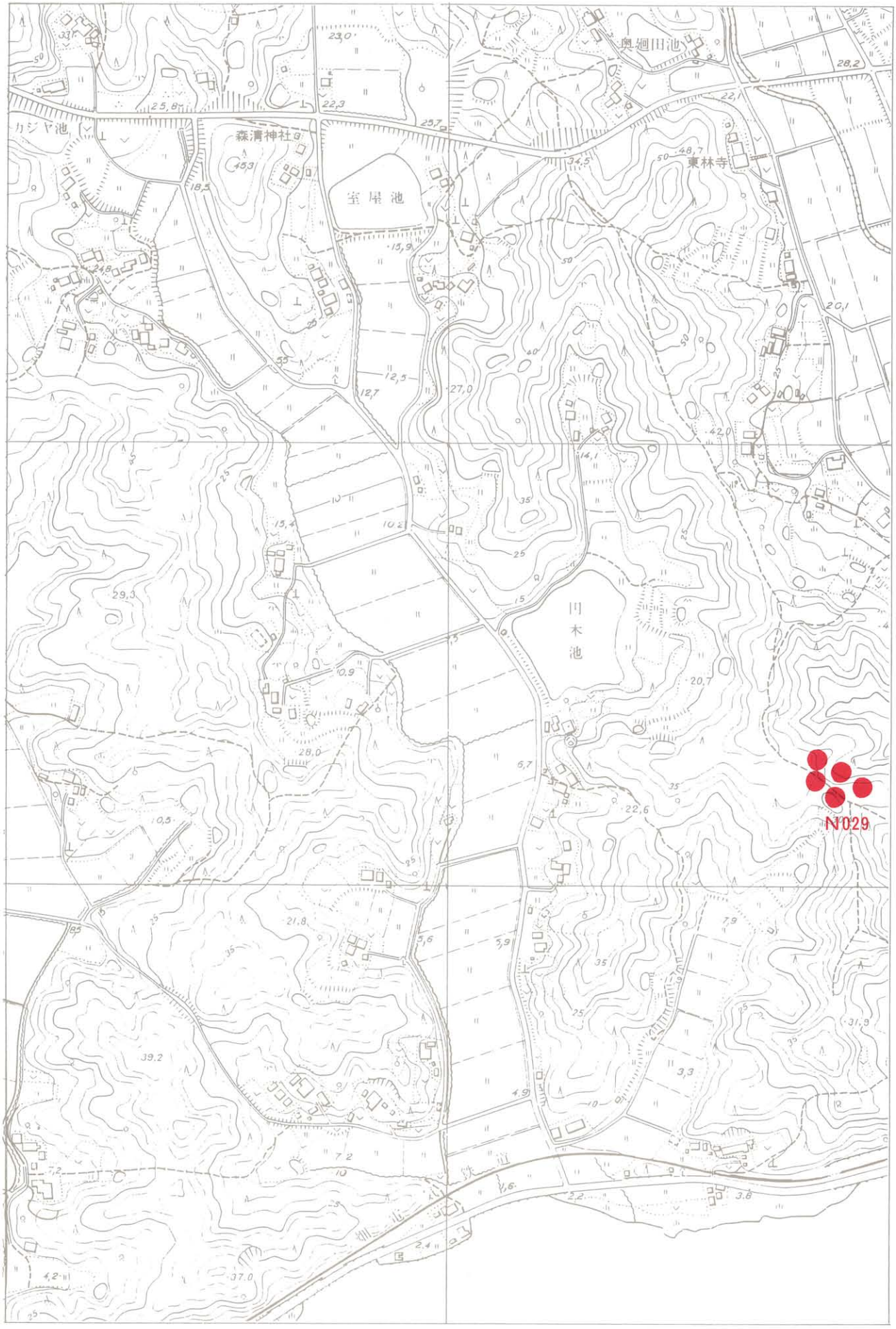
N-94・N 秋鹿（岡本町）



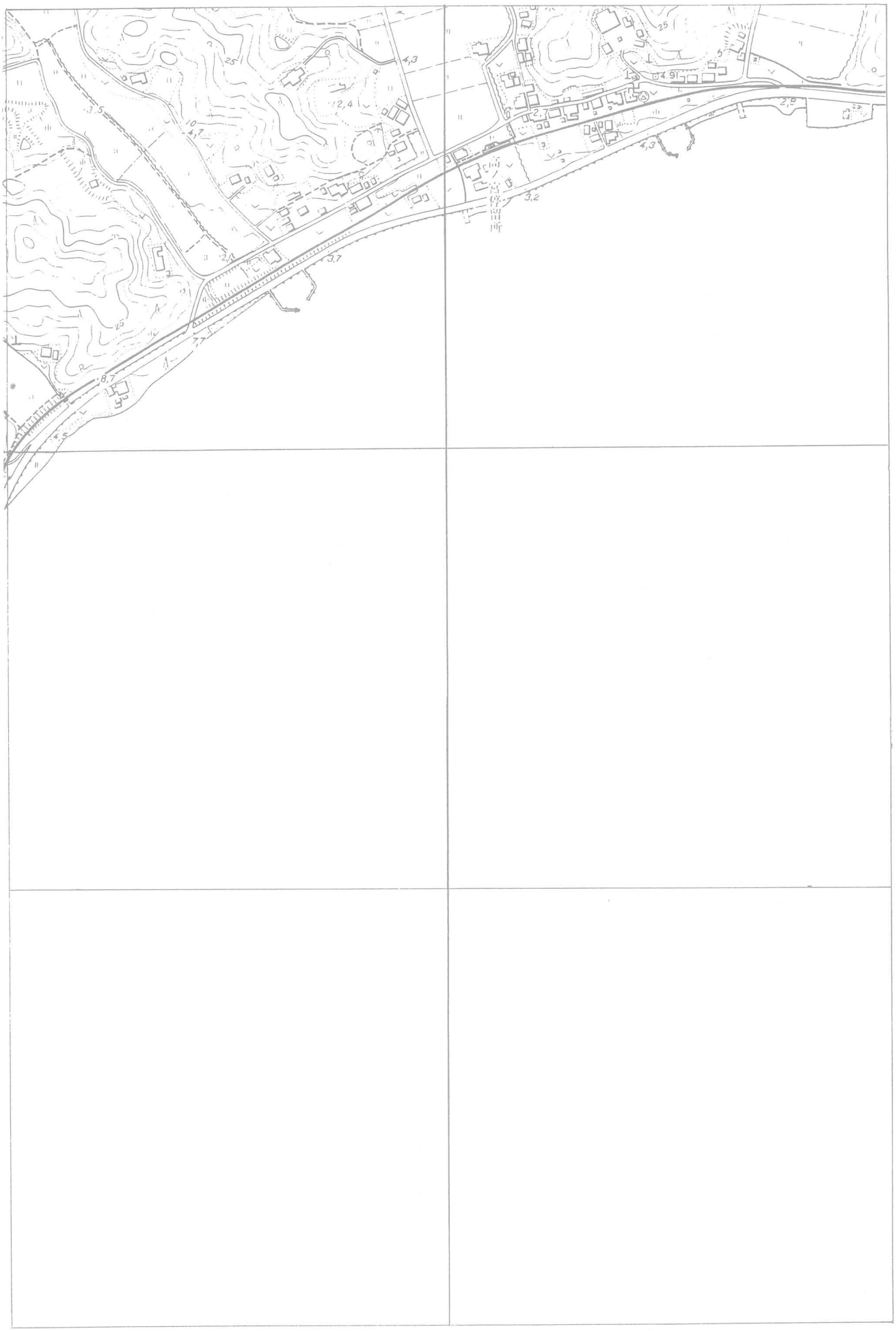
N-95・N 秋鹿（大垣町）


N017
N019
N021
N001
N024
N018
N020
N022
初崎池
池久保池
上寄
法幢寺
立蔵池
松江市
大垣町
名原
奴多神社

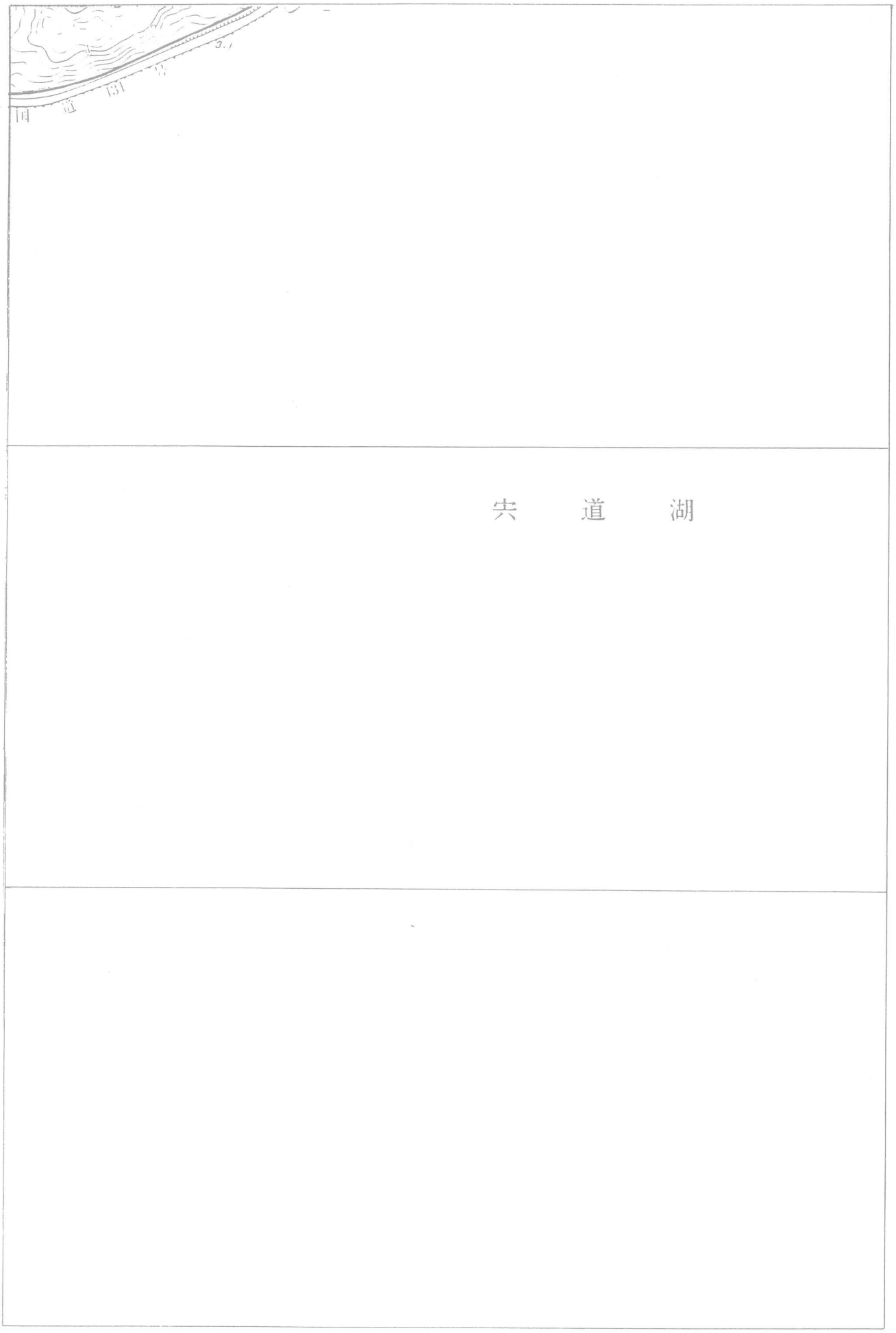
N-96・N 秋鹿（大垣町）



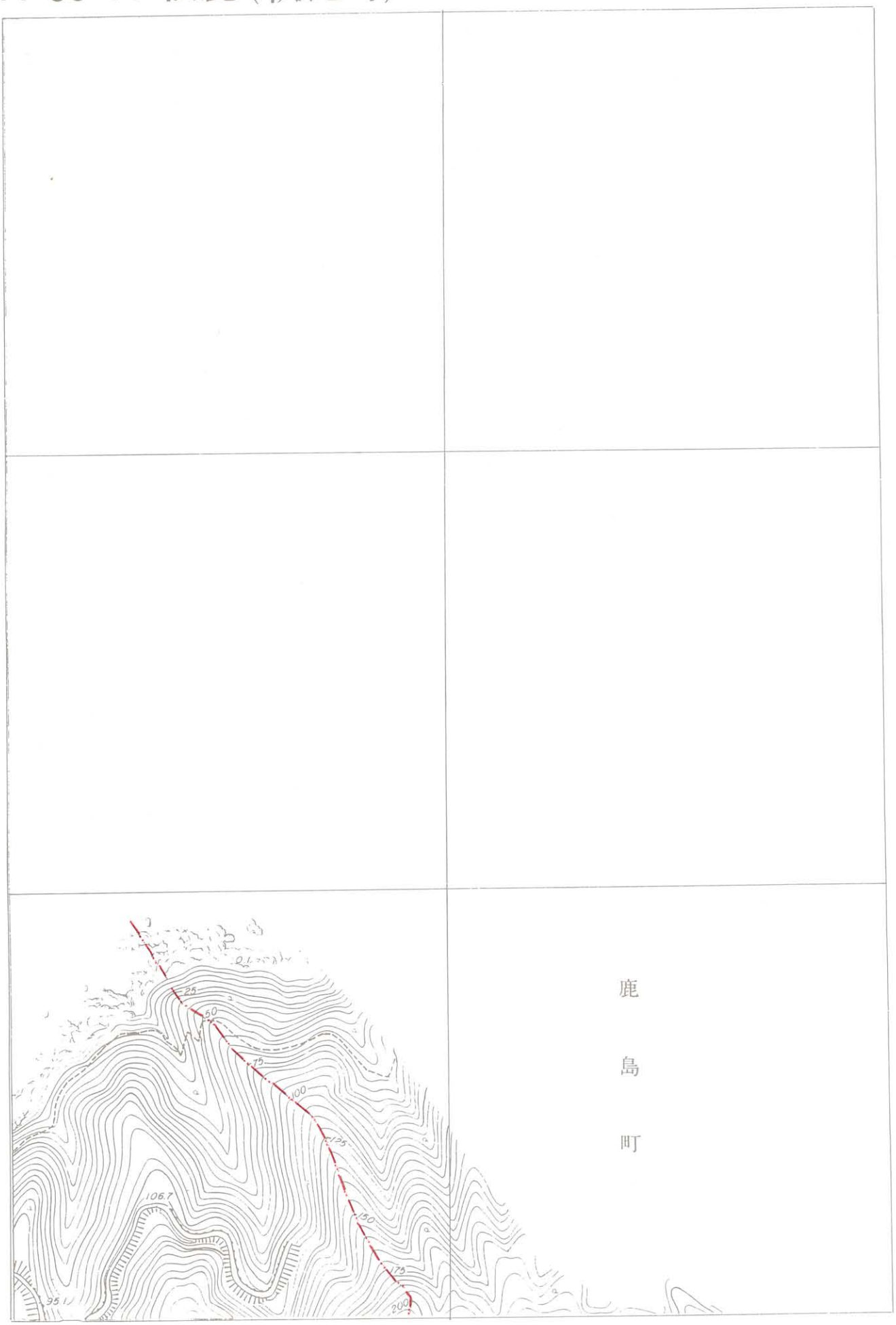
N-97・N 秋鹿（大垣町）



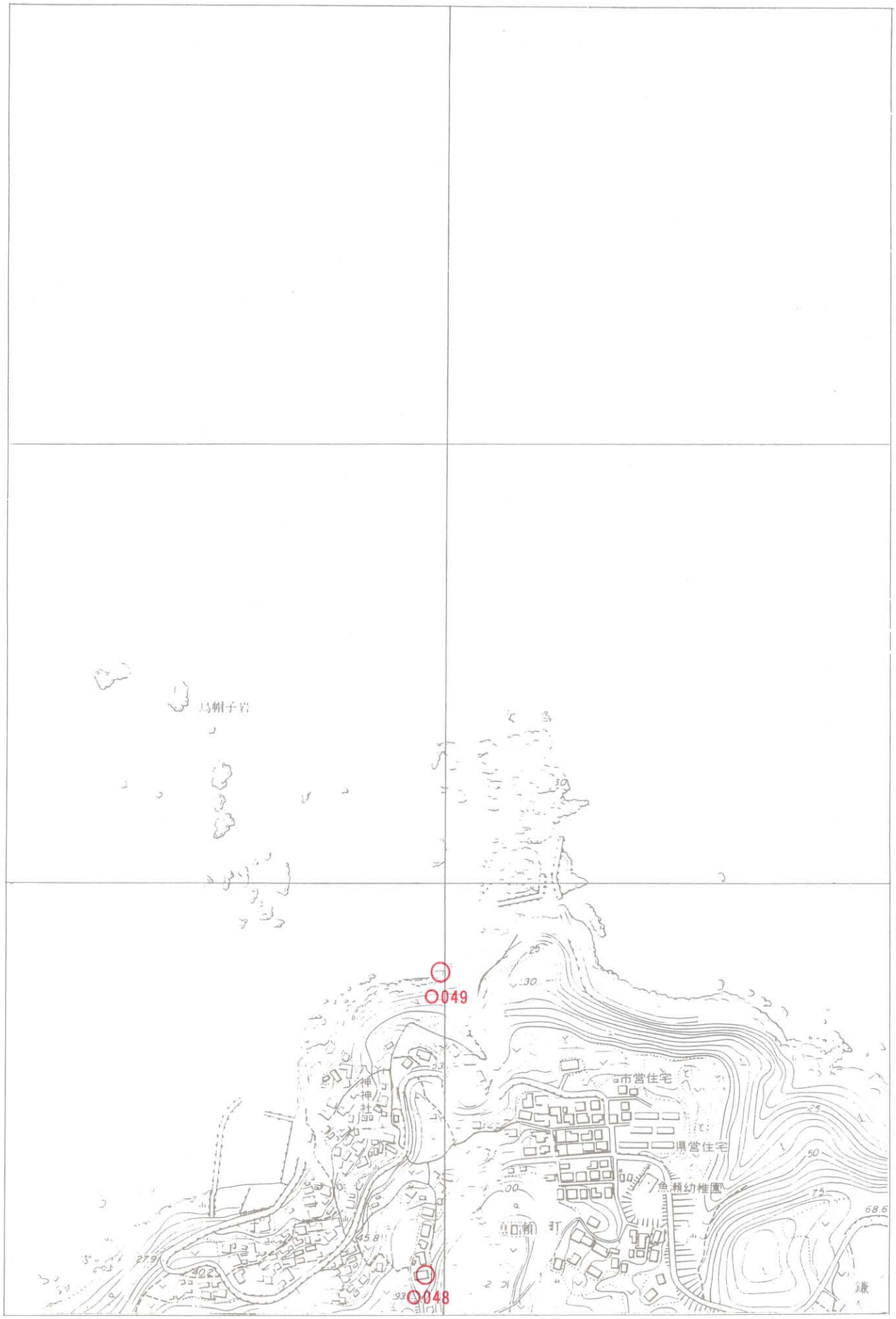
N-98・N 秋鹿（大垣町）



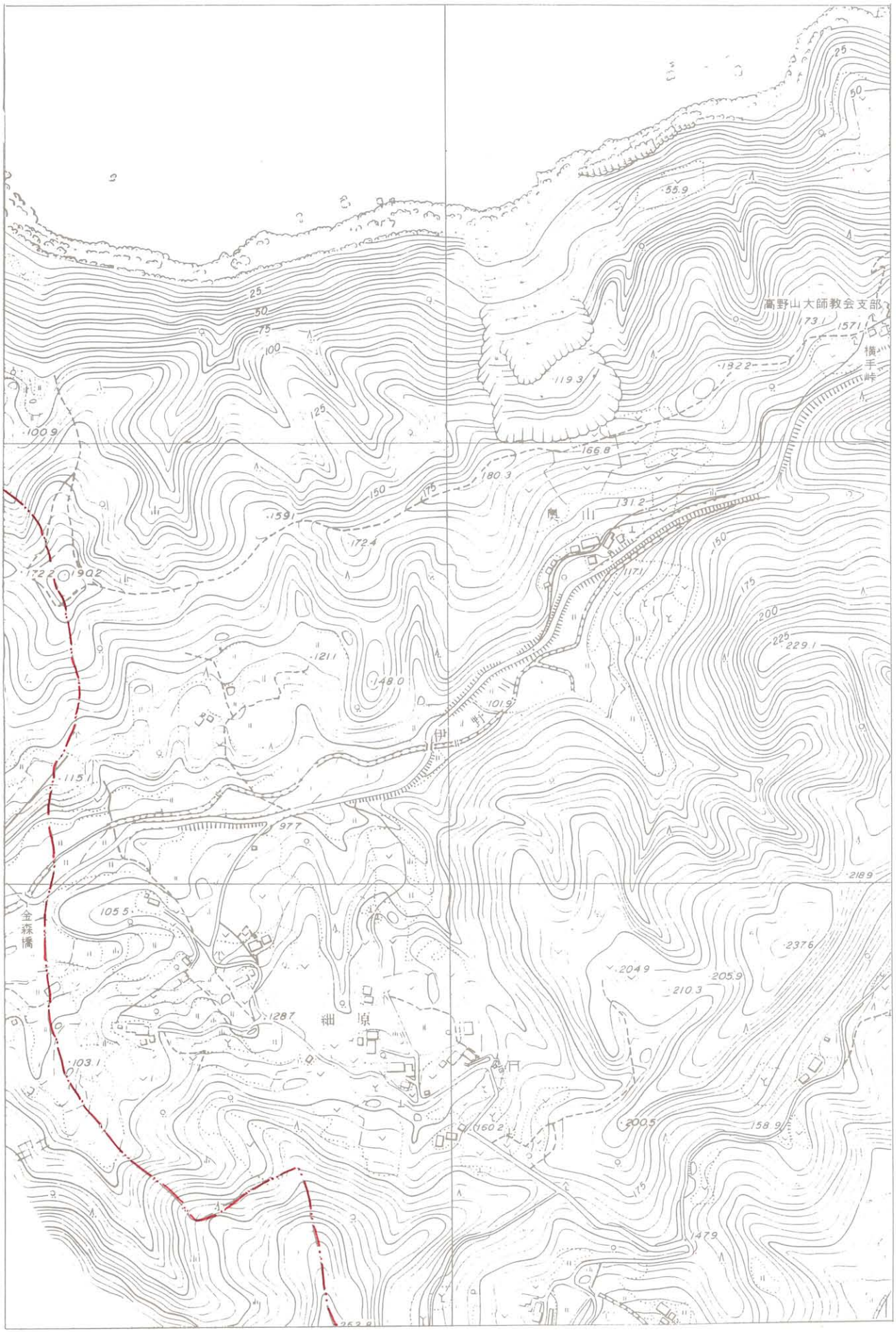
N-99・N 秋鹿（秋鹿町）



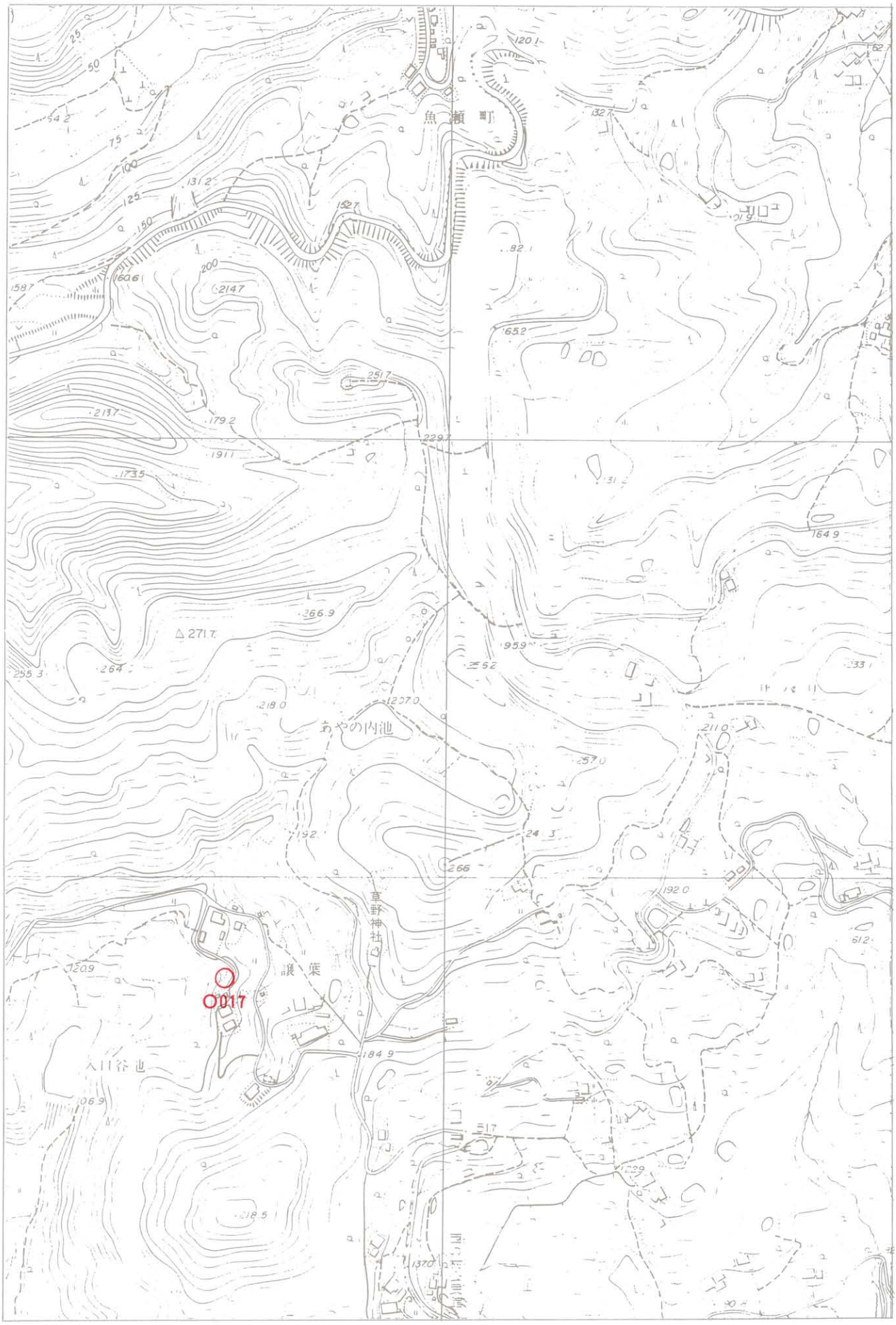
N-100・O 大野（魚瀬町）



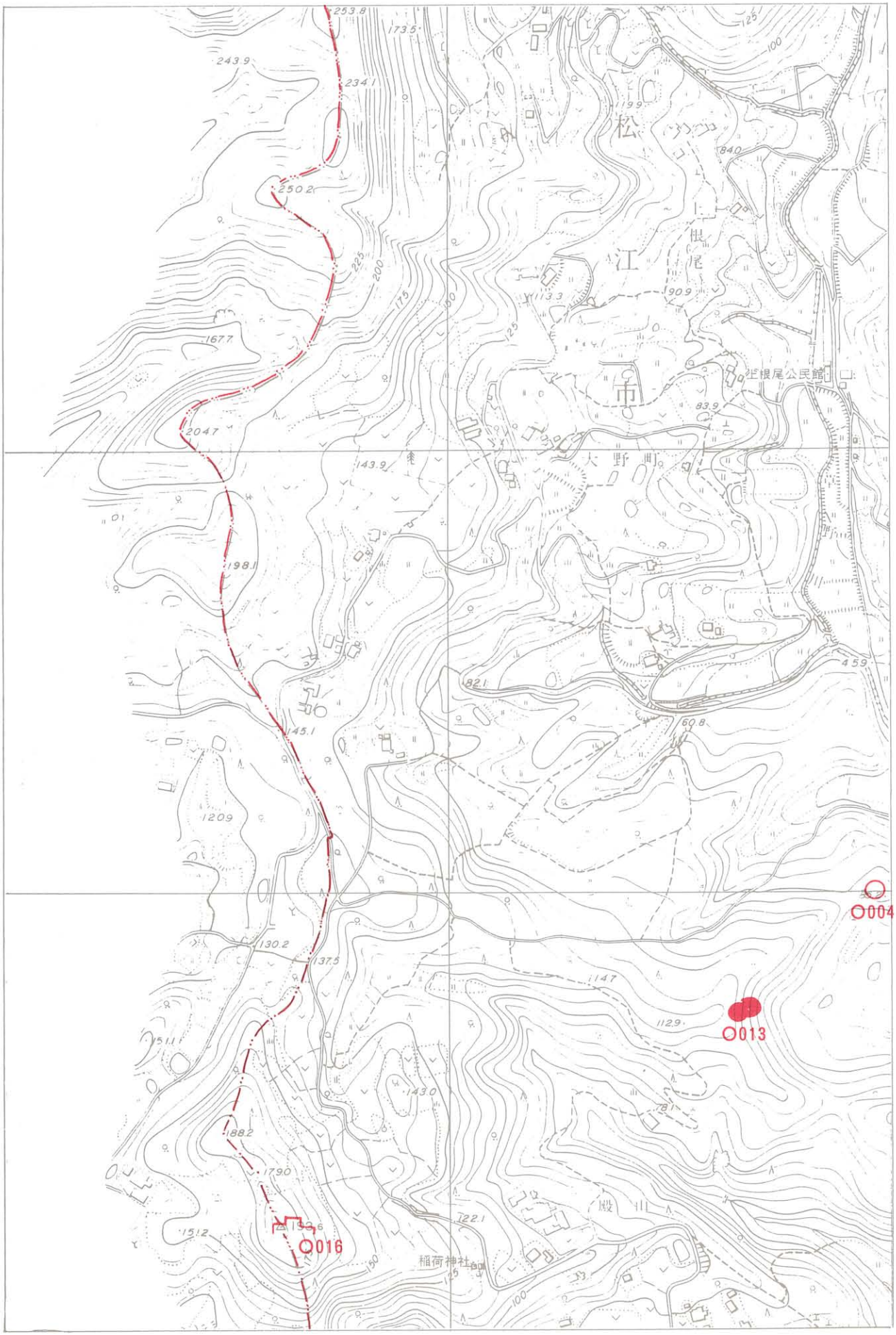
N-101・O 大野（大野町）



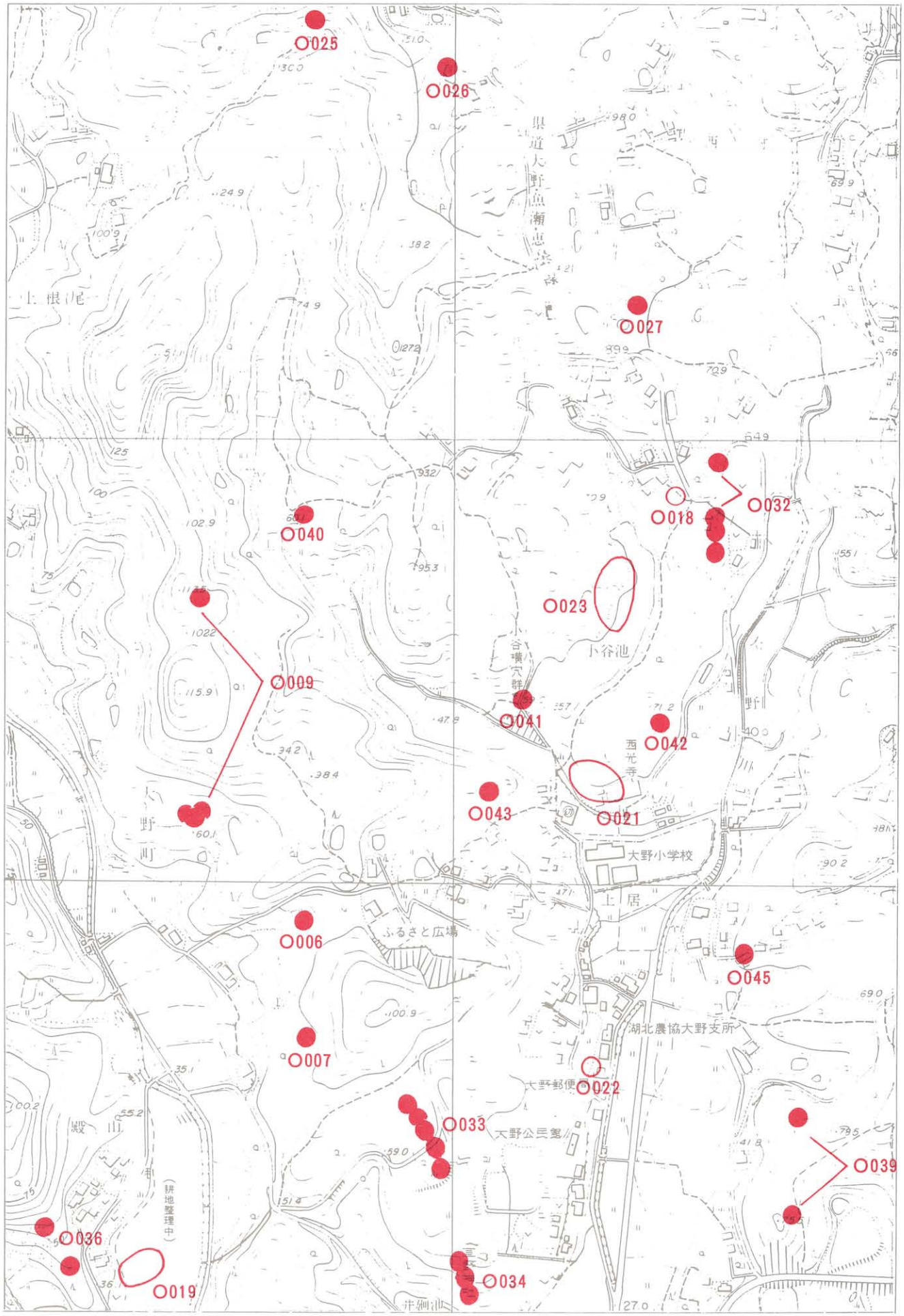
N-102・O 大野（魚瀬町、上大野町）



N-103・O 大野（大野町）



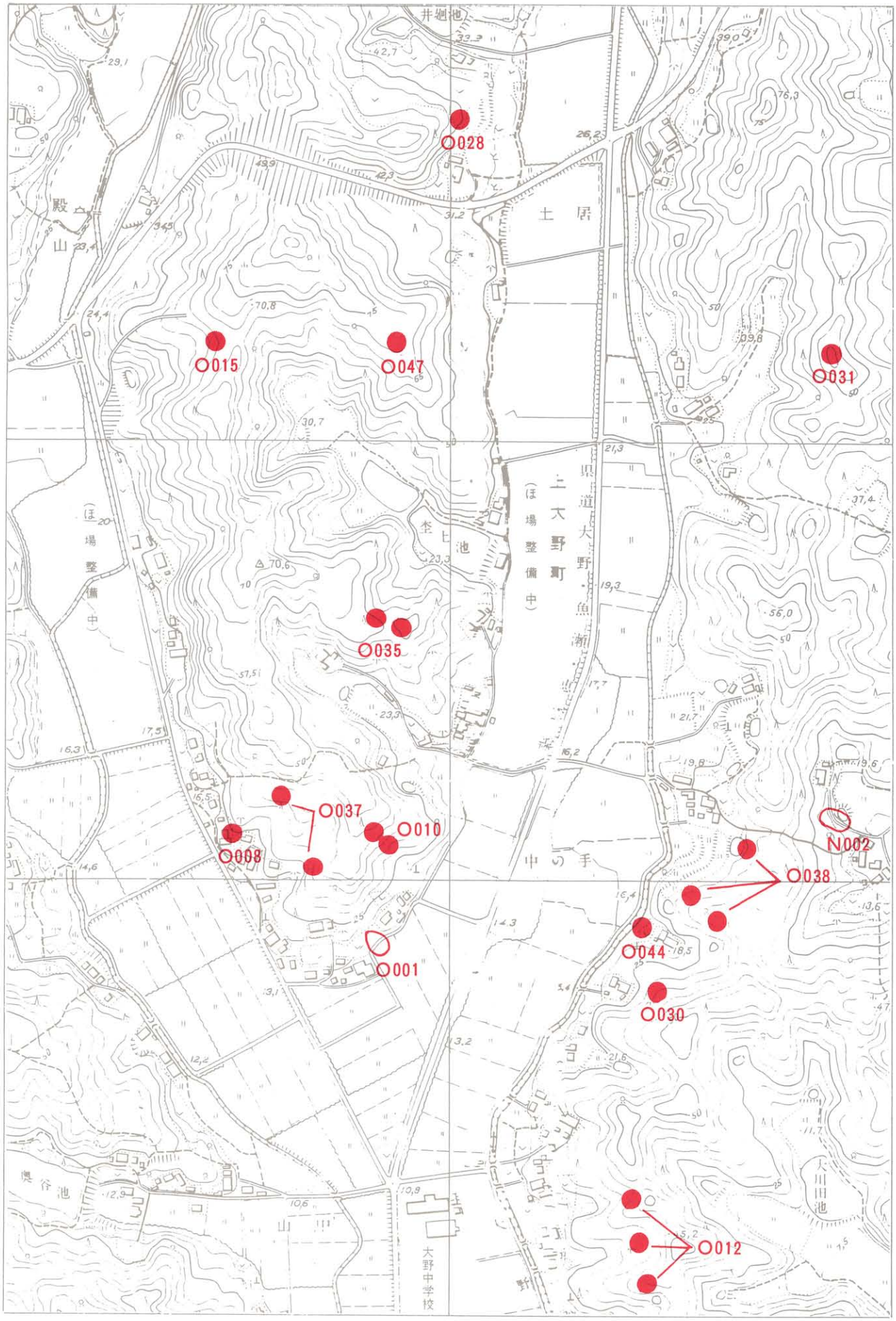
N-104・O 大野（上大野町、大野町）



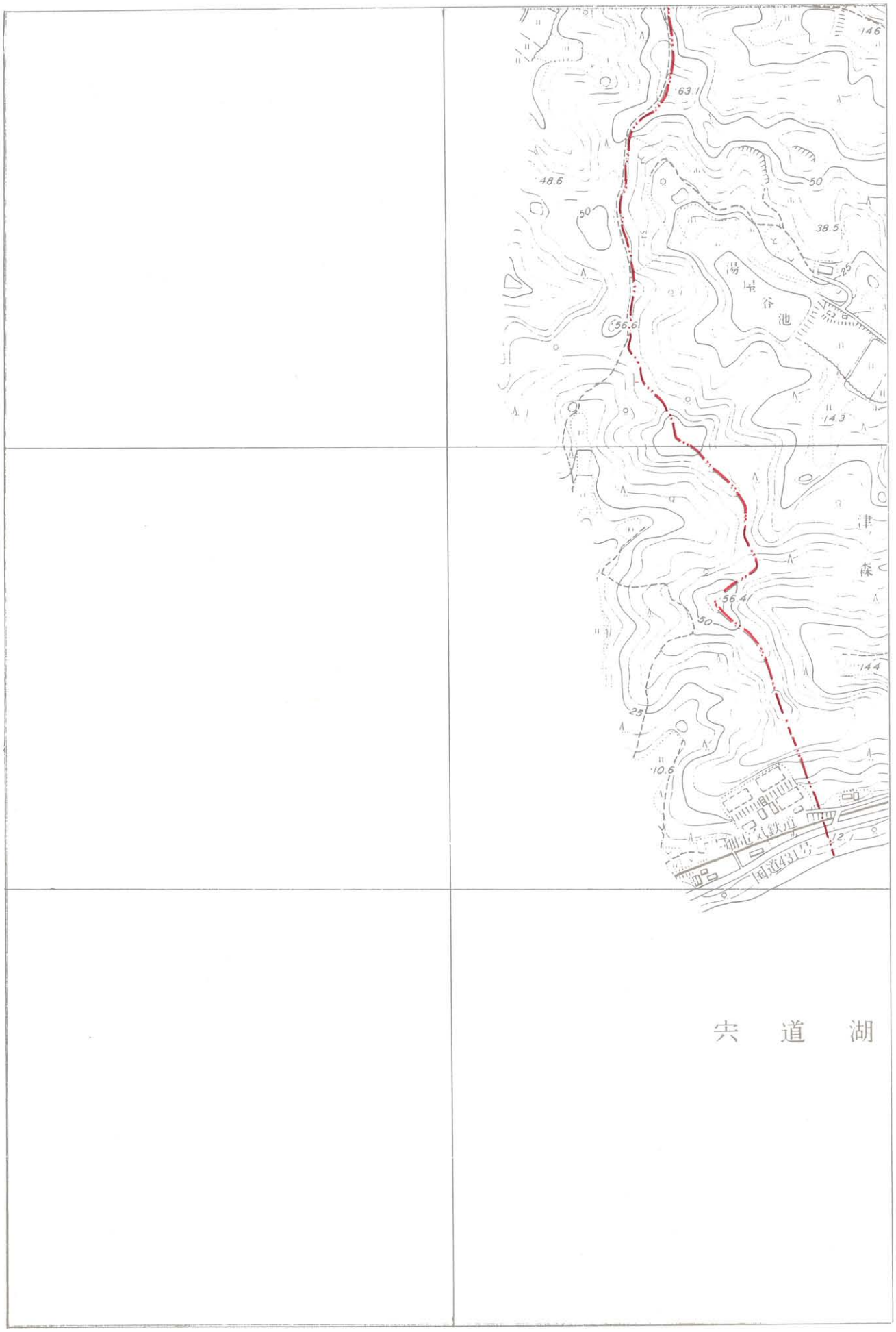
N-105・O 大野（大野町）

O036
O029
O014
O003
平迫池
殿山
耕地整理中
大野町
名立池
松江市
126.6
69.8
53.0
38.2
46.1
60.6
50.7
28.1
64.2
58.2
62.8
172

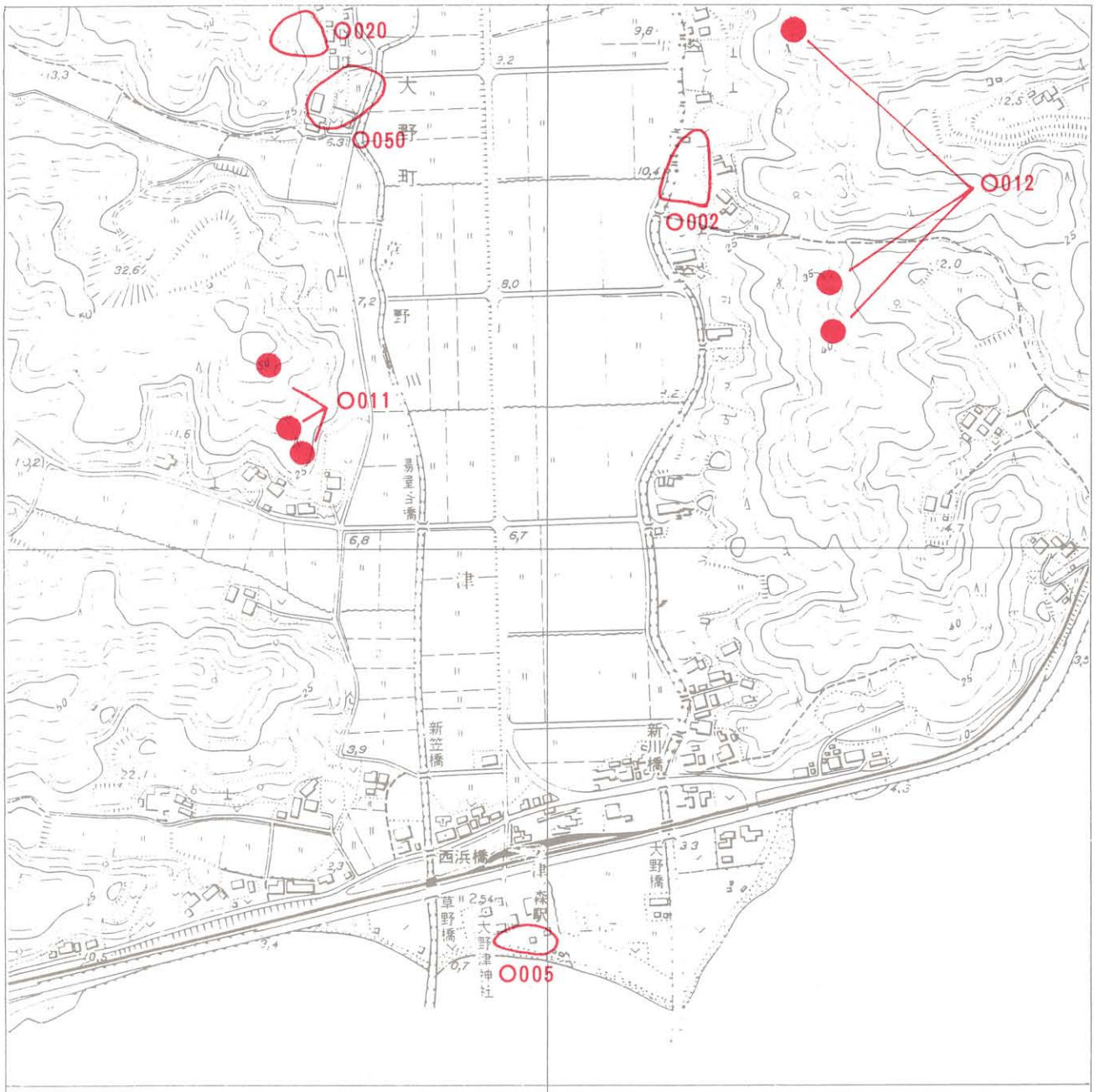
N-106・O 大野（上大野町、大野町）



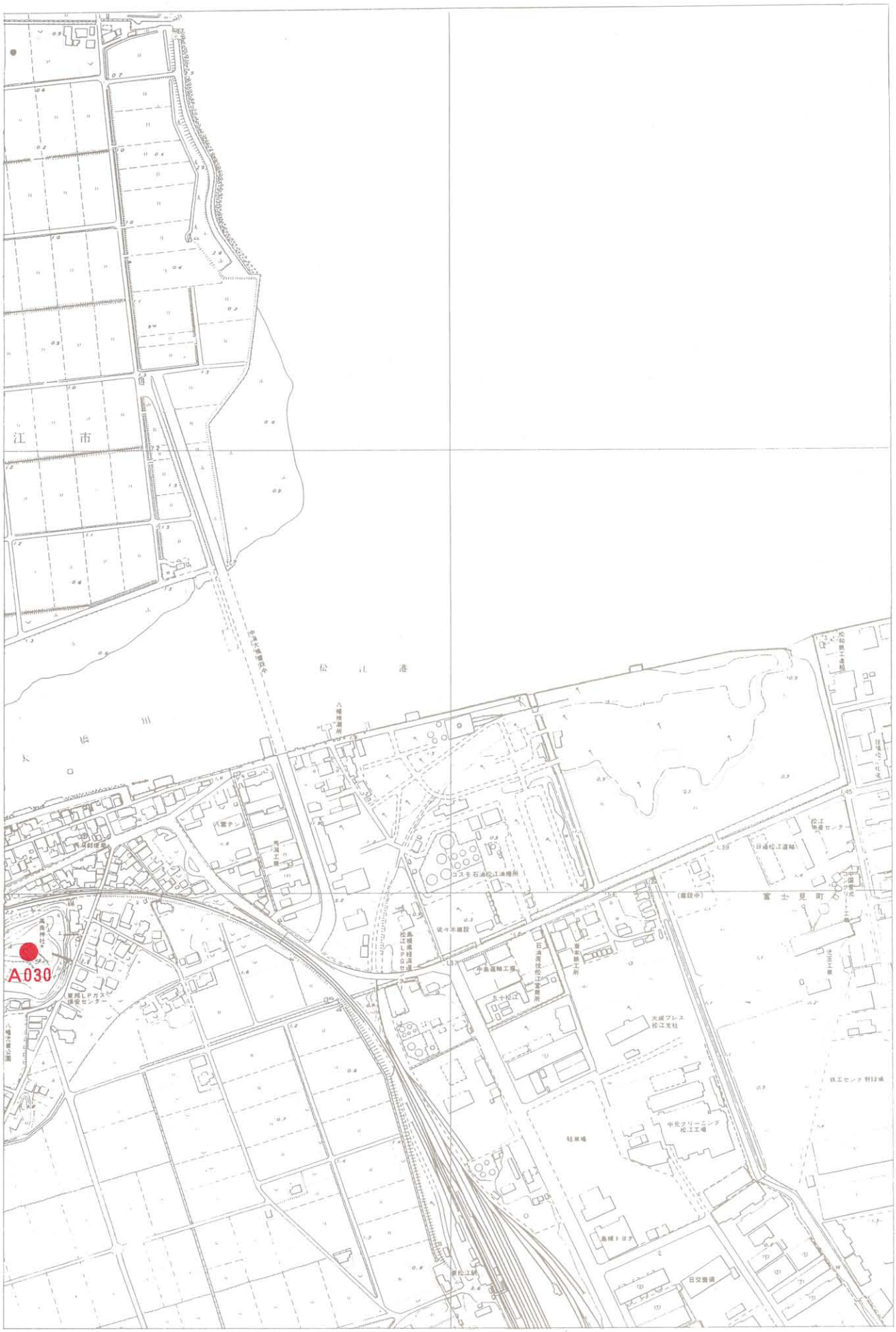
N-107・O 大野（大野町）



N-108・O 大野（大野町、大垣町）

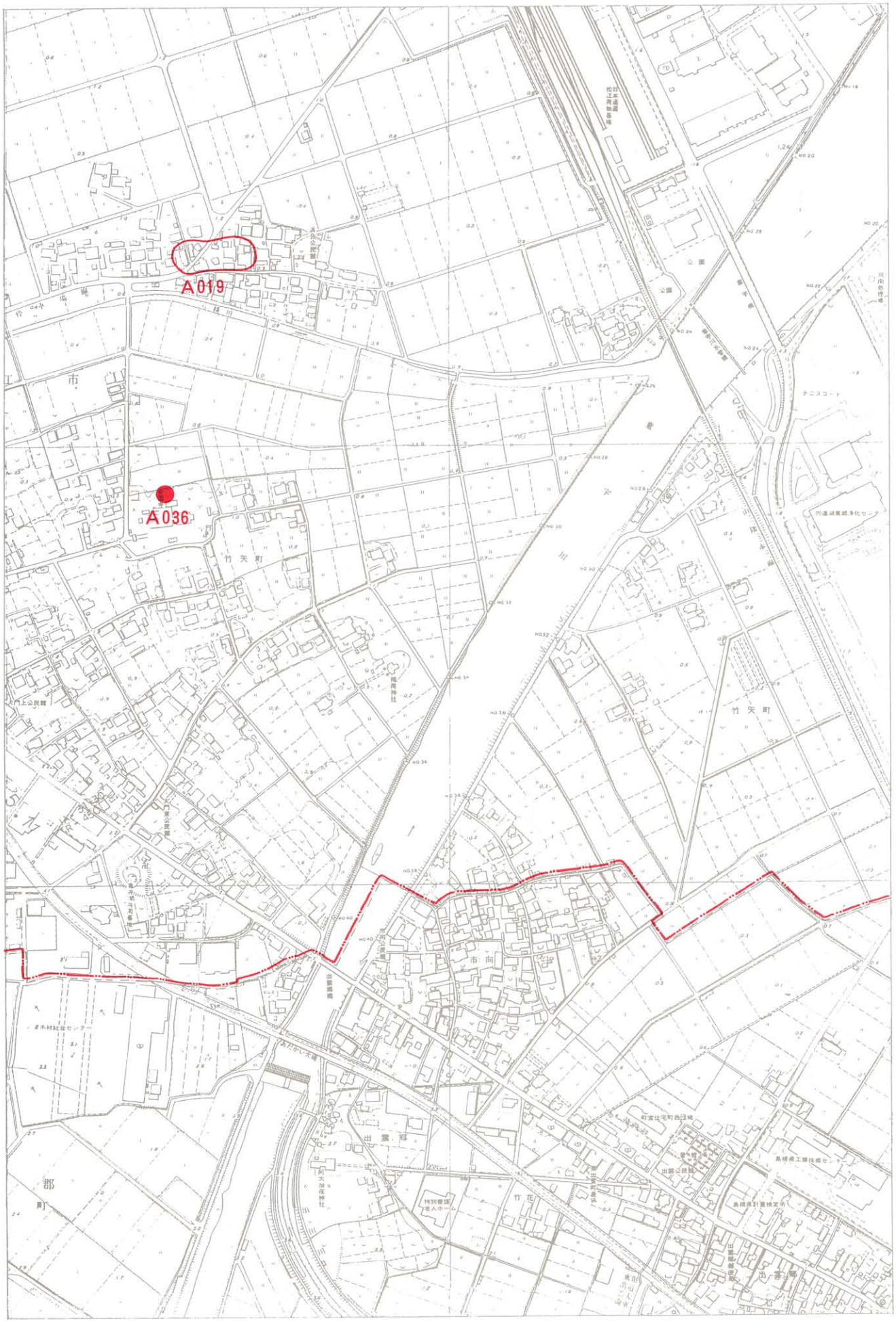


S-1・A 竹矢（八幡町）

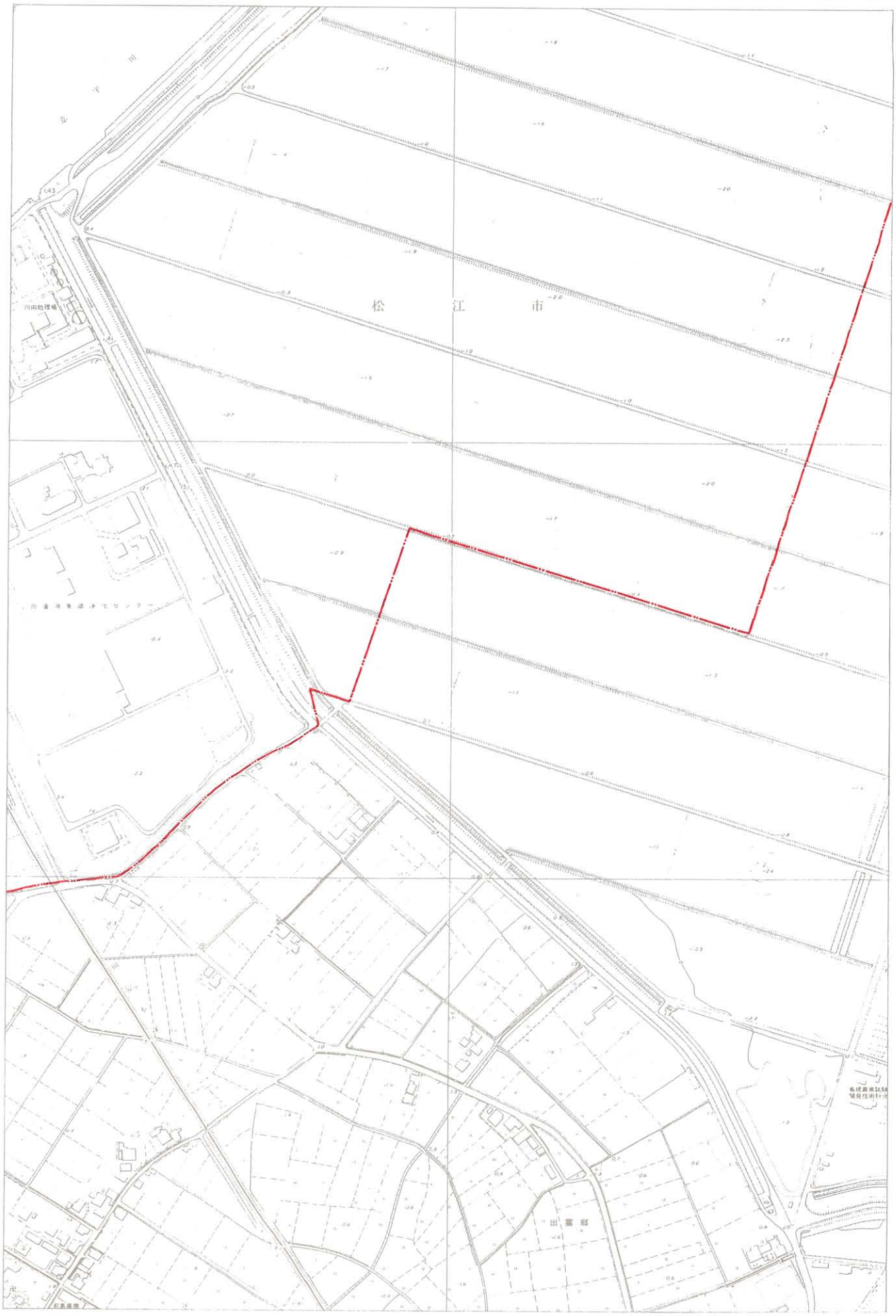

江市
松江港
大橋川
A030
富士見町
(建設中)
日通松江運輸
松江センター
コスモ石油松江油槽所
佐々木建設
中島運輸工業
石油資源開発松江管理所
東松江駅
大成プレス松江支社
中元クリーニング松江工場
駐車場
島根トヨタ
日交興産
八幡宮公園
高良神社
東邦LPガス保安センター
八幡町郵便局
八幡消防署
八幡地区公民館
八幡地区ゴミ集積所
八幡地区LPガス
八幡工業
八幡ポンプ場
八幡地区ゴミ集積所
八幡地区ゴミ集積所
松江工業
松江センター野球場

S-2・A 竹矢（富士見町）

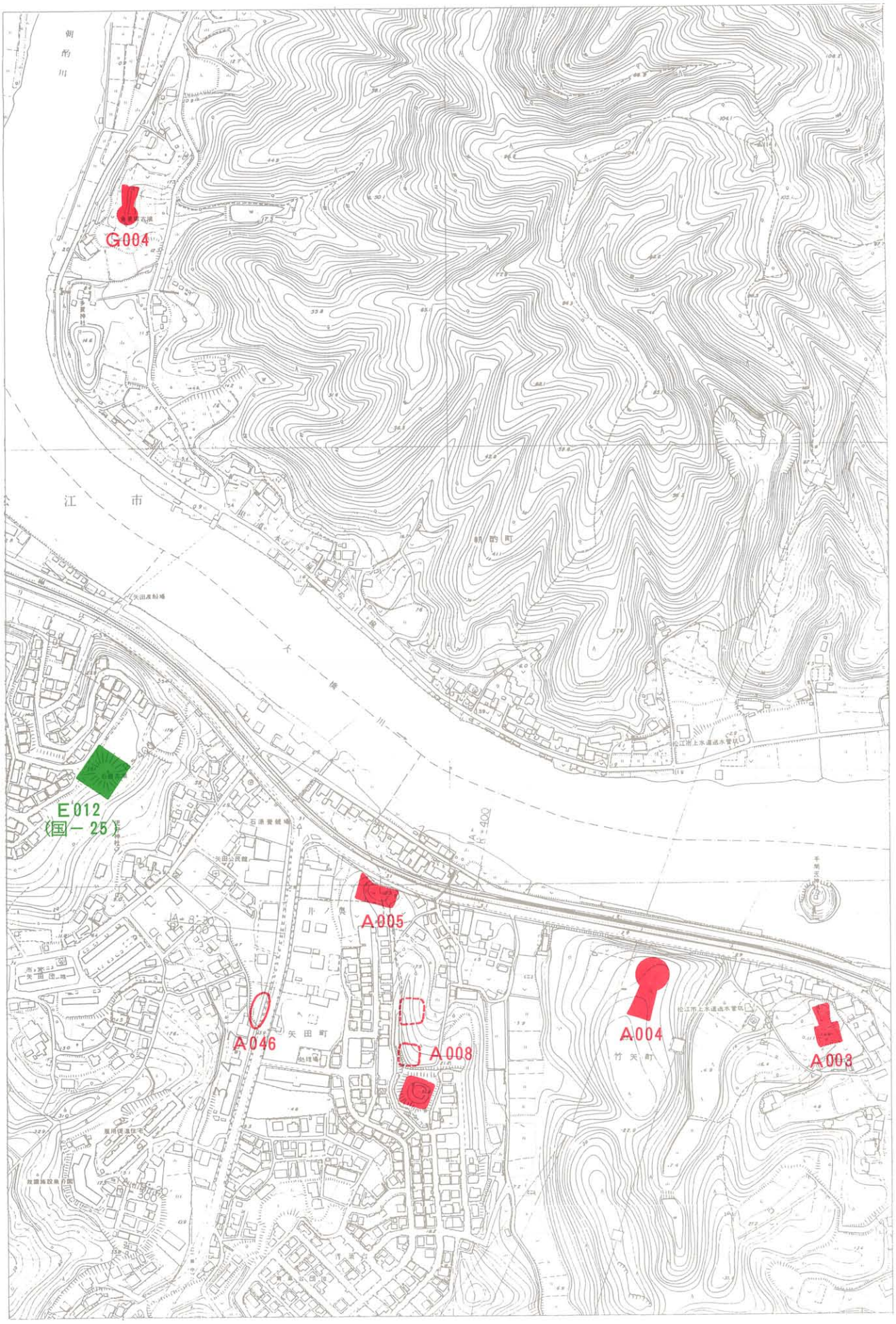
S-3・A 竹矢（八幡町）



S-4・A 竹矢（八幡町）

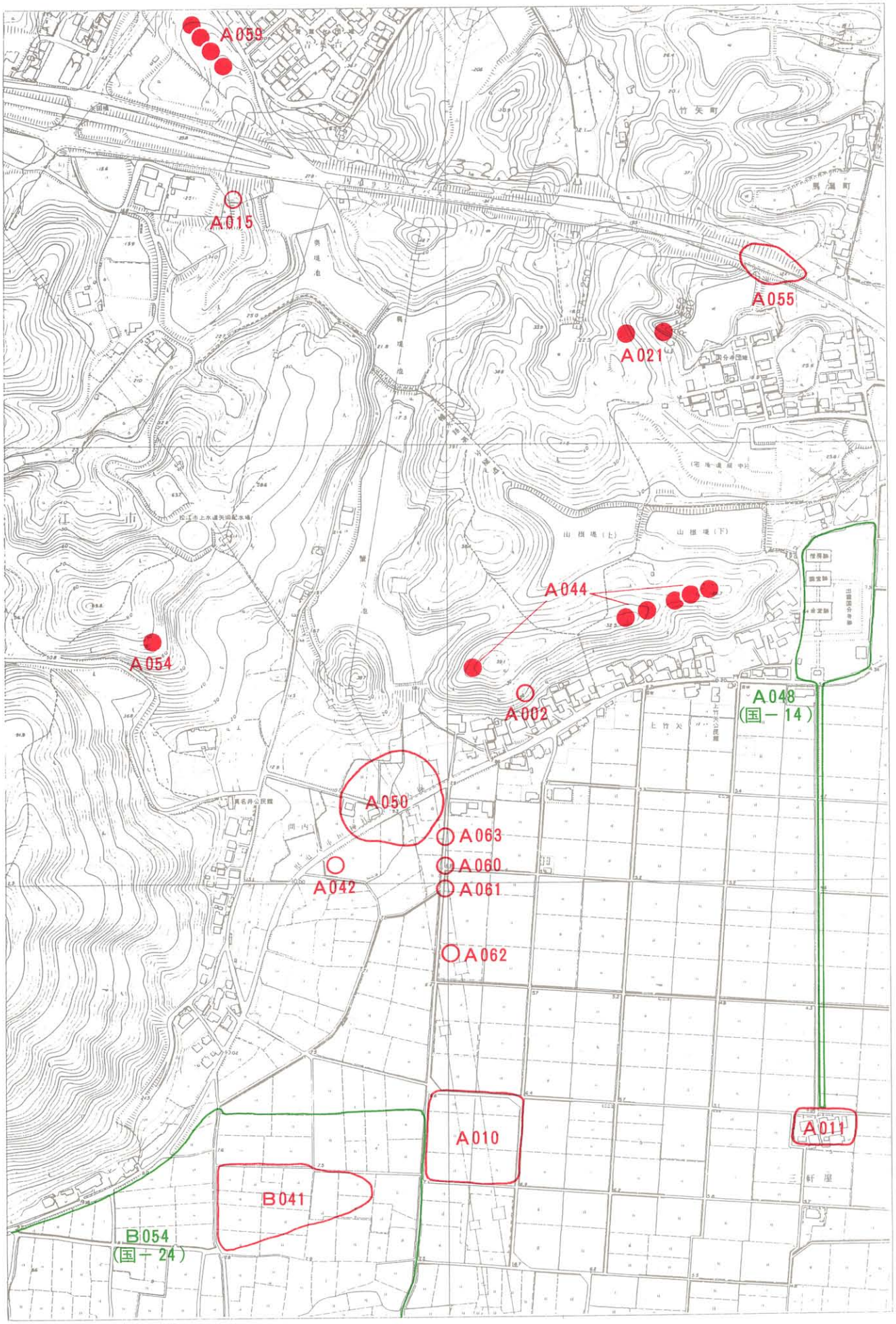


S-5・A 竹矢（矢田町、竹矢町、朝酌町）

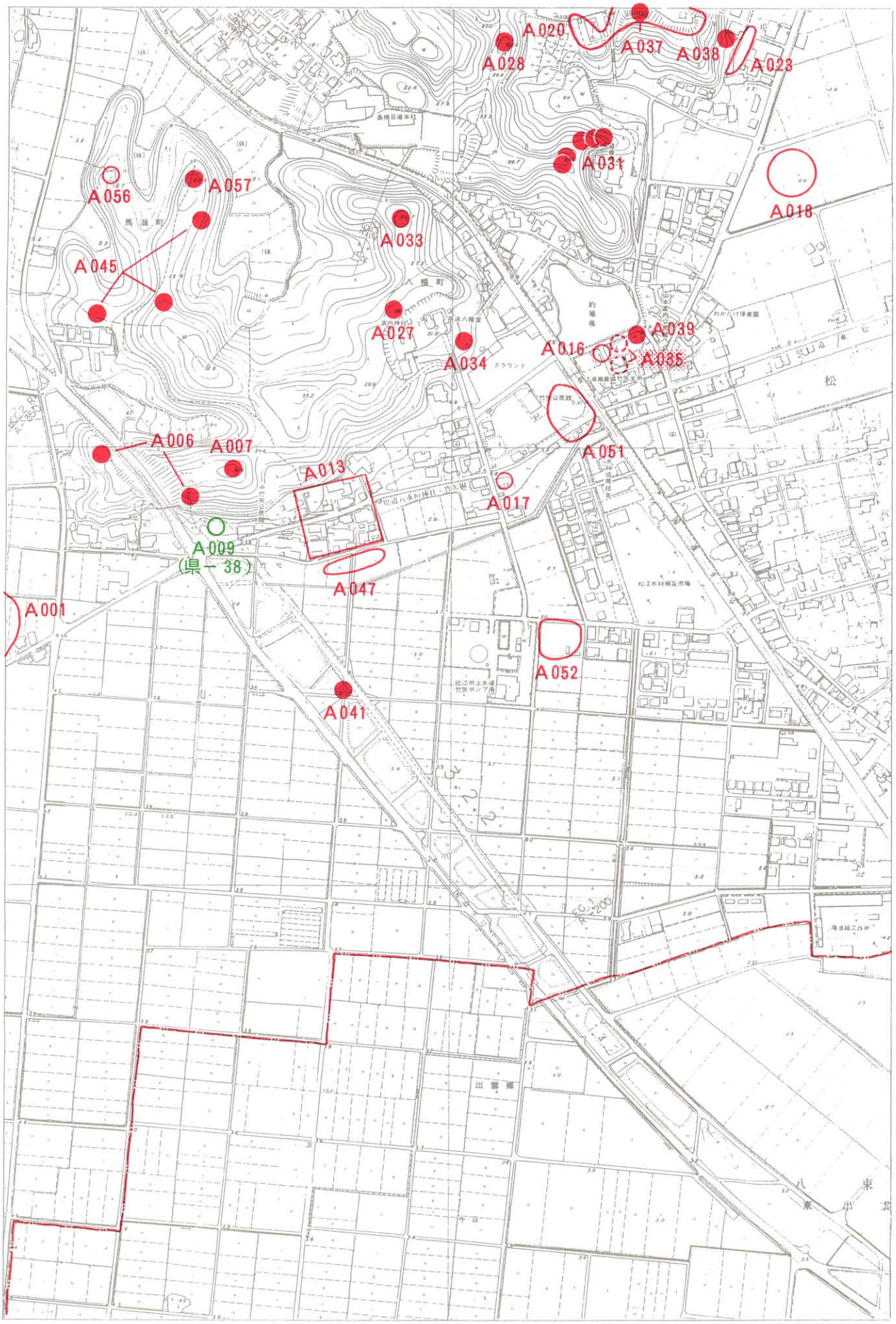


S-6・A 竹矢（馬潟町、福富町）

S-7・A 竹矢(竹矢町)

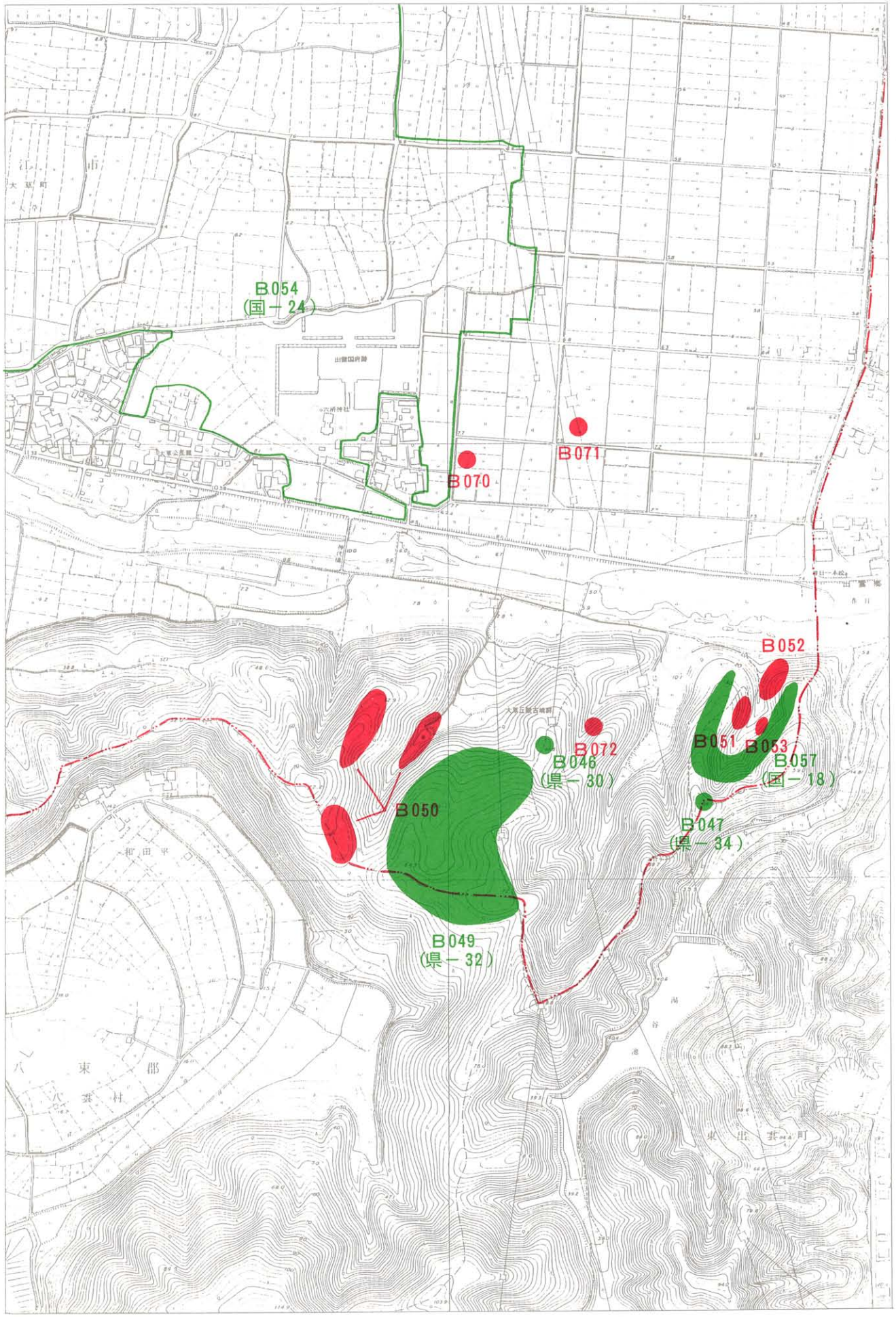

A059
A015
A055
A021
A044
A054
A002
A048
(国－14)
A050
A063
A060
A042
A061
A062
A010
A011
B041
B054
(国－24)
竹矢町
山根堤(上)
山根堤(下)
上竹矢
三軒屋

S-8・A 竹矢（馬潟町、竹矢町、八幡町）



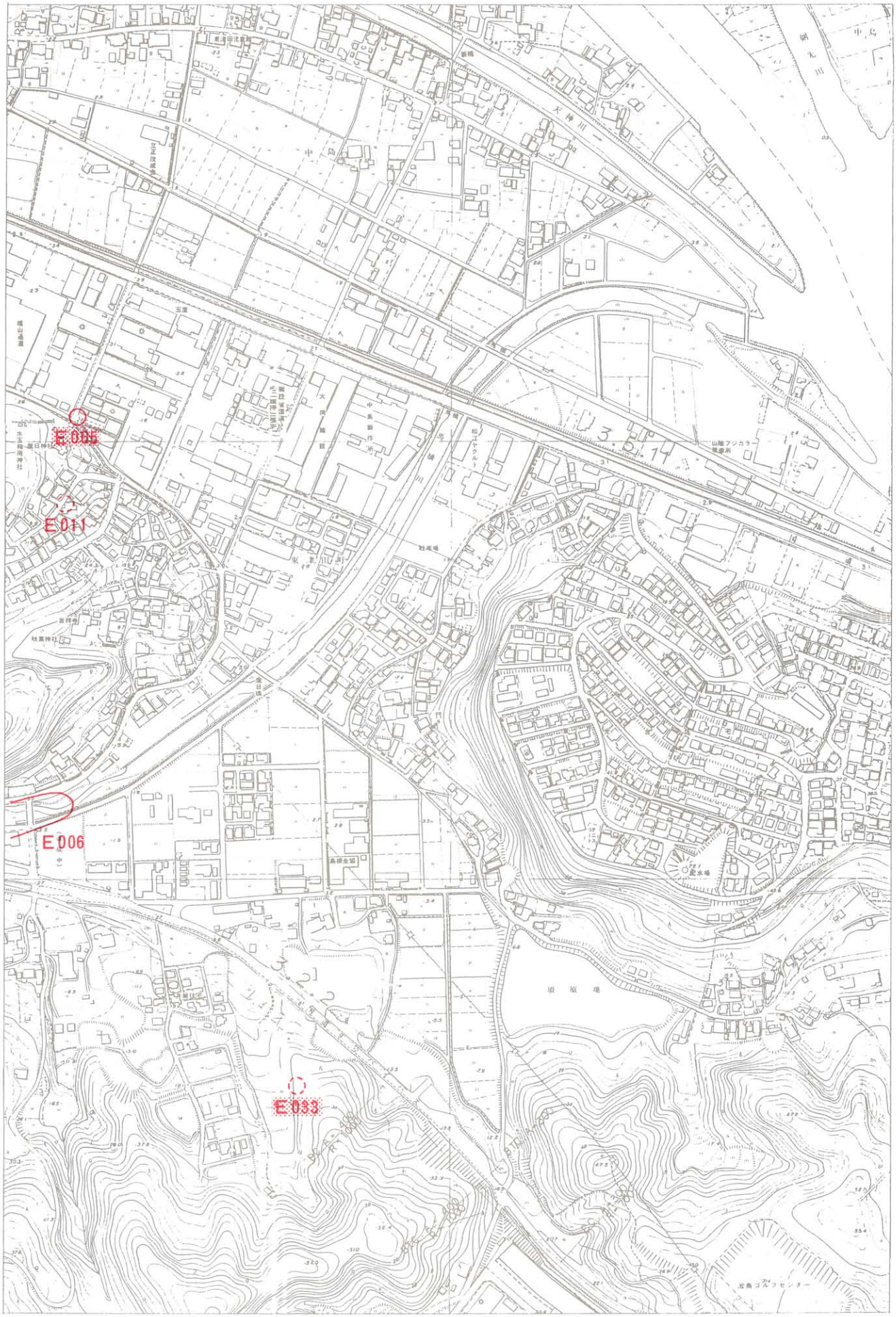
S-9・E 津田（東津田町）
S-9・G 朝酌（西尾町）

S-10・A 竹矢（竹矢町）

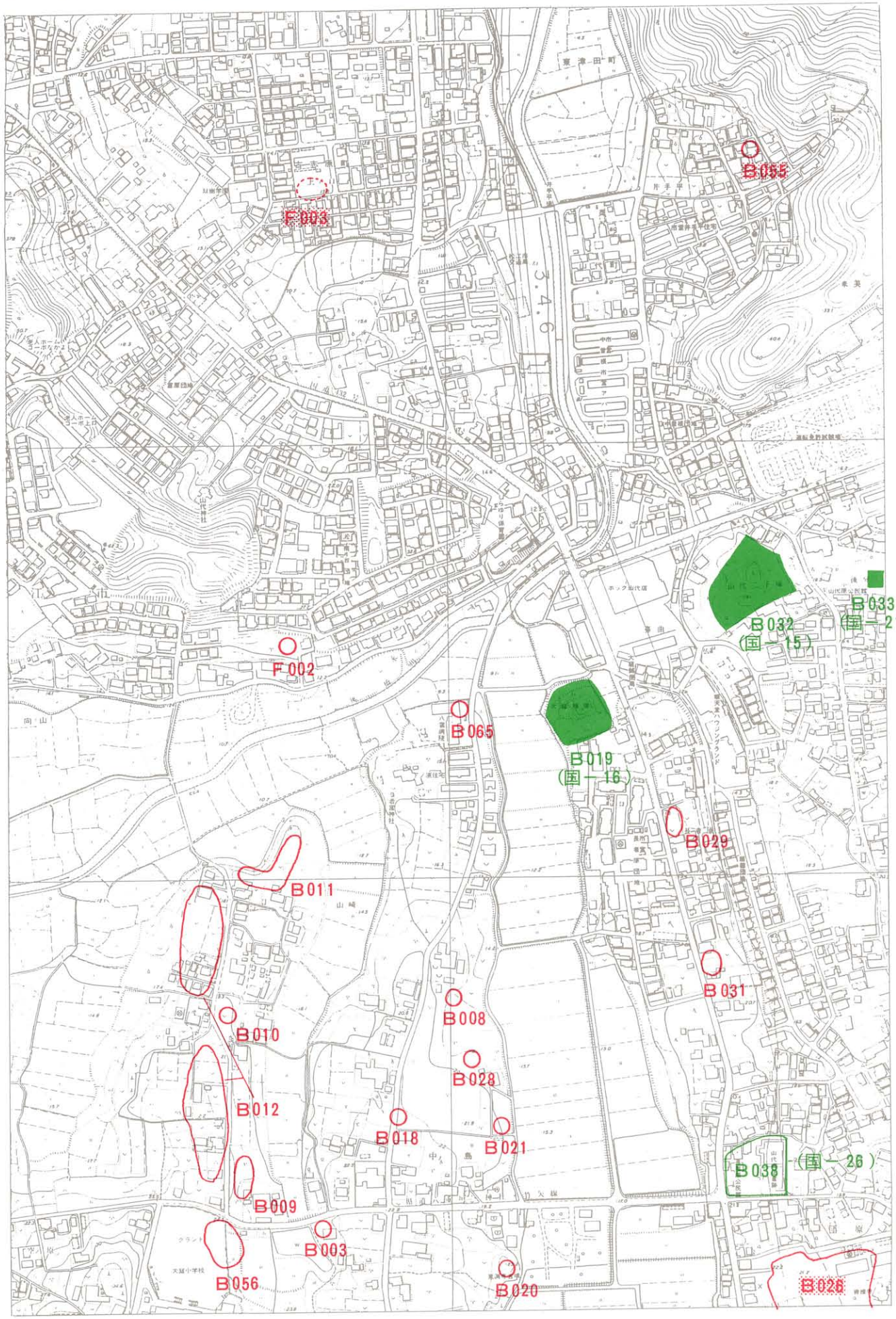

B054
（国－24）
B071
B070
B052
B072
B046
（県－30）
B051
B053
B057
（国－18）
B050
B047
（県－34）
B049
（県－32）

S-11・E 西津田（西津田町、東津田町、古志原町）

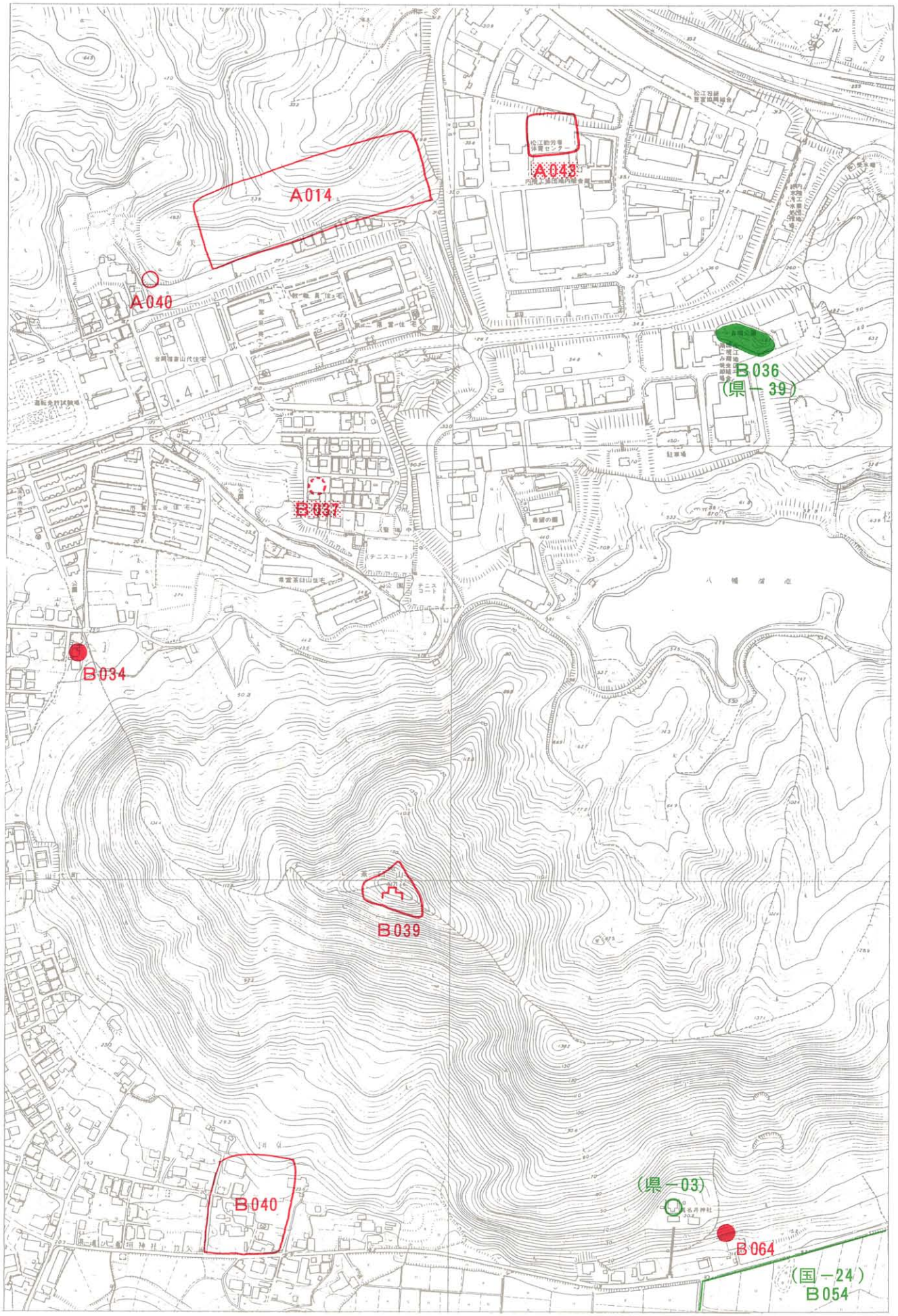
S-12・E 津田（東津田町）



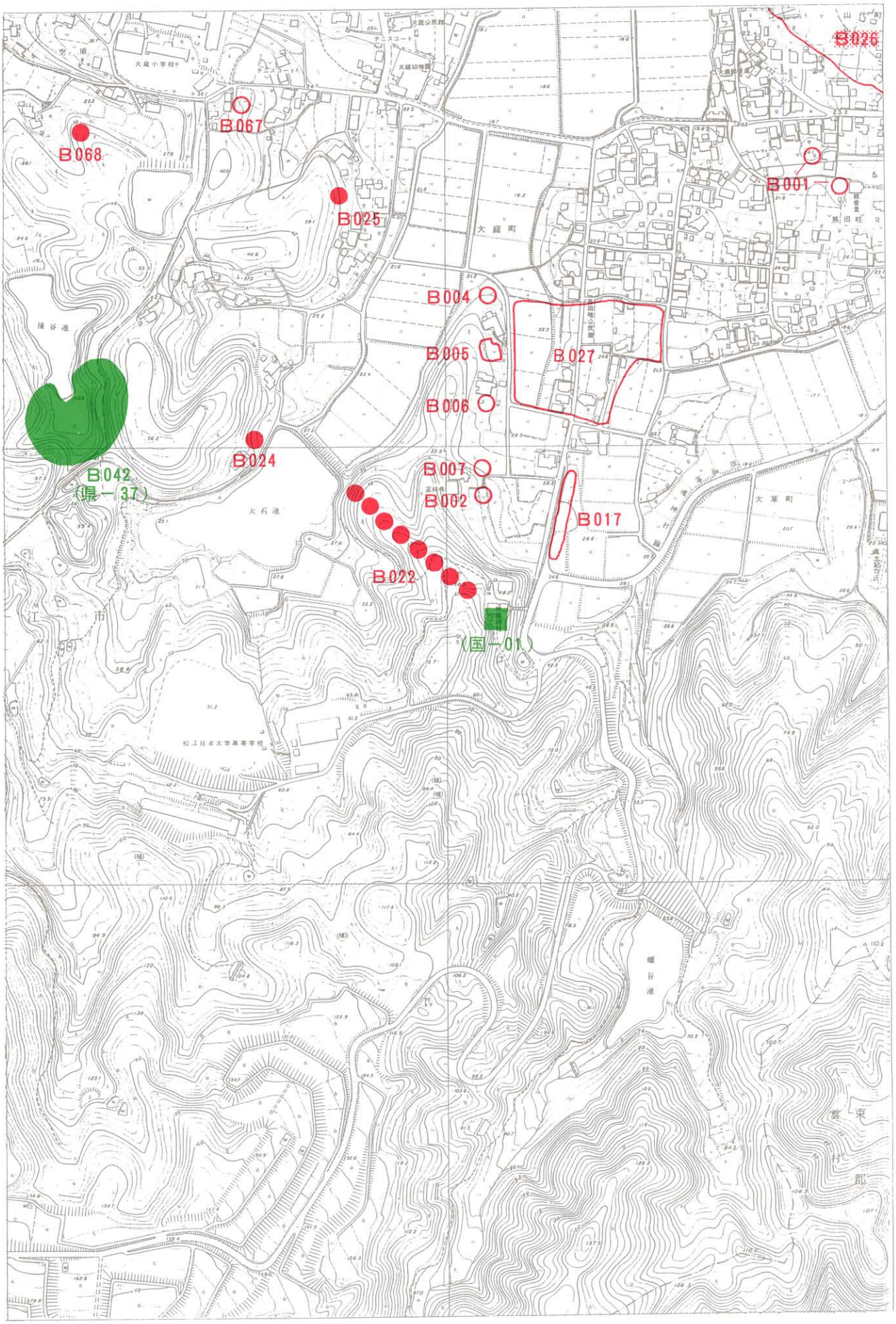
S-13・S 古志原（古志原町、大庭町、山代町）



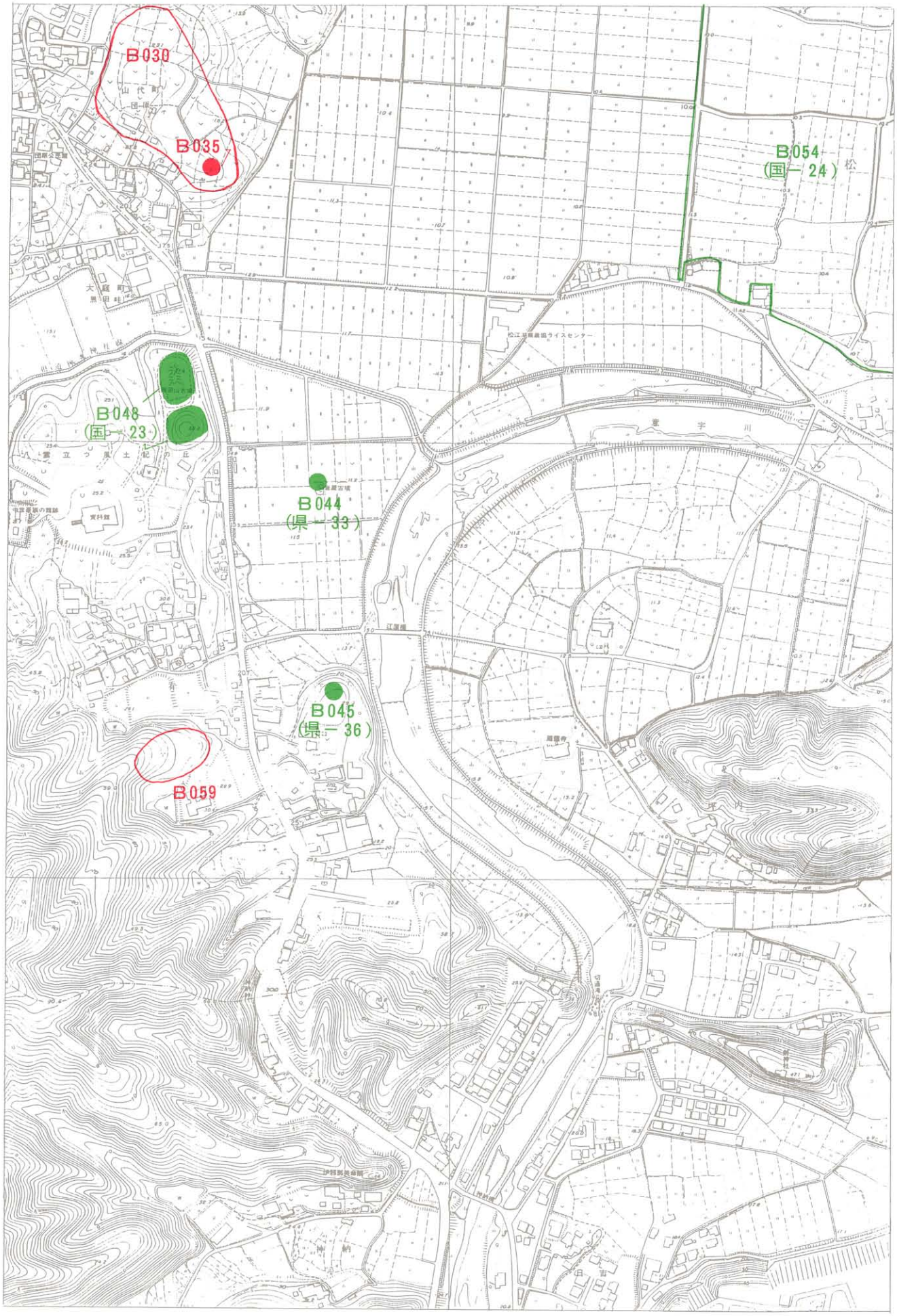
S-14・S 大庭（山代町）
S-14・A 竹矢（矢田町）



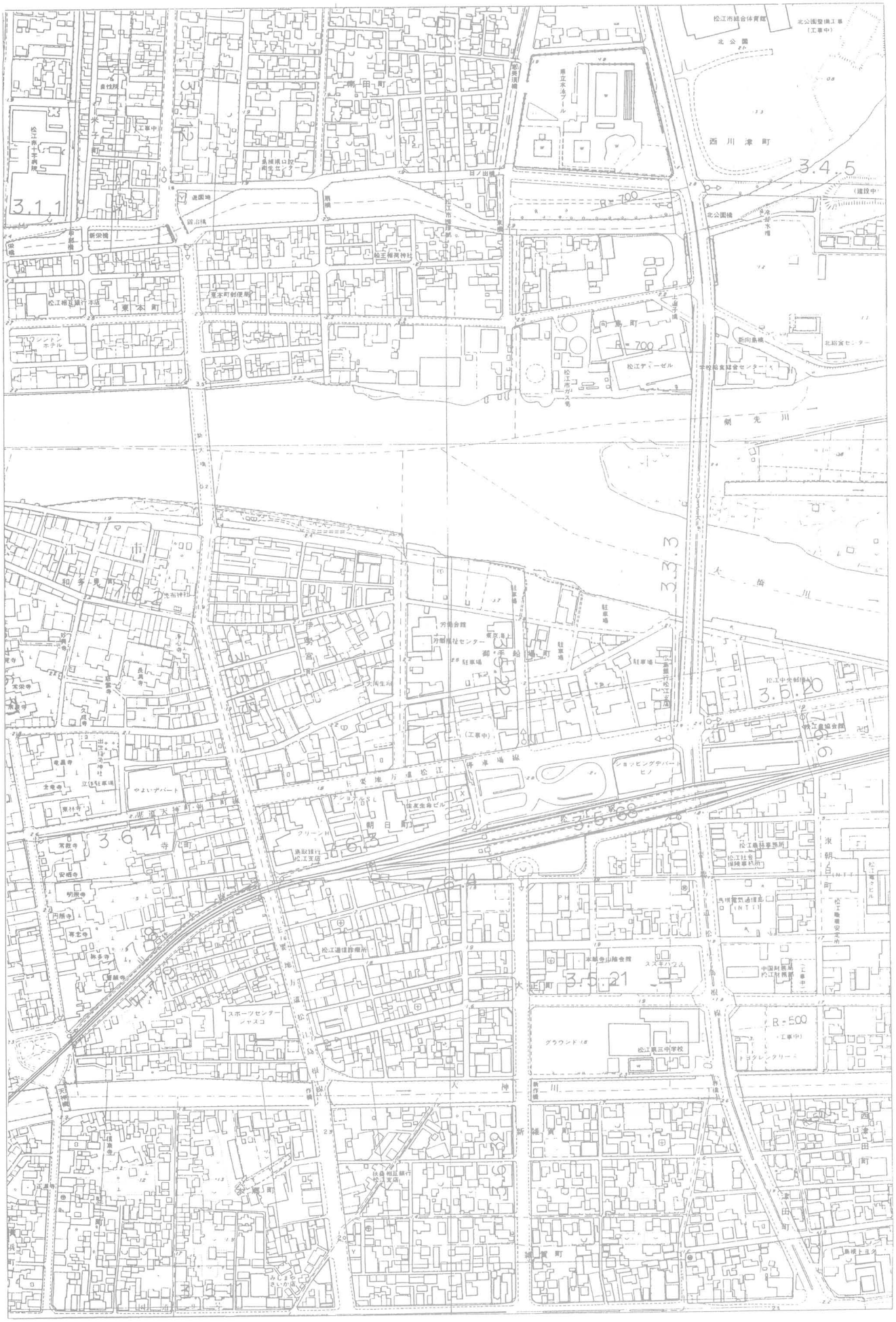
S-15・B 大庭（大庭町、大草町）



S-16・B 大庭（大庭町、大草町）



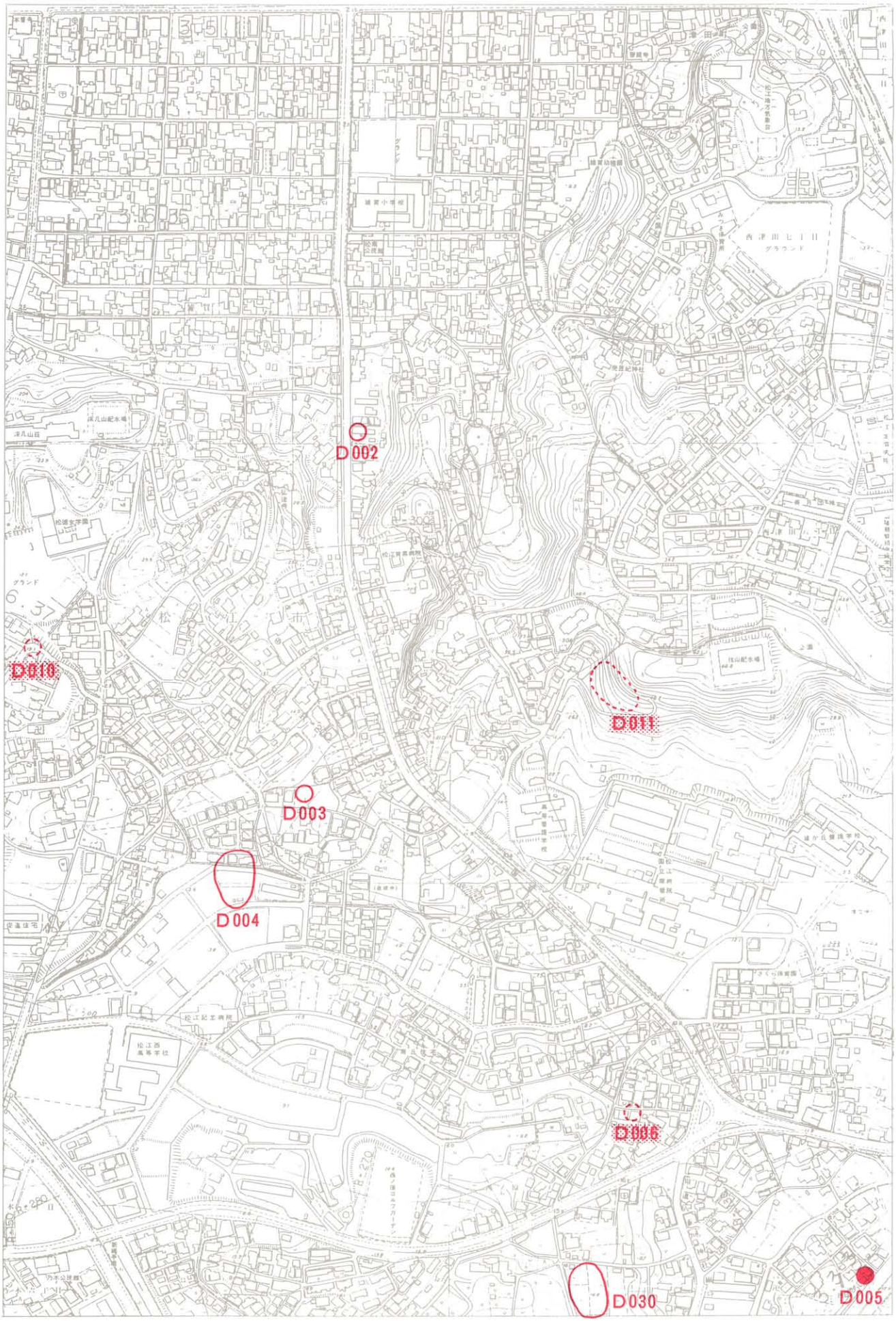
S-17・P 旧市街



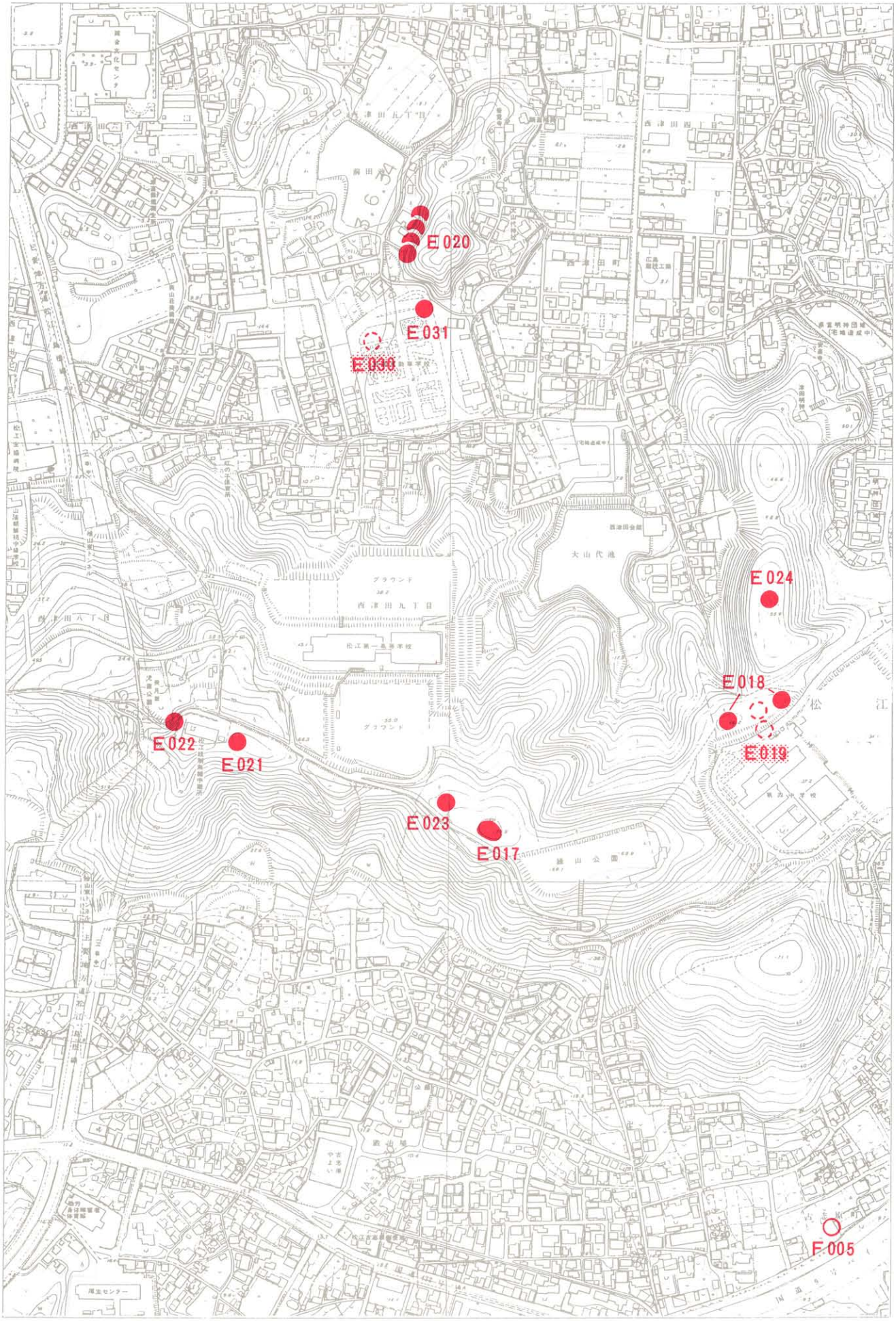
3.1.1
3.4.5
3.3.3
3.5.20
3.5.68
3.5.21
3.6.14
3.6.3
3.6.4
3.6.6
3.7.9
3.9.11
R=700
R=500
北公園
西川津町
東本町
向島町
朝日町
大橋川

S-18・J 川津（西川津町、旧市街）

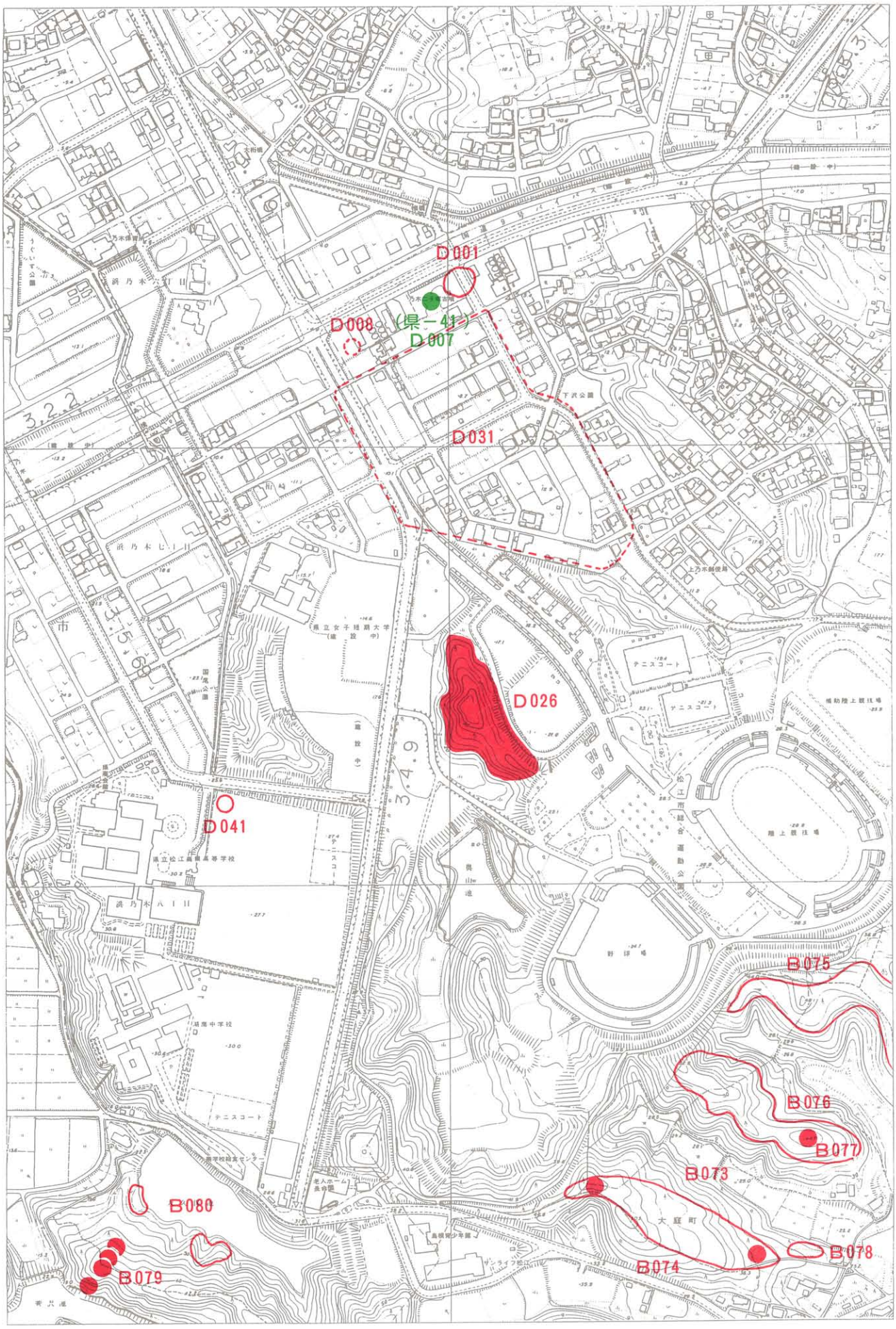
S-19・E 西津田（西津田町）
S-19・D 乃木（上乃木町）



S-20・E 津田（西津田町）

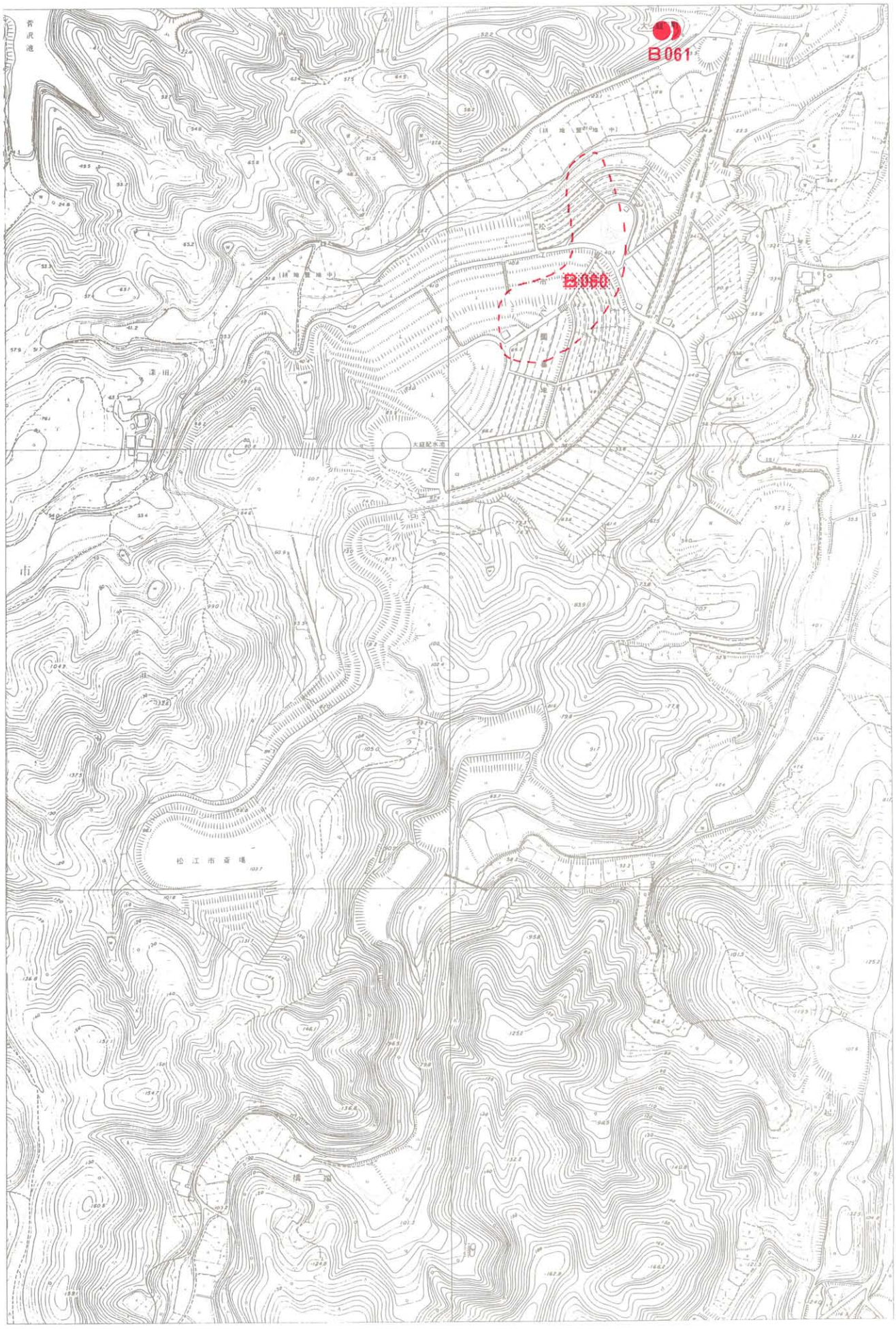

E 020
E 031
E 030
E 024
E 018
E 019
E 022
E 021
E 023
E 017
F 005
西津田町
西津田会館
大山代池
グラウンド
西津田九丁目
松江第一高等学校
松江
鹿山公園

S-21・D 乃木（上乃木町、浜乃木町）

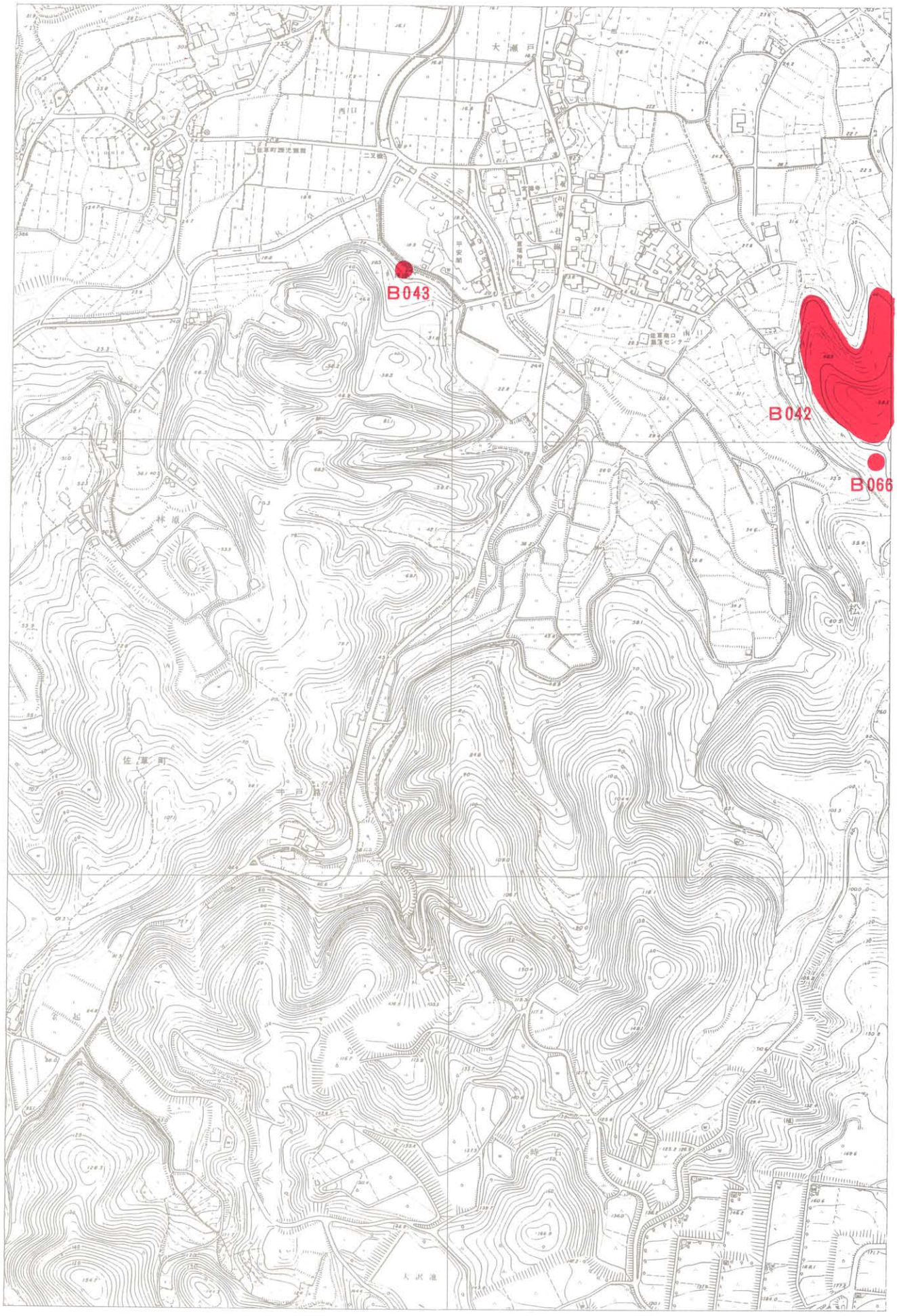


S-22・F 古志原
（上乃木町、八雲台、古志原町、大庭町）

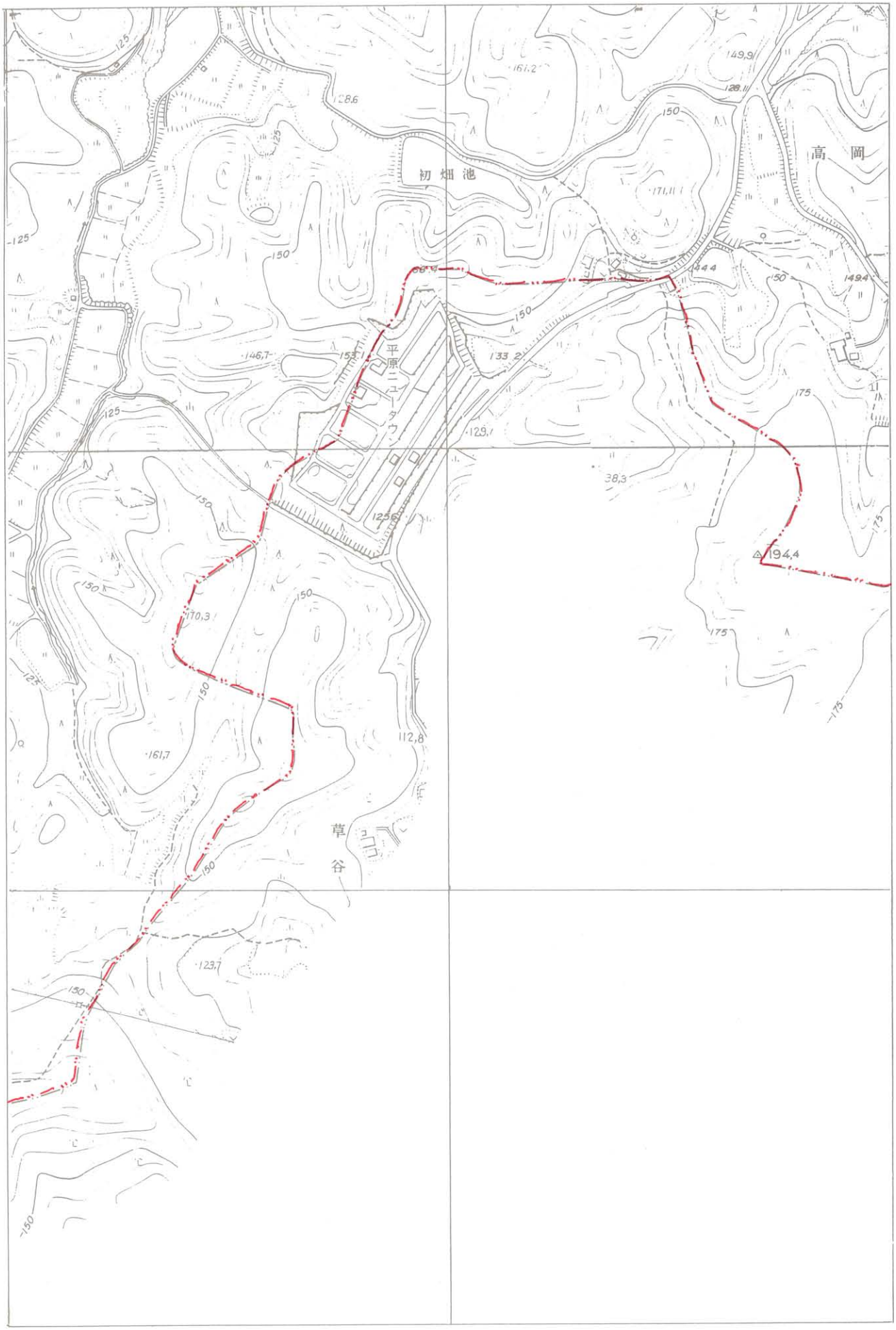
S-23・D 乃木（乃白町）
S-23・B 大庭（大庭町、佐草町）



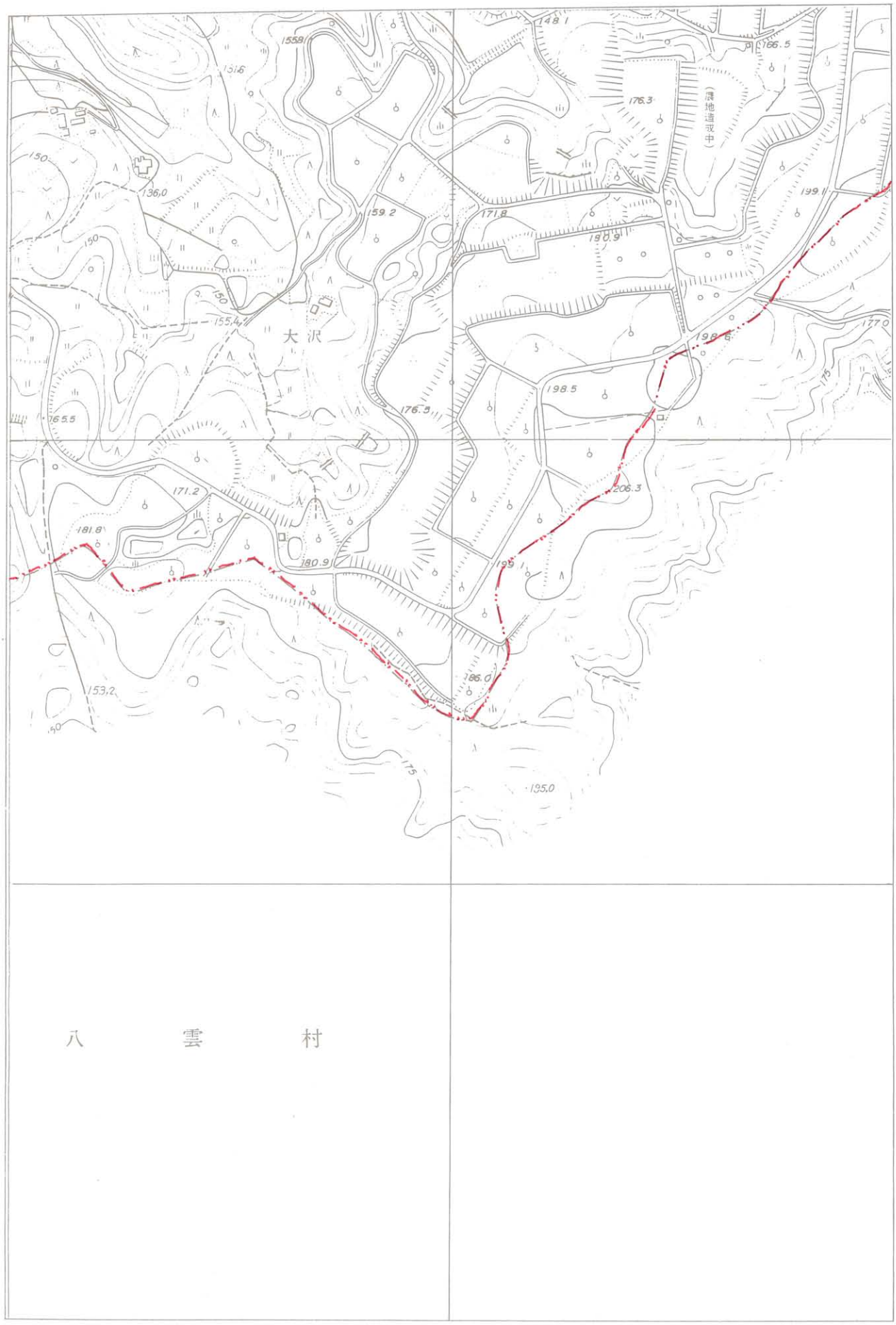
S-24・B 大庭（佐草町）



S-25・B 大庭（佐草町）



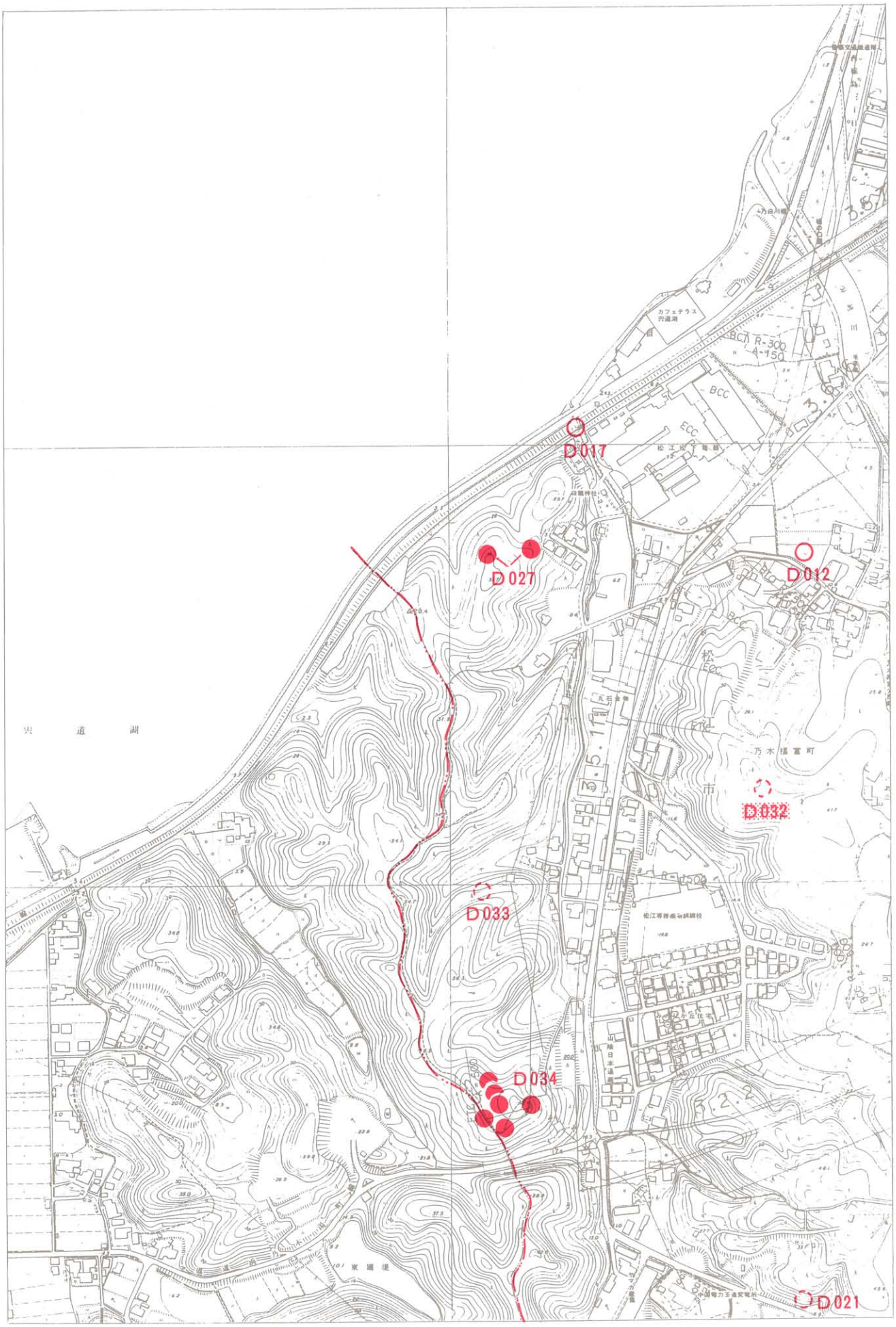
S-26・B 大庭（佐草町）


148.1
166.5
176.3
（農地造成中）
155.8
151.6
150
136.0
159.2
171.8
190.9
199.1
150
150
155.4
大沢
198.6
177.0
175
198.5
176.5
165.5
171.2
206.3
181.8
180.9
195.1
186.0
153.2
140
175
195.0
八　雲　村

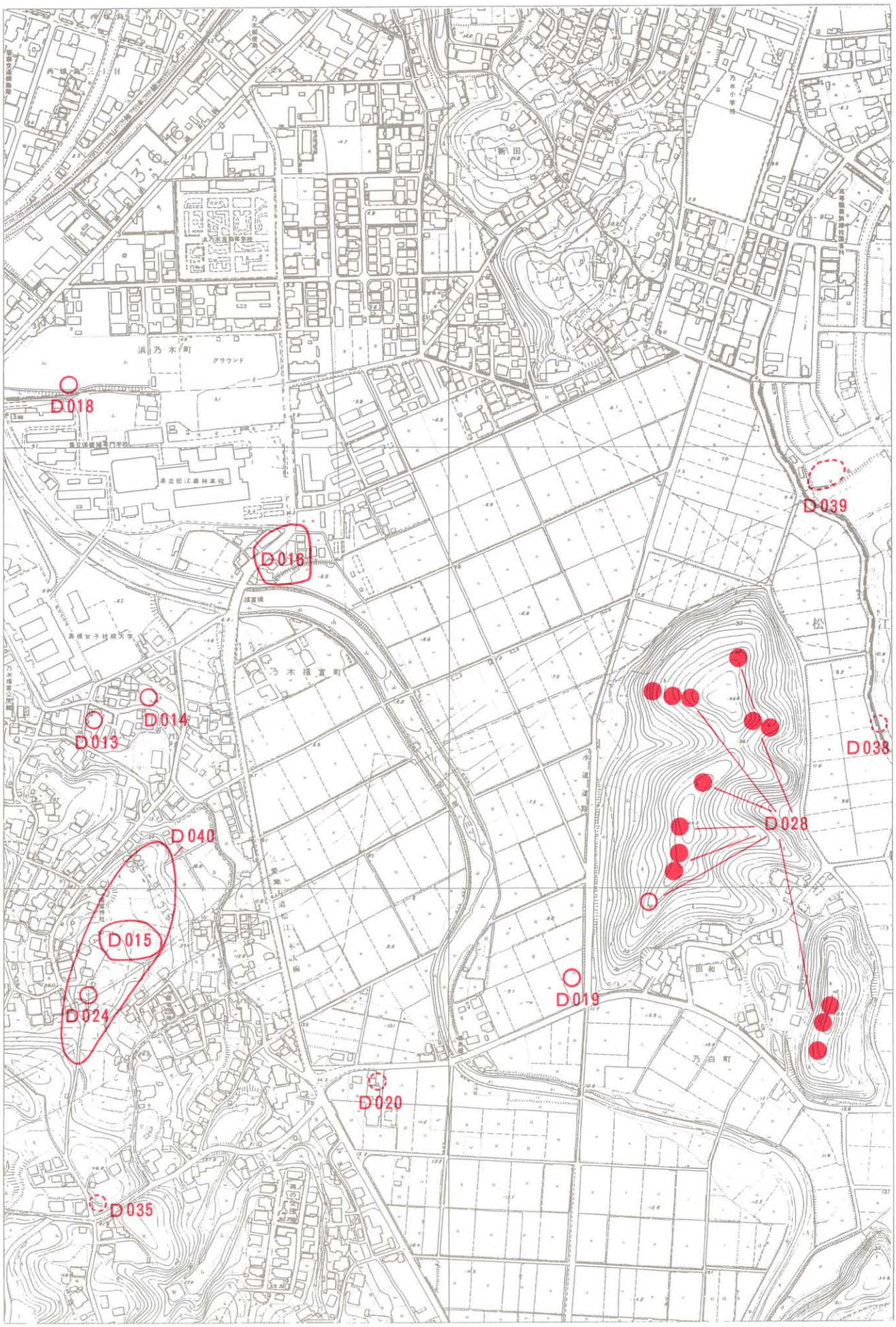
S-27・B 大庭（佐草町）

S-28・P 旧市街

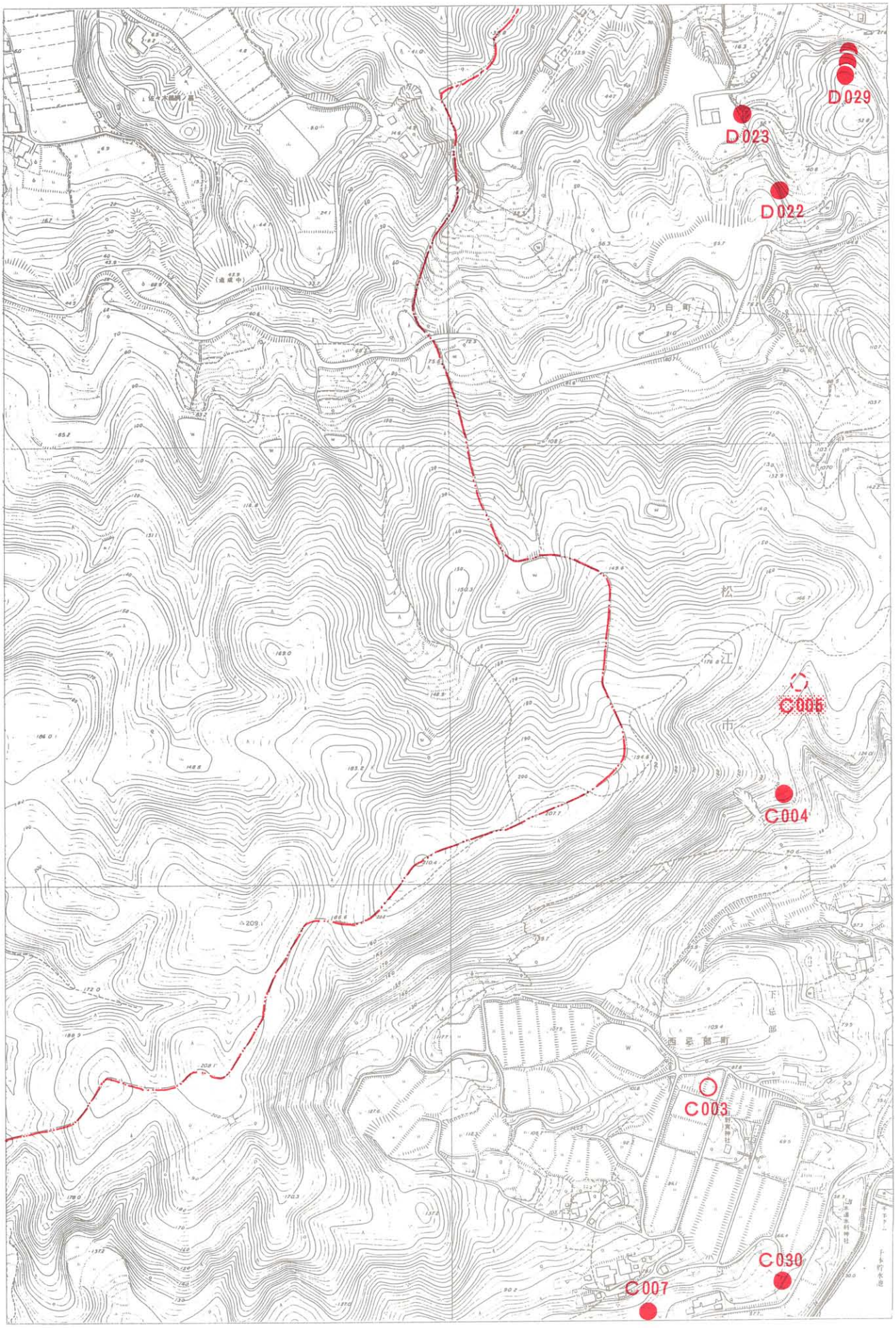
S-29・D 乃木（乃木福富町）



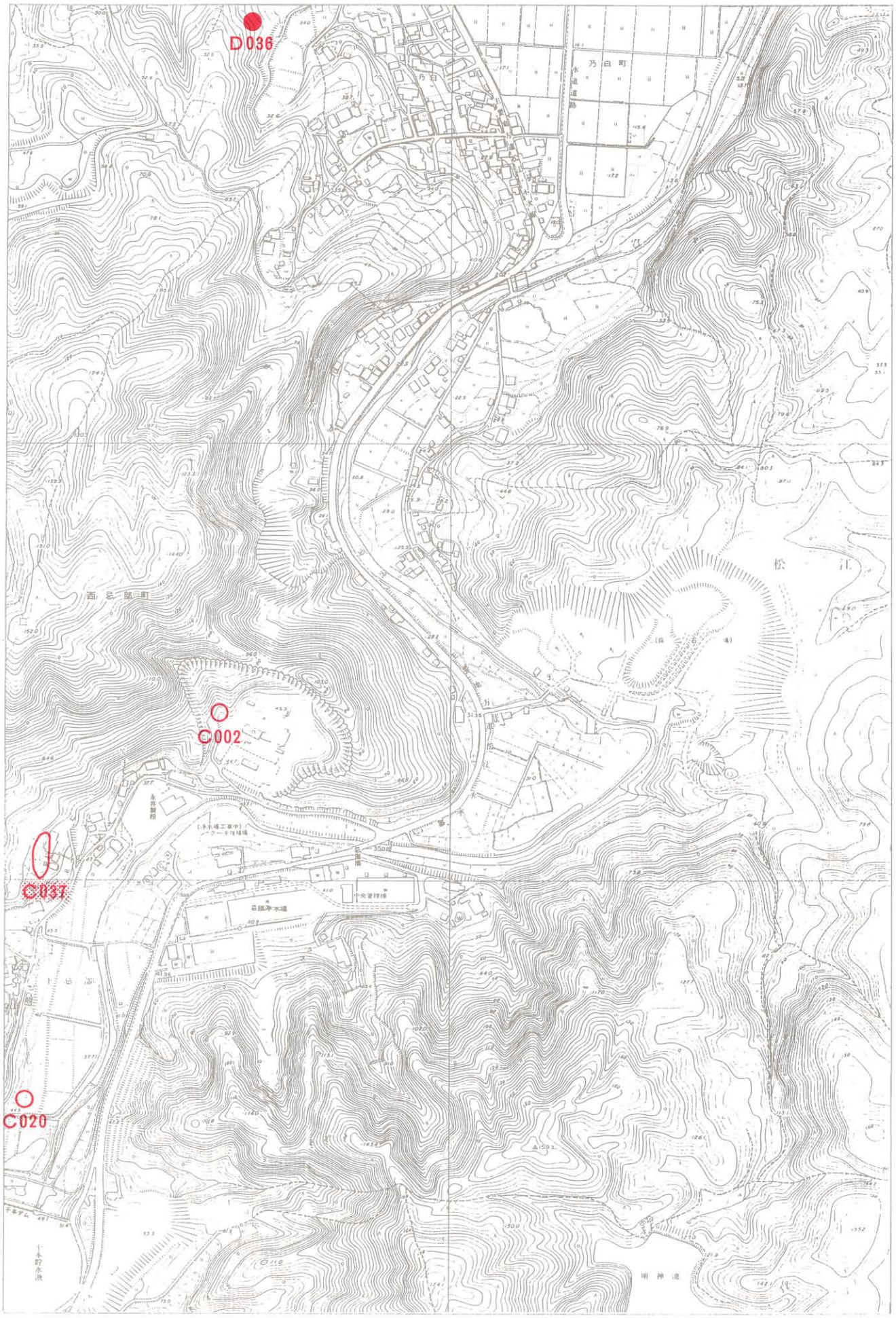
S-30・D 乃木（浜乃木町、乃白町、乃木福富町）



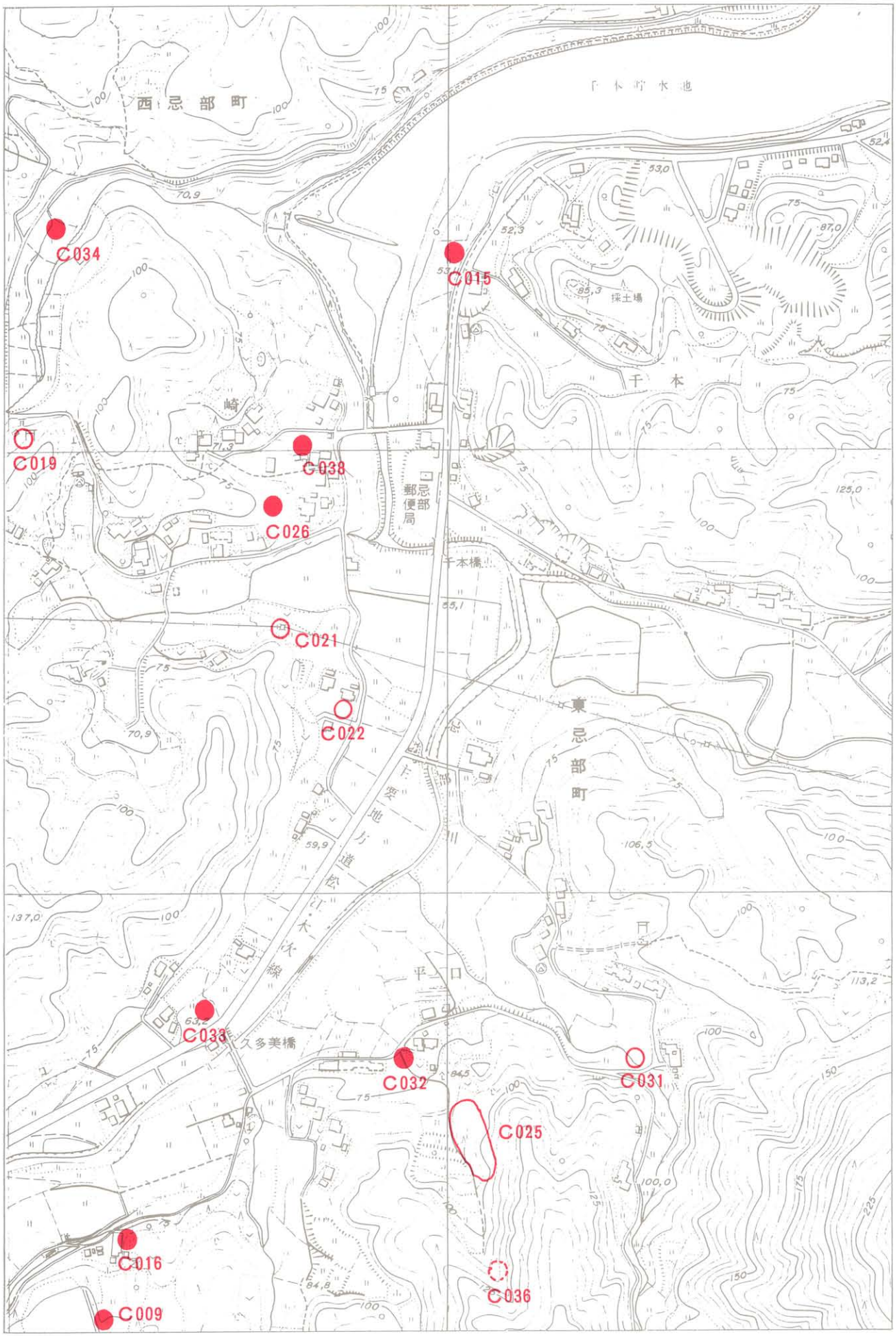
S-31・D 乃木（乃白町）
S-31・C 忌部（西忌部町）



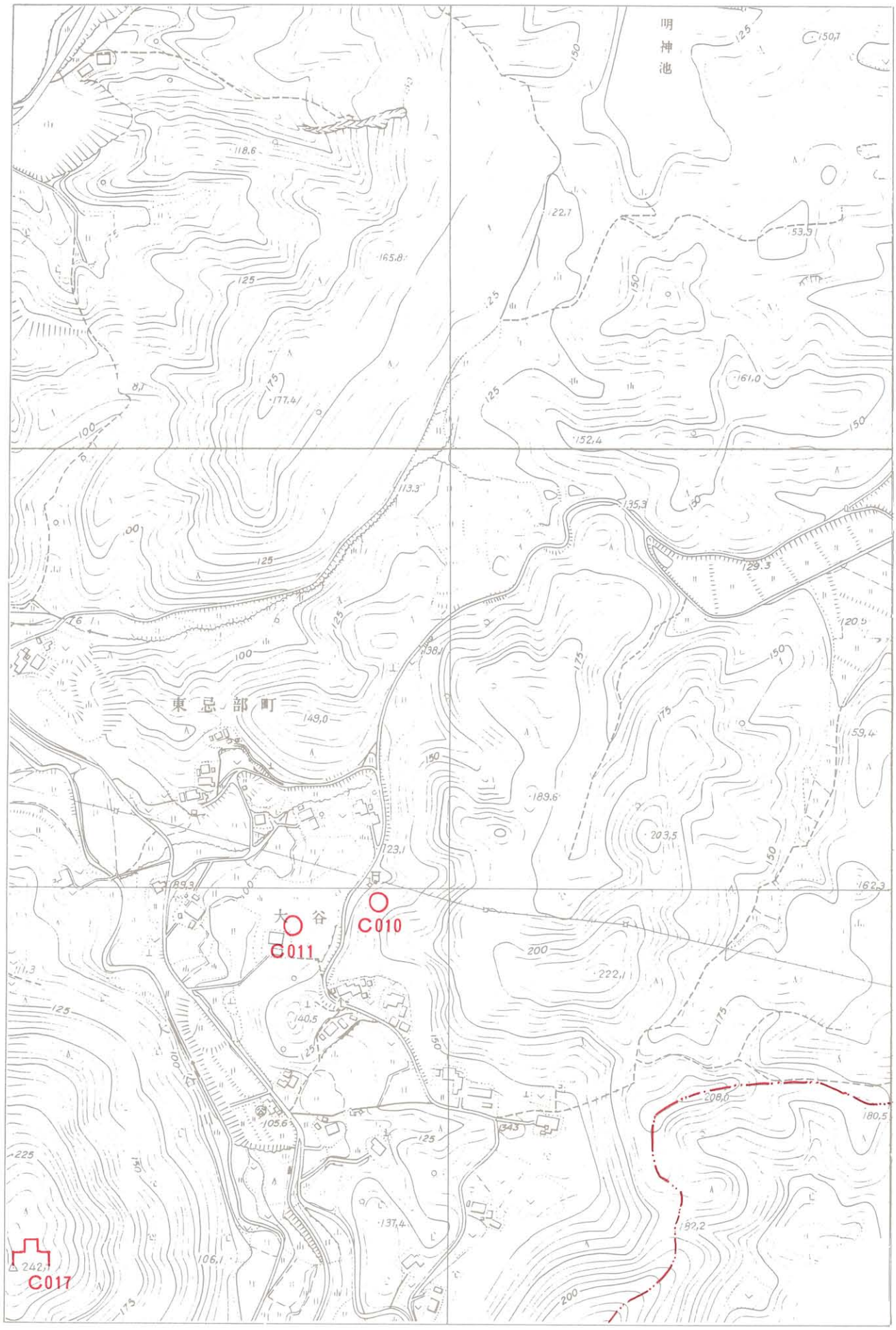
S-32・D 乃木（乃白町）
S-32・C 忌部（西忌部町、東忌部町）



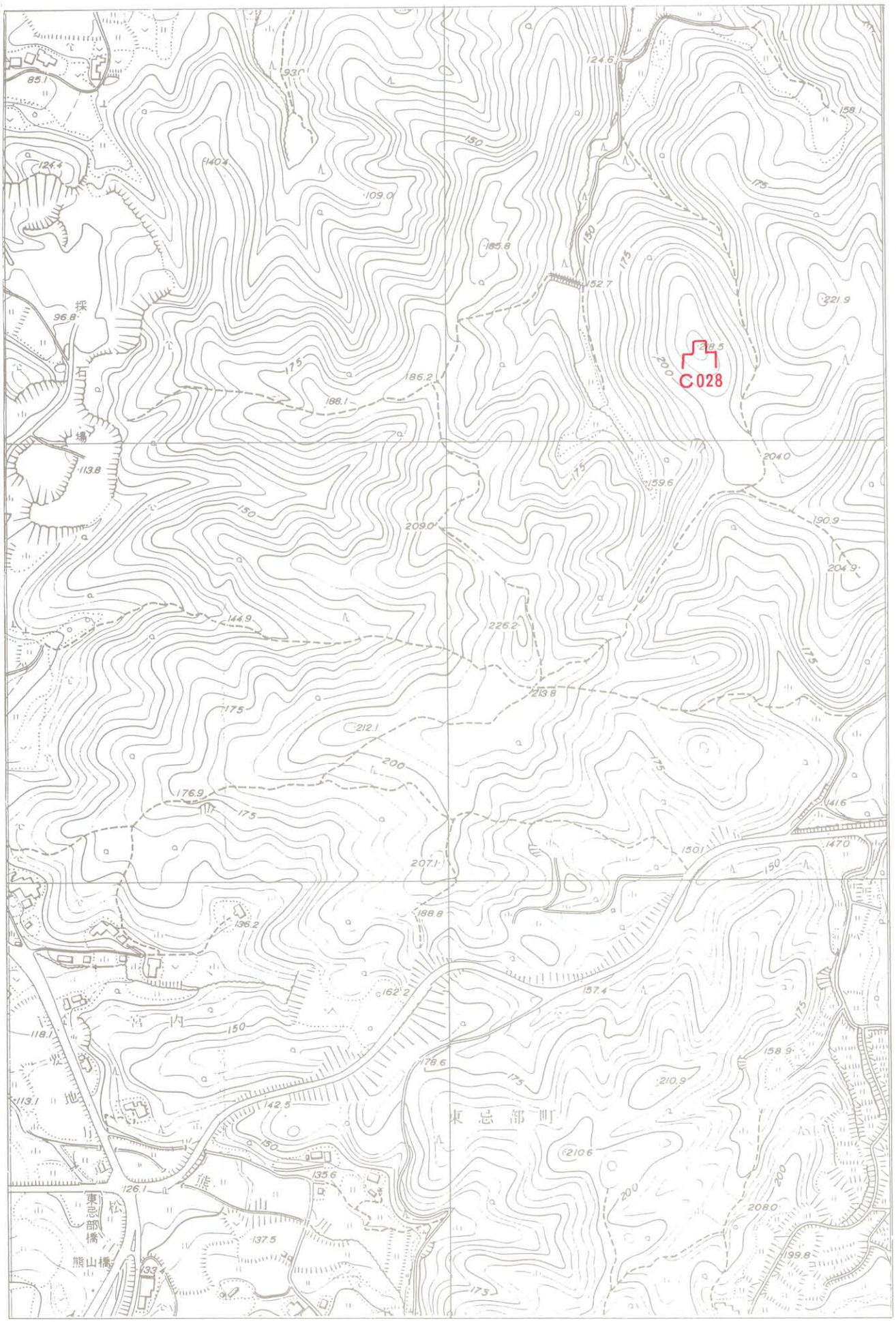
S-33・C 忌部（西忌部町、東忌部町）



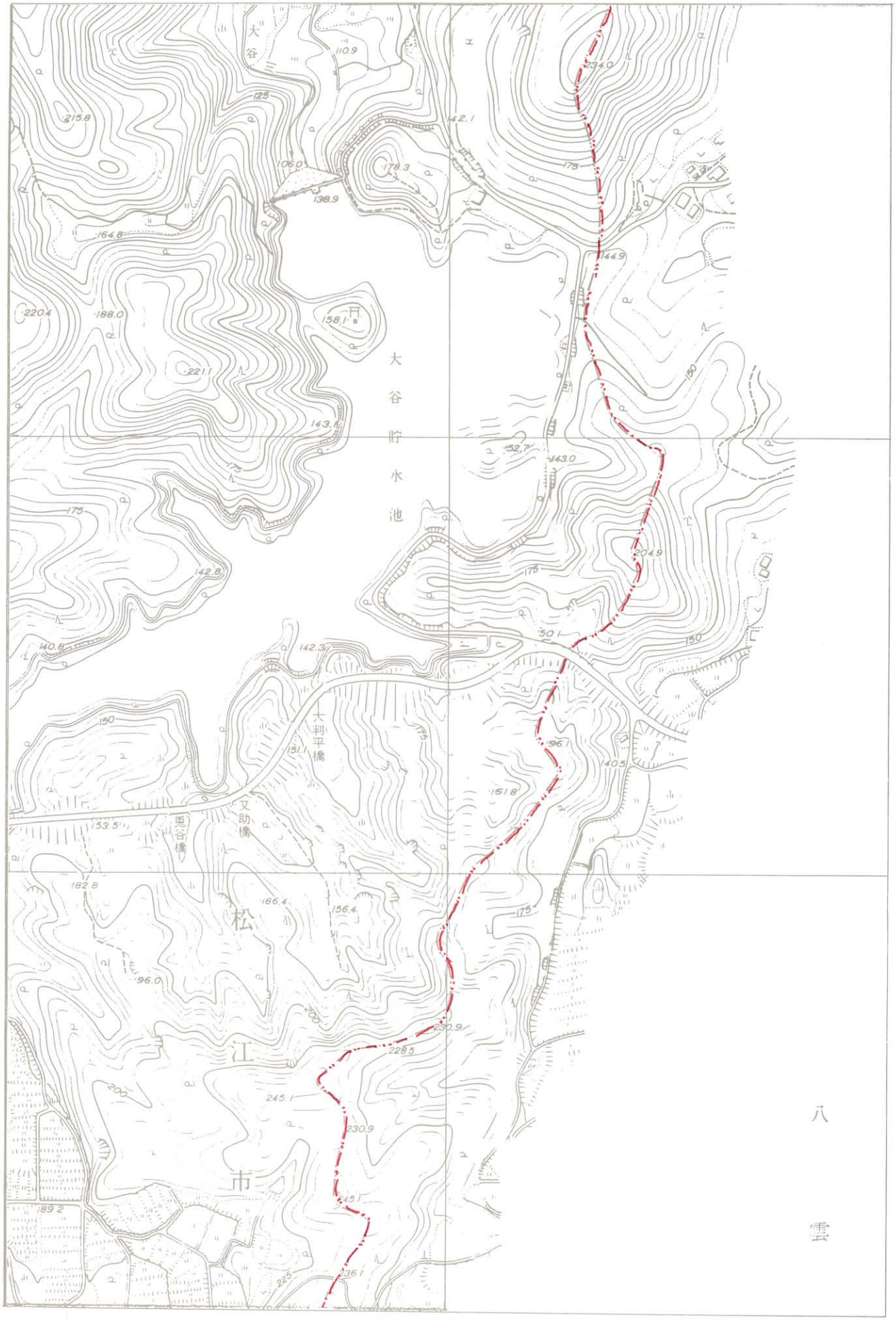
S-34・C 忌部（東忌部町）



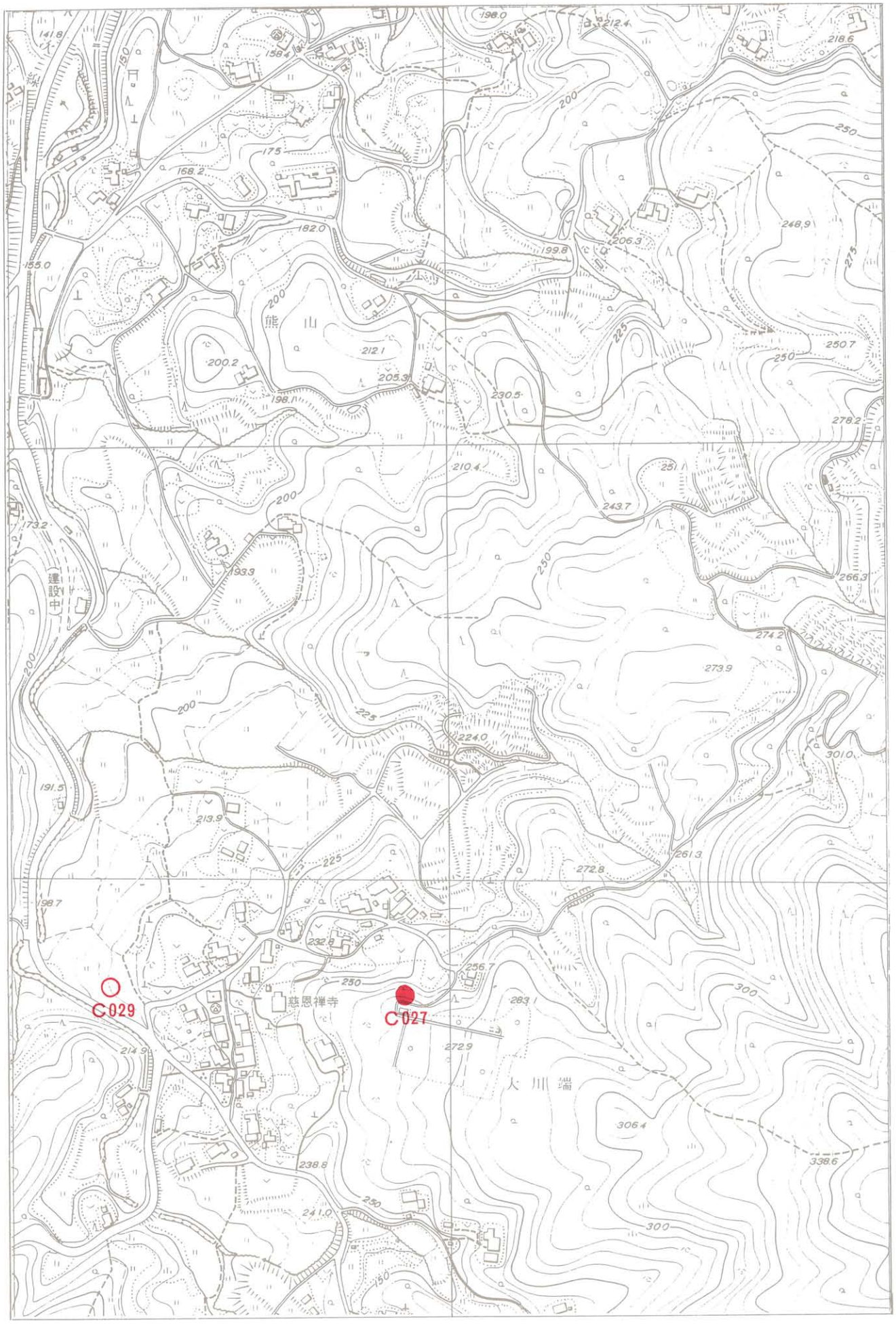
S-35・C 忌部（東忌部町）



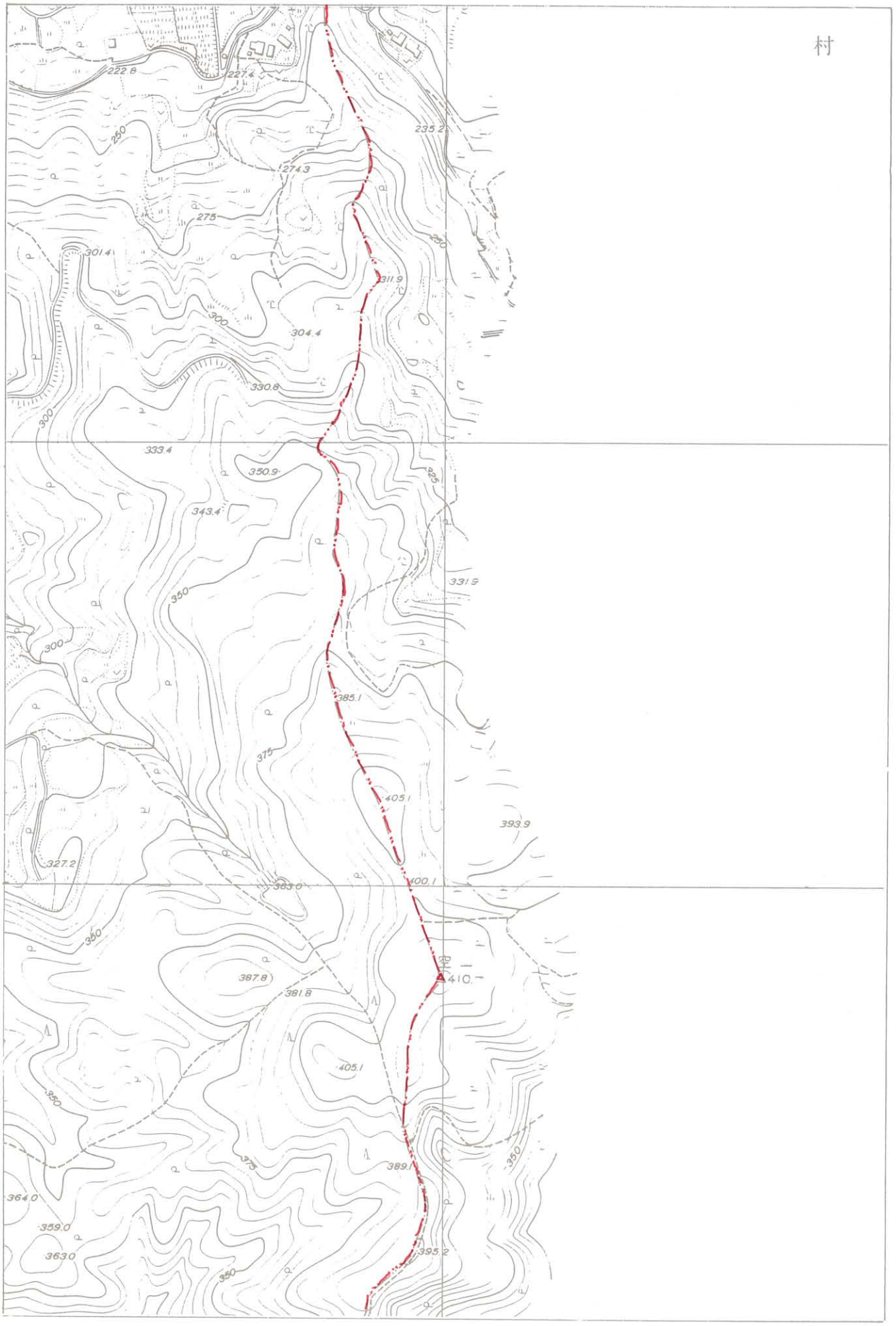
S-36・C 忌部（東忌部町）



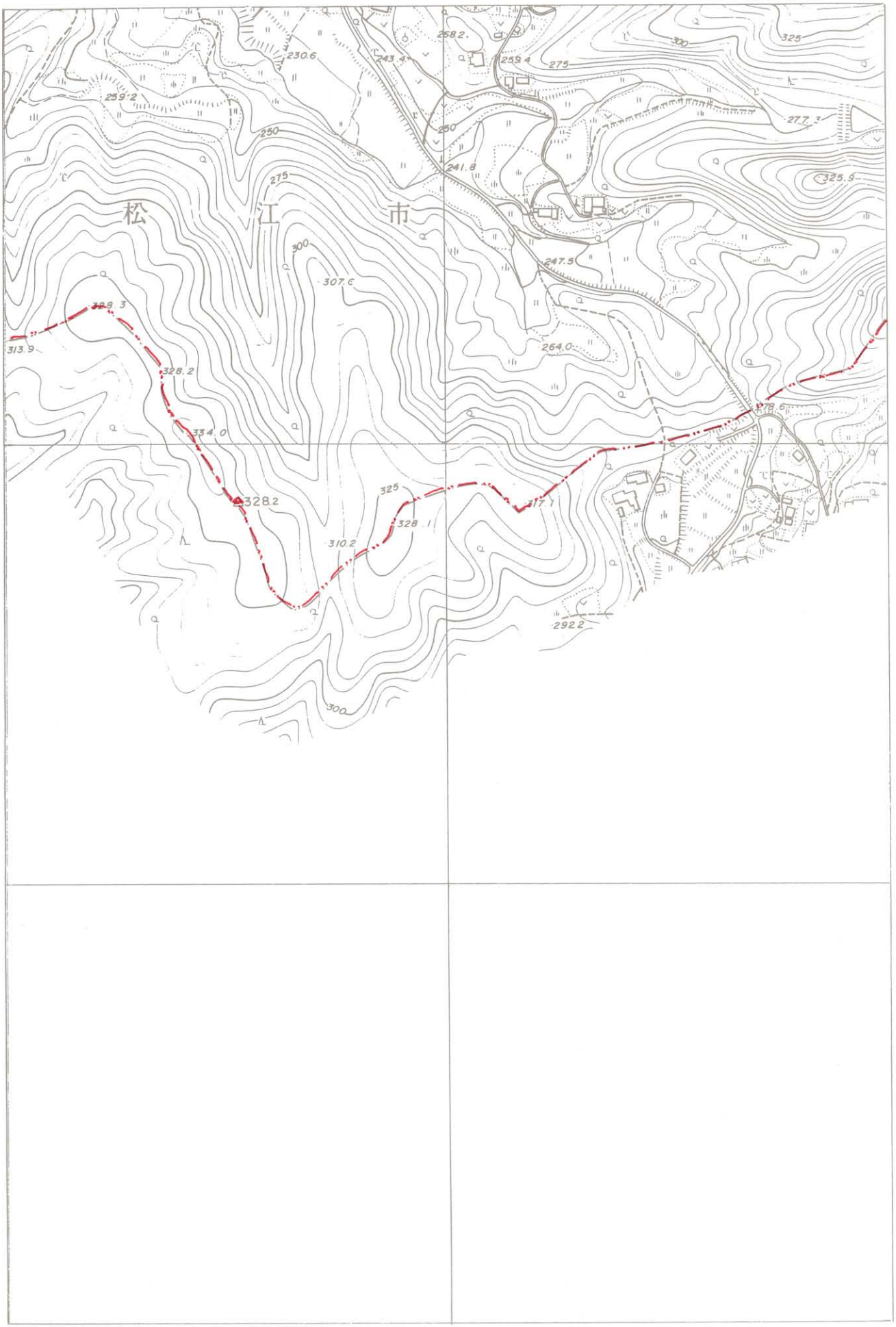
S-37・C 忌部（東忌部町）



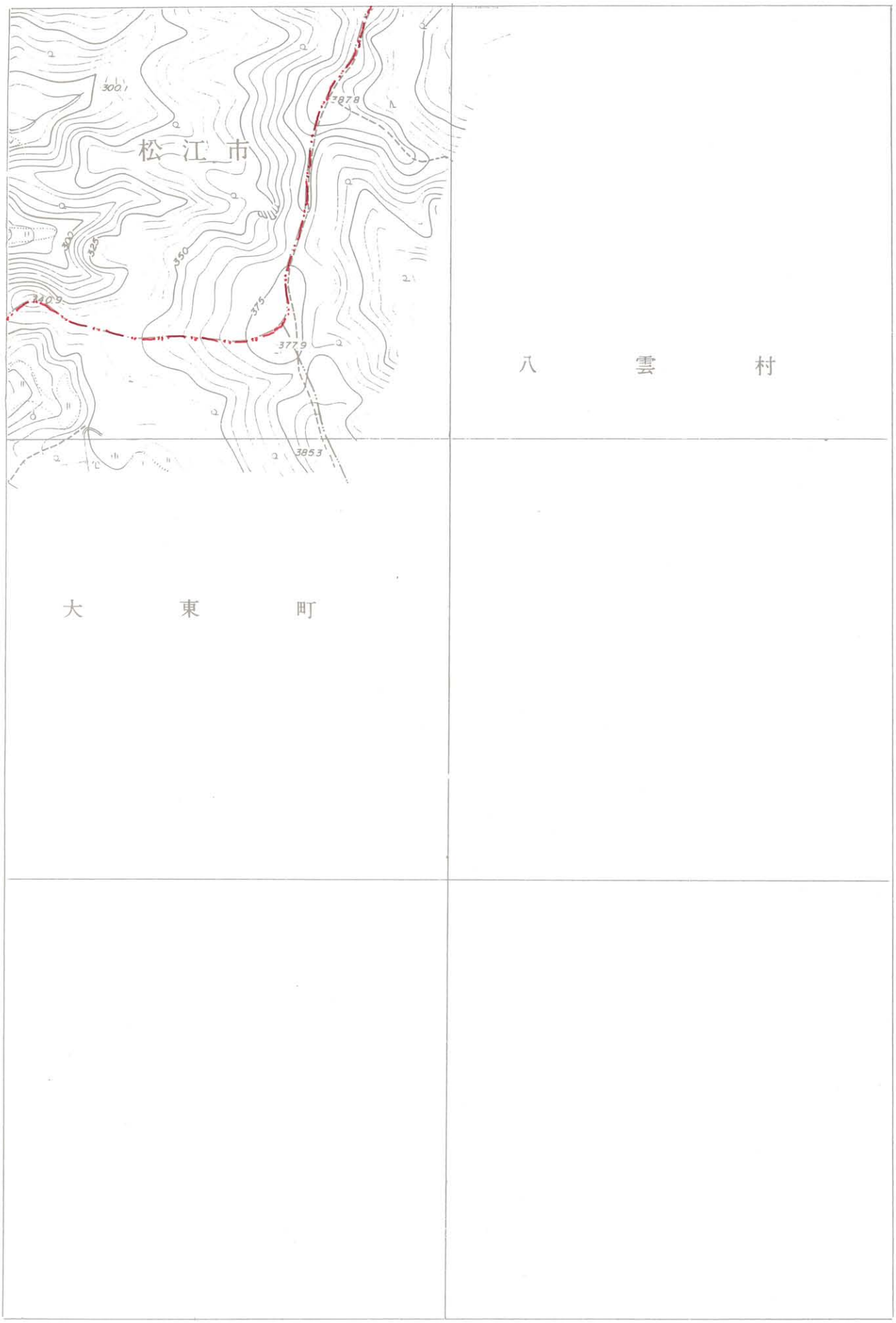
S-38・C 忌部（東忌部町）


村
222.8
227.4
235.2
250
274.3
275
301.4
311.9
300
304.4
330.8
300
333.4
350.9
325
343.4
331.5
350
300
385.1
375
405.1
393.9
327.2
383.0
400.1
350
387.8
381.8
410.
405.1
350
375
389.1
350
364.0
359.0
363.0
395.2
350

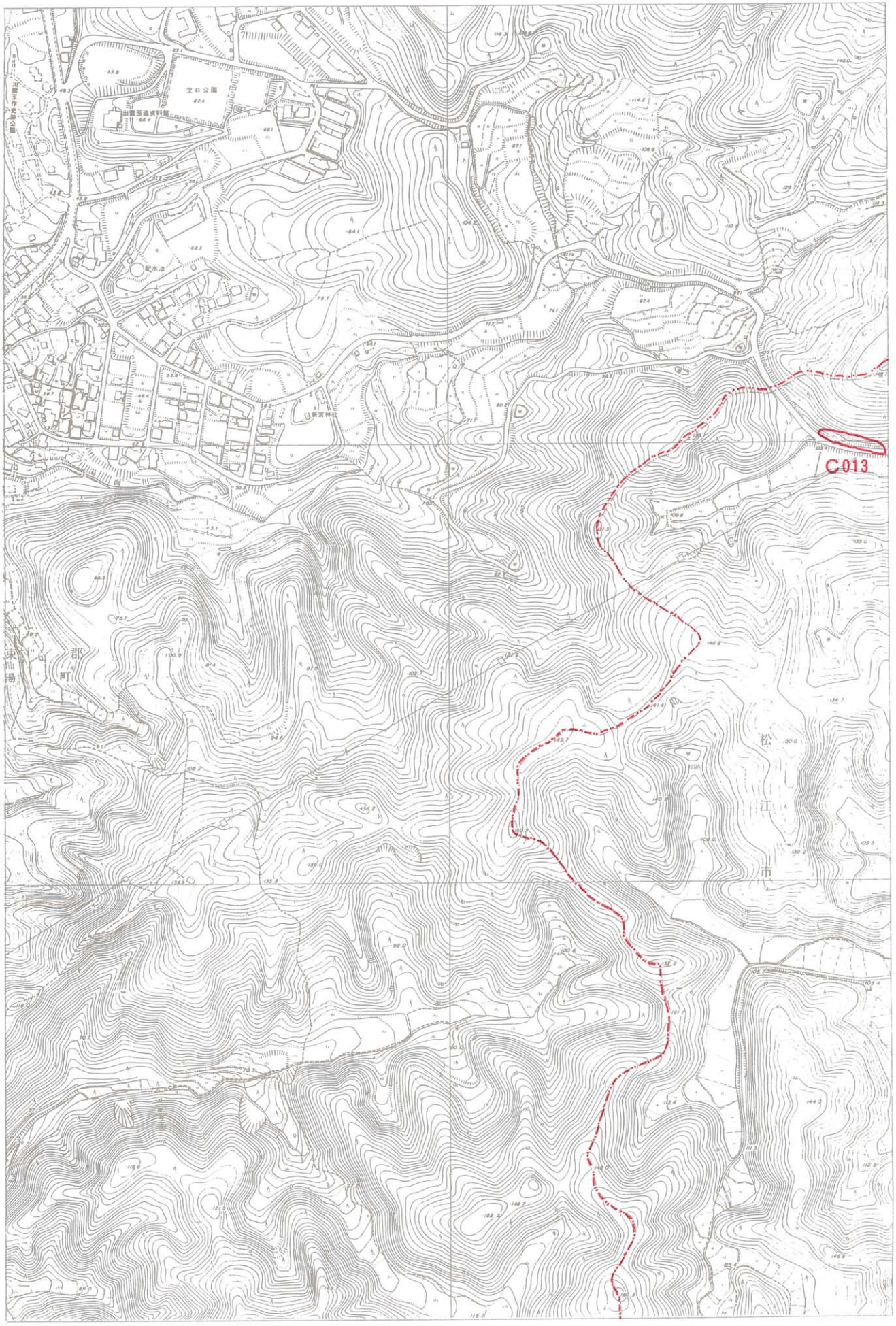
S-39・C 忌部（東忌部町）


松
江
市
230.6
243.4
258.2
259.4
275
300
325
259.2
250
241.8
277.3
325.5
247.5
307.6
328.3
313.9
328.2
334.0
264.0
328.2
325
328.1
310.2
292.2
300

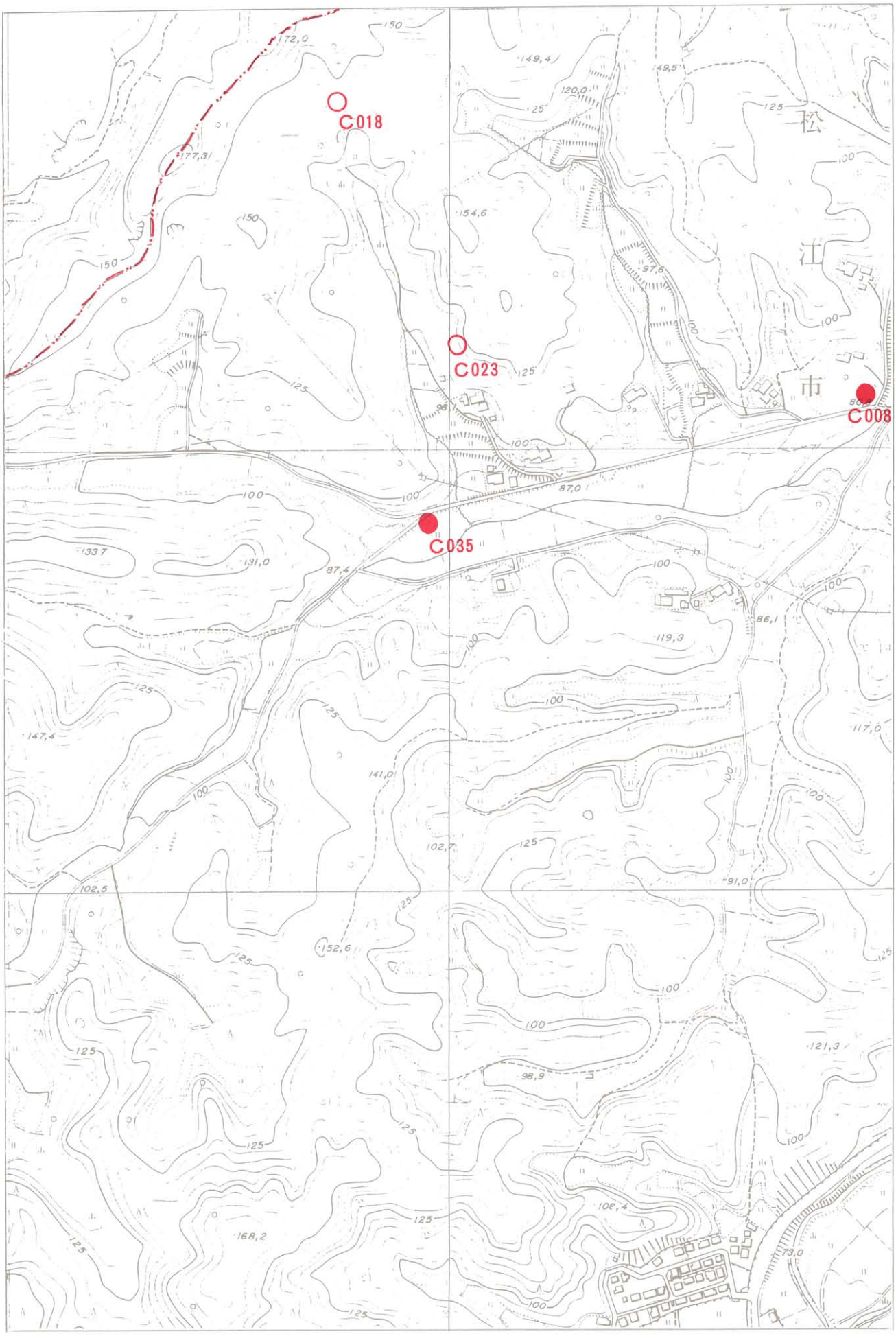
S-40・C 忌部（東忌部町）



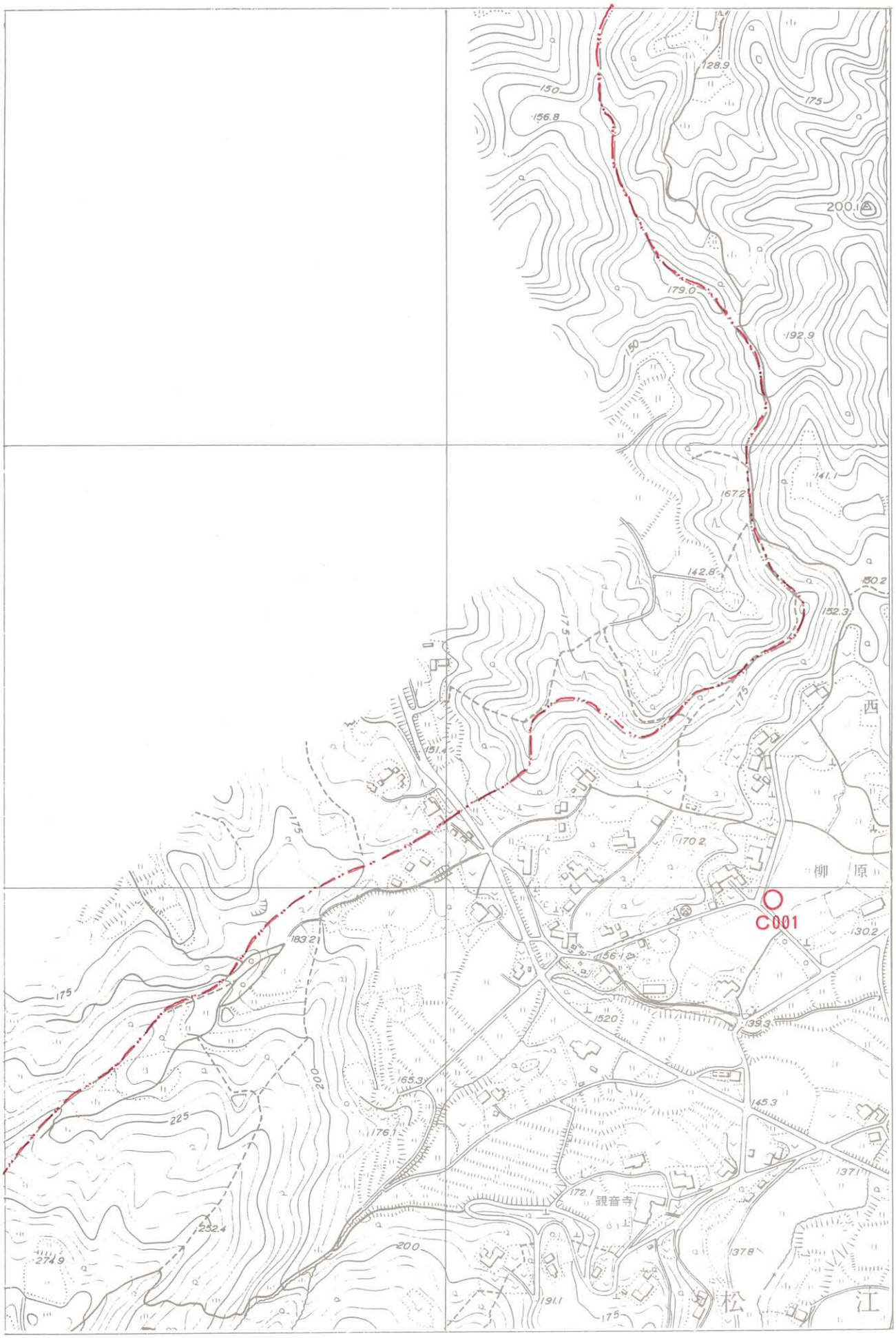
S-41・C 忌部（西忌部町）



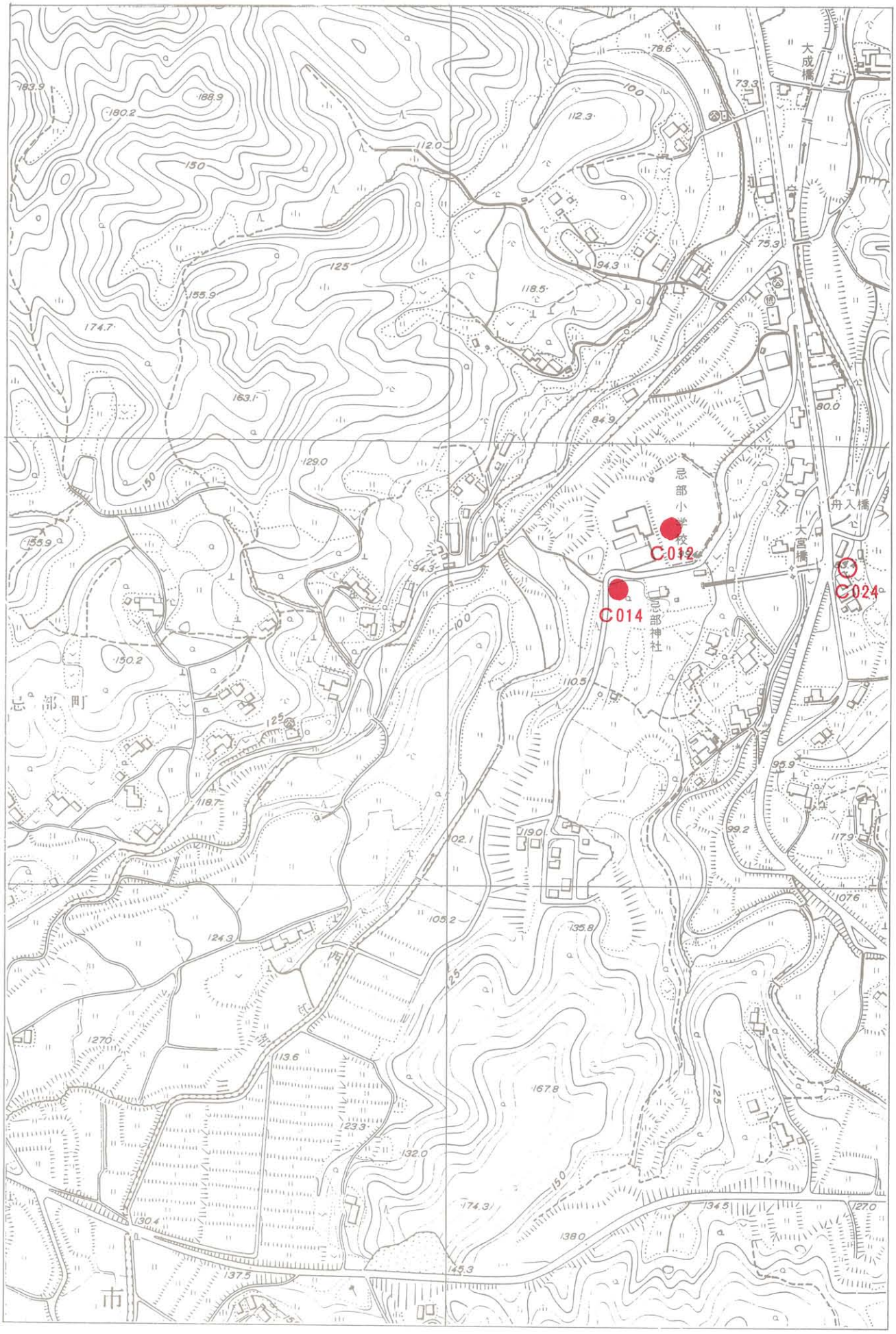
S-42・C 忌部（西忌部町）



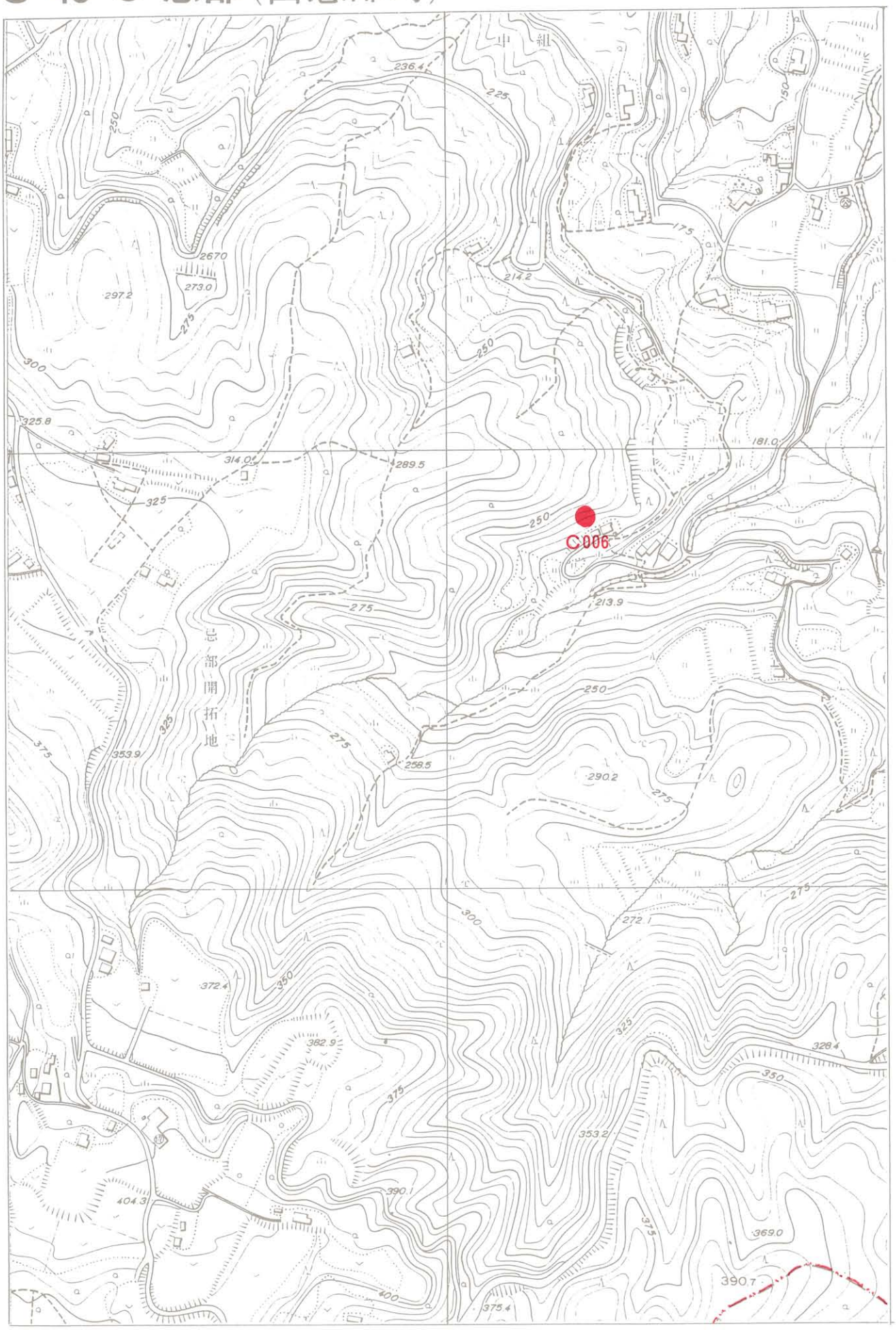
S-43・C 忌部（西忌部町）



S-44・C 忌部（西忌部町、東忌部町）

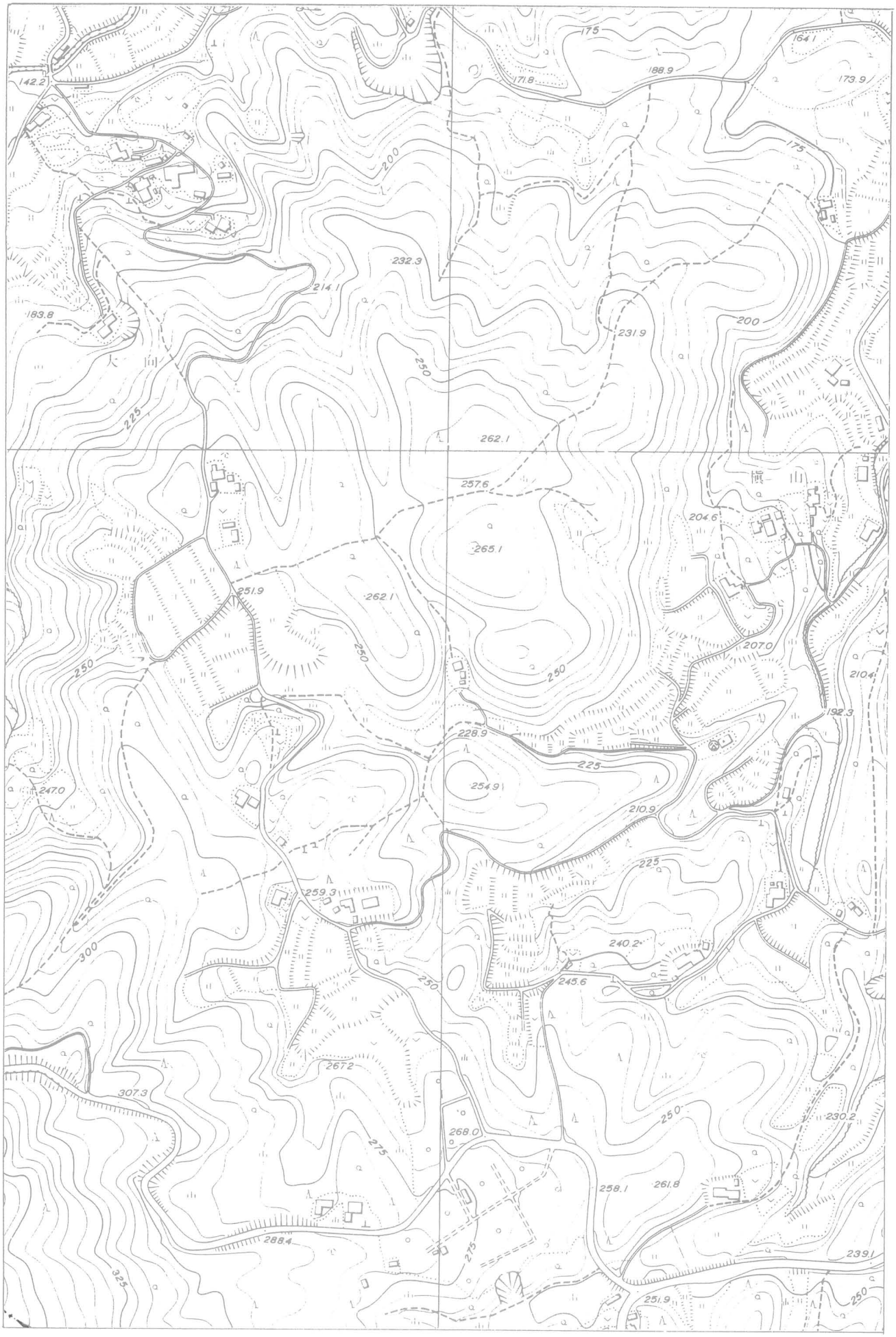


S-45・C 忌部（西忌部町）

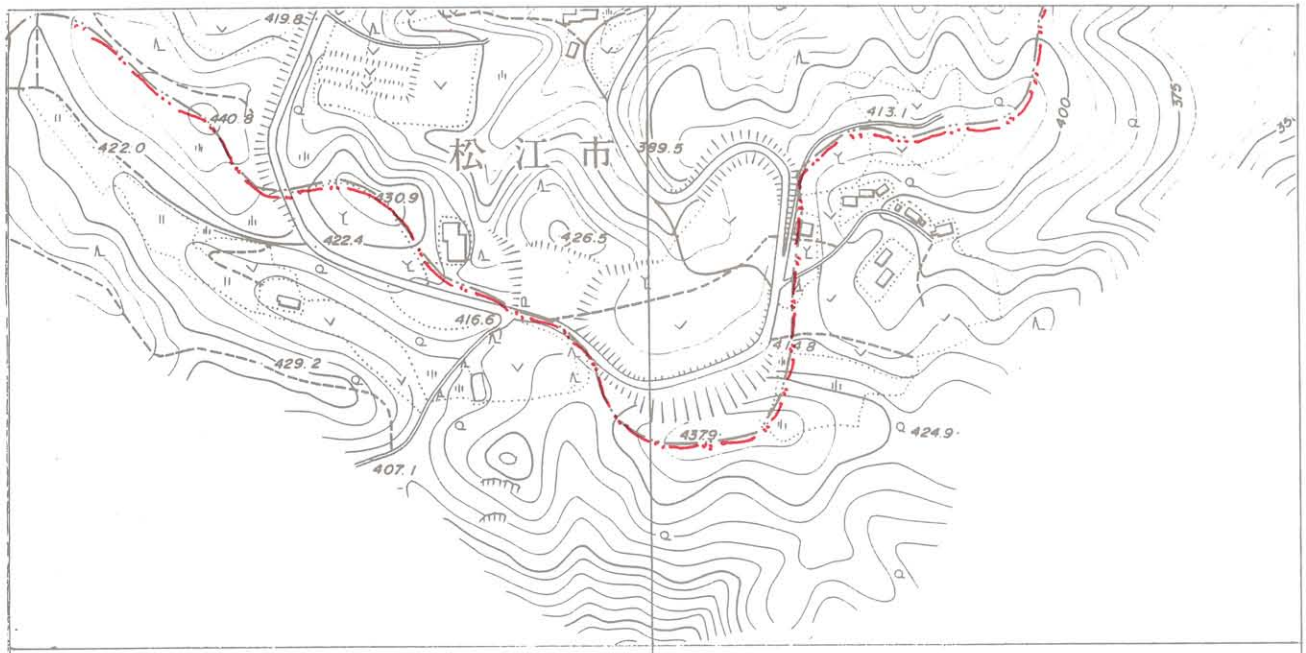


中組
236.4
225
150
250
175
267.0
273.0
297.2
275
214.2
300
325.8
314.0
289.5
181.0
325
C006
213.9
忌部開拓地
375
353.9
258.5
290.2
272.1
372.4
350
382.9
328.4
353.2
390.1
404.3
369.0
400
375.4
390.7

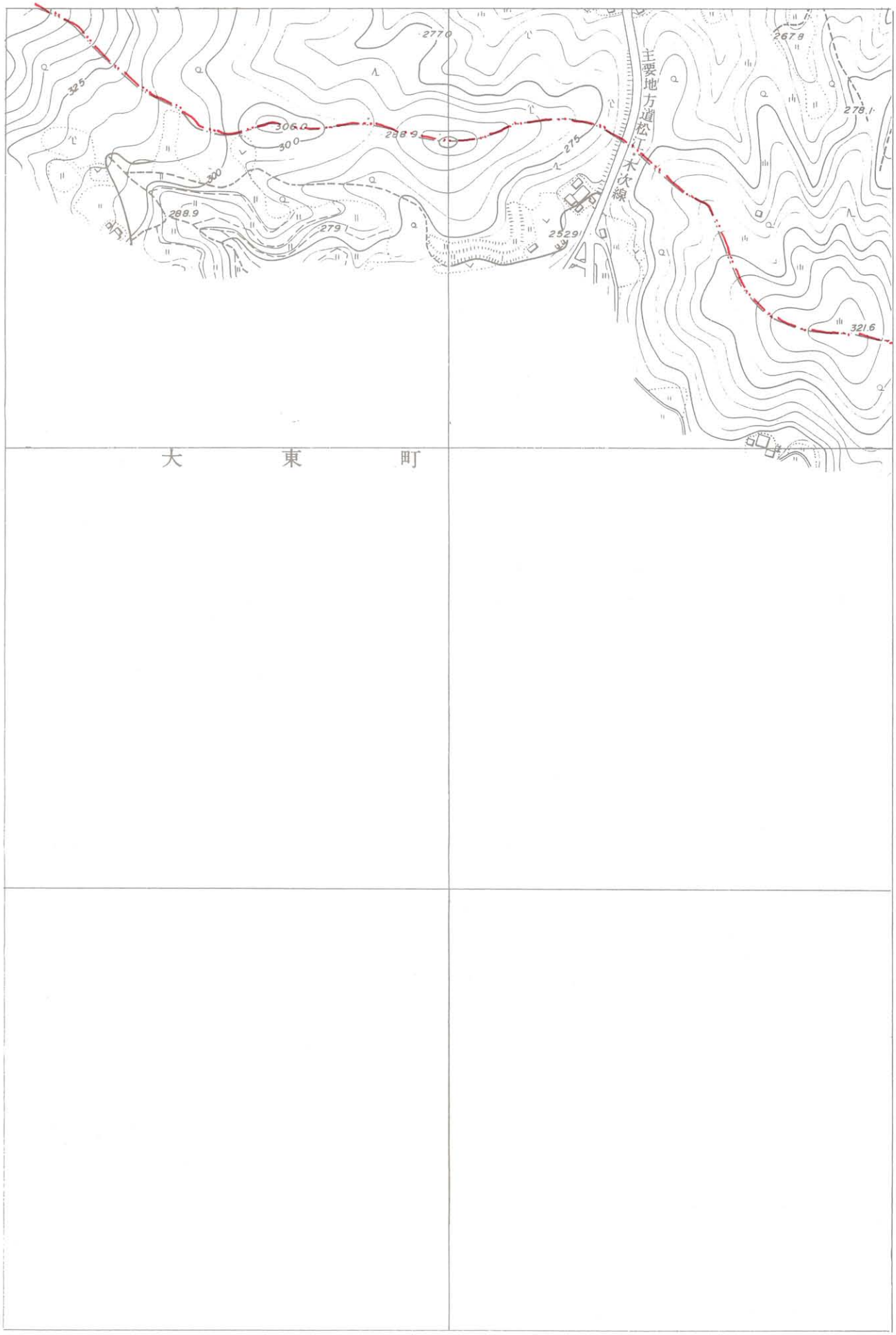
S-46・C 忌部（西忌部町、東忌部町）



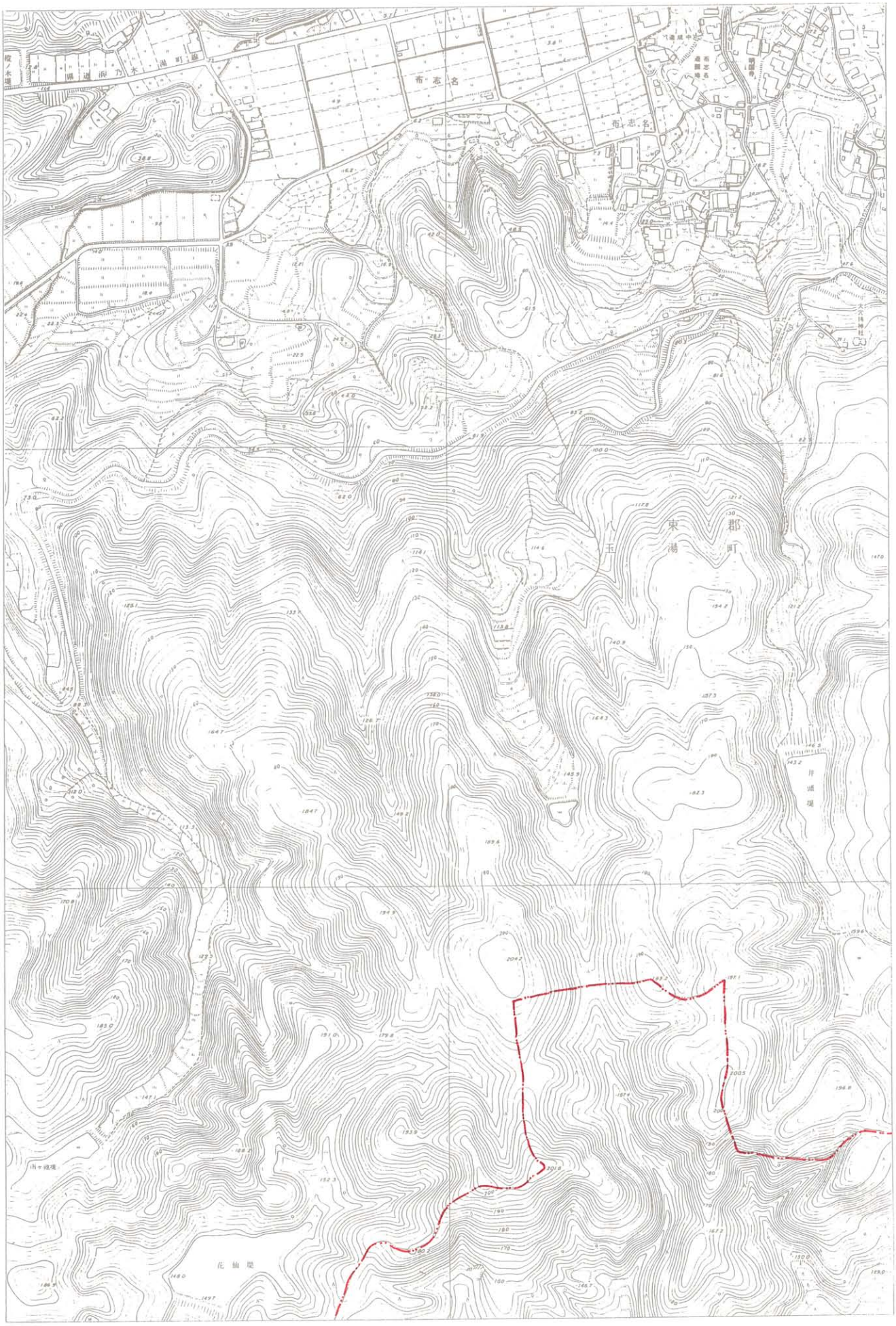
S-47・C 忌部（西忌部町）


松江市
419.8
440.8
422.0
430.9
422.4
426.5
399.5
413.1
400
375
416.6
429.2
418
437.9
424.9
407.1

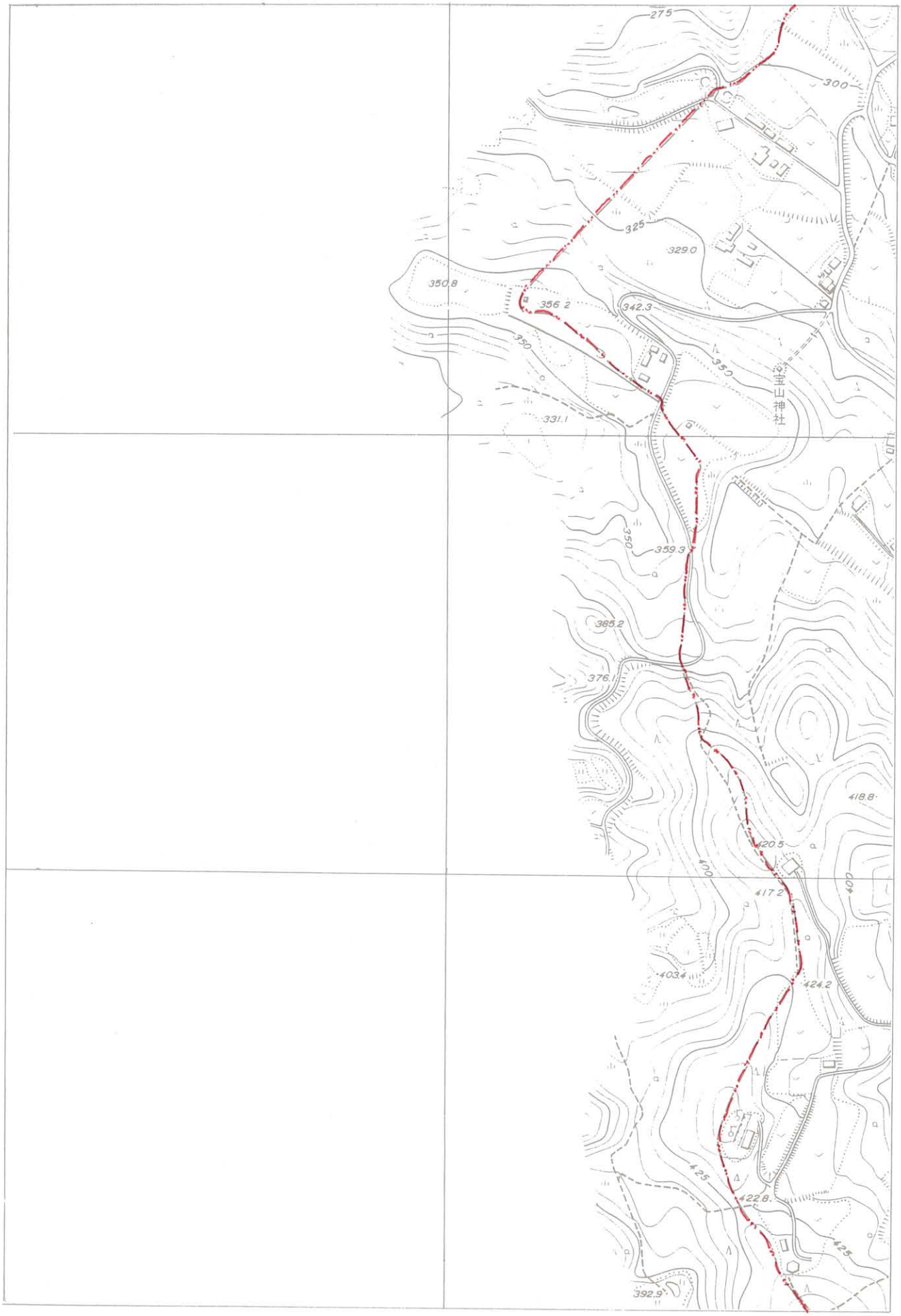
S-48・C 忌部（西忌部町、東忌部町）



S-49・C 忌部（西忌部町）



S-50・C 忌部（西忌部町）


275
300
325
329.0
350.8
356.2
342.3
350
355
宝山神社
331.1
350
359.3
385.2
376.1
418.8
420.5
400
417.2
404
403.4
424.2
425
422.8
425
392.9

史跡・埋蔵文化財所在地名一覧表……165
埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて……179
関係文献目録……189
松江の歴史年表……191
松江市の歴史……192
指定文化財概略一覧表……199

地区別遺跡数一覧表

平成3年2月

種別＼地区	A 竹矢	B 大庭	C 忌部	D 乃木	E 津田	F 古志原	G 朝酌	H 本庄	I 持田	J 川津	K 法吉	L 生馬	M 古江	N 秋鹿	O 大野	P 旧市内	合計
散布地	22	31(1)	16	16	10(1)	3(2)	26(6)	22	21	14(1)	10	7(1)	12	6	15	2	233(12)
墳墓・墳墓群	3(2)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4(2)
古墳・古墳群	19(1)	24(1)	3(1)	14(6)	15(3)	2(1)	20(3)	34(1)	31(2)	42(4)	23(1)	8(3)	57(2)	21	24	0	337(29)
前方後円墳	5	1	0	1	0	0	1	4	0	1	1	0	2	0	0	—	16
前方後方墳	4	7	0	2	3	1	0	4	2	3(1)	1	0	1	0	2	—	30(1)
方墳	24(5)	98	0	26(19)	17	2	16(3)	56(2)	47(4)	51(2)	17	8(6)	47(1)	12	49	—	470(42)
円墳	2	10	1	4	0	0	12(7)	5	7(1)	5(2)	12(1)	4	8	26	0	—	96(11)
その他	0	3(1)	2(1)	5	2(2)	1(1)	14(1)	20	6	14(1)	1	2	15(2)	5(2)	2	—	92(11)
横穴・横穴群	4(1)	9(2)	2	2	4(2)	0	1	3	8(2)	4(1)	12(5)	9(2)	4	1	2(1)	1(1)	66(17)
横穴数	51(13)	61(5)	4	13	10(7)	—	15	12	13(2)	4(2)	61(25)	15(7)	10	1	3(2)	1(1)	274(64)
古墓・古墓群	4	1	2	2(1)	2	0	1	2	0	0	3	0	1	4	4	1	27(1)
窯跡・窯跡群	1	0	1	0	0	0	20(1)	0	1	0	2	0	1	0	0	0	26(1)
官衙跡	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
寺院跡	3	1	1	0	0	0	0	2	2	1	0	1	0	1	1	0	13
玉作跡	1	1	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
城跡	0	1	2	0	0	0	3	2	0	4	3	2(1)	3	3	2	2	27(1)
館跡	0	3(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5(1)
住居跡	2	2	0	2(2)	0	0	2(1)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9(3)
その他	3	1	0	1	0	0	0	3	2	3	2	1(1)	2	2	2	0	22(1)
遺跡数合計	63(4)	76(5)	38(1)	40(9)	31(6)	5(3)	73(11)	68(1)	66(4)	68(6)	55(6)	28(8)	81(2)	39	50(1)	6(1)	787(68)
遺跡総数合計	126(20)	223(8)	40(1)	75(22)	44(10)	7(3)	110(19)	132(2)	102(7)	100(9)	113(26)	40(16)	103(3)	61(2)	80(2)	6(1)	1,362(151)

＊（ ）内数字は消滅した遺跡

史跡・埋蔵文化財所在地名一覧表

A．竹矢

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
A001	S-8	散布地	国分寺跡付近遺跡	竹矢町上竹矢	弥生式土器・石鏃	1977-1
A002	S-7	〃	上竹矢遺跡	〃　〃	石斧	
A003	S-5	古墳	岩舟古墳	〃　岩舟	前方後方墳	1966-3・1975-3
A004	S-5	〃	手間古墳	〃　手間	前方後円墳(70)	1975-3
A005	S-5	〃	荒神畑古墳	〃　井ノ奥	方墳(半壊)	1975-3
A006	S-8	〃	中竹矢古墳	〃　中竹矢	前方後方墳	1975-3
A007	S-8	〃	社日古墳	〃　〃	円墳	
A008	S-8	古墳群	井ノ奥古墳群	〃　井ノ奥	前方後円墳1(半壊)・方墳3(2基消滅)	1975-3・1976-1・1951-1・1978-2
A009	S-8	窯跡	出雲国分寺瓦窯跡	〃　〃	瓦	1979-6
A010	S-7	玉作跡	神田玉作跡	〃　上竹矢	砥石	
A011	S-7	官衙跡	庁ケ坪遺跡	〃		
A012	S-7	寺院跡	出雲国分寺跡	〃	礎石・瓦	1963-2
A013	S-8	〃	出雲国文尼寺跡	〃　中竹矢	瓦	1974-3・1975-2
A014	S-14	〃	来美廃寺	矢田町	瓦・須恵器片	1988-2・1975-10
A015	S-7	散布地	平所遺跡	〃　平所	埴輪(人・馬・鹿)	1978-2
A016	S-8	〃	的場遺跡	八幡町的場	石匙	
A017	S-8	〃	平浜八幡宮前遺跡	〃	弥生式土器片	
A018	S-8	〃	さっぺい遺跡	〃　山本	縄文式土器片	
A019	S-3	〃		〃	須恵器片	
A020	S-8	〃		〃	土師器・須恵器片	
A021	S-7	古墳群	才ノ峠古墳群	竹矢町才ノ峠	前方後方墳・方墳	1977-4
A022	S-6	散布地		八幡町	土師器・須恵器片	
A023	S-8	〃		〃	須恵器片	
A024	S-6	〃		〃	古式土師器片	
A025	S-6	〃		〃	須恵器片	
A026	S-8	墳墓群	的場墳墓群	〃　的場	土壙墓(消滅)	
A027	S-8	古墳	宮内岩舟古墳	〃　宮内	円墳	
A028	S-8	〃		〃	方墳(19.5×15)	
A029	S-6	〃		〃	方墳(16×11)	
A030	S-1	〃		〃	方墳(7×7)	
A031	S-8	古墳群	迎接寺山古墳第1群	〃	方墳3基	
A032	S-8	〃	迎接寺山古墳第2群	〃	前方後円墳(24×11)・方墳(11×9)	
A033	S-8	横穴群	代官家後横穴群	〃　宮内	10穴以上	
A034	S-8	横穴	八幡宮下横穴	〃　〃		
A035	S-8	横穴群	的場横穴群	〃　的場	3穴(消滅)	1962-2
A036	S-3	古墓群	安国寺古墓群	〃	五輪塔・宝篋印塔	
A037	S-8	古墓		〃	土壙・平安時代	1951-1・1972-1
A038	S-8	〃		〃	五輪塔・宝篋印塔2群8基	1971-1
A039	S-8	古墓群	的場古墓群	〃　的場	五輪塔	
A040	S-14	散布地	来美遺跡	矢田町		
A041	S-8	〃	布田遺跡	竹矢町		1977-1
A042	S-7	〃	才塚遺跡			
A043	S-14	墳墓	来美墳墓	矢田町的場	四隅突出型墳丘墓(消滅)	1951-1・1989-4
A044	S-7	古墳群	上竹矢古墳群	竹矢町	前方後円墳・前方後方墳・方墳4基	1972-5
A045	S-8	〃	武内神社裏山古墳群		方墳3基	
A046	S-5	散布地	保地遺跡	矢田町保地	縄文式土器片	
A047	S-8	〃	法華寺前遺跡		縄文式土器片	1974-5
A048	S-7	古道	天平古道			
A049	S-6	古墳群	観音寺古墳群	馬潟町観音寺	方墳3基(消滅)	1972-7
A050	S-7	散布地	間内遺跡	竹矢町間内	土師器・須恵器片・打製石斧	
A051	S-8	〃	竹矢小学校校庭遺跡	〃	縄文式土器・弥生式土器・土師器片	1974-5
A052	S-8	〃	宮内遺跡			
A053	—					
A054	S-7	古墳	廻田古墳	矢田町	前方後円墳	
A055	S-7	住居跡	才ノ峠遺跡	竹矢町才ノ峠	掘立柱建物16・住居跡状遺構・土壙等	
A056	S-8	〃	長峰遺跡	〃　中竹矢	弥生中期末～後期前半の竪穴住居跡等	
A057	S-8	古墳	中竹矢後1号墳	〃　〃	方墳(14.2×14.2)	
A058	S-6	〃	灘山古墳	八幡町灘山	方墳・土壙	1990-1
A059	S-7	墳墓群	間内越墳墓群	矢田町間内越	四隅突出型墳丘墓1基・不明3基	1989-4
A060	S-7	水田跡	上小紋遺跡	竹矢町上小紋	木製品	
A061	S-7	〃	向小紋遺跡	〃　向小紋		
A062	S-7	散布地	四配田遺跡	〃	土師器片	
A063	S-7	〃	大平遺跡	矢田町大平	土壙・碧玉剝片	

B．大庭

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
B001	S-15	散布地	黒田畦遺跡	大庭町	古墳～奈良時代	
B002	S-15	〃	正林寺遺跡	〃	須恵器片	
B003	S-13	〃		〃	須恵器片	
B004	S-15	〃		〃	須恵器片	
B005	S-15	〃		〃	須恵器片	
B006	S-15	〃		〃	須恵器片	
B007	S-15	〃		〃	須恵器片	
B008	S-13	〃		〃 下の原	須恵器片	
B009	S-13	〃		〃 山崎	須恵器片	
B010	S-13	〃		〃 〃	須恵器片	
B011	S-13	〃		〃 〃	須恵器片	
B012	S-13	〃		〃 〃	須恵器片	
B013	S-22	〃		〃 小原	須恵器片	
B014	S-22	〃		〃 〃	須恵器片	
B015	S-22	〃		〃 〃	須恵器片	
B016	S-22	〃		〃	須恵器片	
B017	S-15	〃		〃 中西	須恵器片	
B018	S-13	〃		〃	須恵器片	
B019	S-13	古墳	大庭鶏塚	〃 茶臼	方墳(42×42)	1979-2
B020	S-13	〃	東淵寺古墳	〃 東淵寺	前方後円墳(40以上)	
B021	S-13	散布地		〃	須恵器片	
B022	S-15	古墳群	大古古墳群	〃 寺山	方墳8基	
B023	—					
B024	S-15	横穴群	大石横穴群	〃 後谷		
B025	S-15	古墓	秋上家古墓群	〃 平		
B026	S13・15	館跡	黒田館跡	〃 黒田	(消滅)	1975-12・1984-1
B027	S-15	〃	出雲国造館跡	〃 土居・元鳥居		1975-11
B028	S-13	〃		〃 下の原	土墨・空壕	
B029	S-13	散布地	大庭住宅東遺跡	山代町		
B030	S-16	〃	団原遺跡	〃 団原		1981-3
B031	S-13	〃	山代遺跡	〃 本郷	弥生式土器片	1977-1
B032	S-13	古墳	山代二子塚	〃 二子塚	前方後方墳(90)	1932-1・1951-1
B033	S-13	〃	山代方墳	〃 〃	方墳(45×45)	1951-1・1964-2
B034	S-14	〃	永久宅後古墳	〃		
B035	S-16	〃	団原古墳	〃 団原		1964-2
B036	S-14	横穴群	十王免横穴群	〃 十王免	27穴保存	1966-3・1975-6
B037	S-14	〃	狐谷横穴群	〃 狐谷	(消滅)	1966-3・1977-577
B038	S-13	官衙跡	山代正倉跡	〃		1981-1・1988-3
B039	S-14	城跡	茶臼山城跡	〃		1970-4・1972-8
B040	S-14	寺院跡	四王寺跡	〃		1968-2
B041	S-7	玉作跡	樋口玉作跡	〃		
B042	S-15・24	古墳群	荒神谷・後谷古墳群	佐草町後谷	方墳16基・横穴20穴以上	1962-2
B043	S-24	祭祀遺跡	鏡池遺跡	〃		
B044	S-16	古墳	岩屋後古墳	大草町有		1964-2・1978-7
B045	S-16	〃	御崎山古墳	〃 〃	前方後方墳	1951-1・1955-5・1968-1
B046	S-10	〃	古天神古墳	〃 〃	前方後方墳	1919-1・1925-1・1951-1・1956-1
B047	S-10	〃	大草岩船古墳	〃 岩船	舟形石棺	
B048	S-16	古墳群	岡田山古墳群	〃 有	前方後方墳・円墳	1923-1・1970-1・1975-4
B049	S-10	〃	東百塚山古墳群	〃 杉谷	方墳44基・円墳8基	
B050	S-10	〃	西百塚山古墳群	〃 安部谷	方墳22基・円墳	
B051	S-10	横穴群	安部谷横穴群第1群	〃 〃	5穴	1962-2
B052	S-10	〃	安部谷横穴群第2群	〃 〃	2穴	1962-2
B053	S-10	〃	安部谷横穴群第3群	〃 〃	1穴以上	1962-2
B054	S7・10・14・16	官衙跡	出雲国府跡	〃		1956-2・1963-2・1975-13
B055	S-13	古墳群	井手平古墳群	井手平	1基以上(消滅)	1975-13・1977-13
B056	S-13	散布地	大庭小学校校庭遺跡	大庭町		
B057	S-10	古墳群	安部谷古墳群	大草町安部谷	方墳8基・円墳5基・墳形不明2基	1933-1
B058	—					
B059	S-16	〃	小谷横穴群			
B060	S-23	〃	小倉見谷横穴群		4穴(消滅)	
B061	S-23	古墳群	勝負谷古墳群	佐草町	方墳2基	
B062	S-22	散布地			(消滅)	
B063	—					
B064	S-14	横穴群	大谷横穴群		2穴	
B065	S-13	古墳群	中島古墳群		方墳4基	
B066	S-24	古墳		佐草町後谷	前方後方墳	

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
B067	S-15	散布地		大庭町廻田		
B068	S-15	古　墳		〃	前方後方墳	
B069	—					
B070	S-10	散布地	大草玉作遺跡	大草町日岸田	瑪瑙・碧玉・水晶	
B071	S-10	集落跡	大屋敷遺跡	〃		
B072	S-10	〃	天満谷遺跡	〃	土師器・須恵器片	
B073	S-21	古墳群	渋谷古墳群	大庭町	土師器・須恵器片	
B074	S-21	散布地	渋谷遺跡	〃	土師器・須恵器片	
B075	S-21	〃	神田遺跡	〃		
B076	S-21	〃	勝負谷遺跡	〃		
B077	S-21	古　墳	勝負谷古墳	〃		
B078	S-21	散布地	深田遺跡	〃		
B079	S-21	古墳群	大久保古墳群	〃	前方後円墳1基・方墳3基	
B080	S-21	散布地	大久保遺跡	〃		

C．忌部

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
C001	S-43	散布地	塚田遺跡	西忌部町塚田	石錘	
C002	S-32	〃	清水尻遺跡	〃　清水尻	石斧	
C003	S-31	〃	宮の上遺跡	〃　宮の上	石鏃	
C004	S-31	古　墳	下鍛冶古墳	〃　下忌部	円墳	
C005	S-31	〃	中垣古墳	〃　〃	(消滅)	
C006	S-45	横穴群	樋口横穴群	〃　〃	1穴以上	
C007	S-31	玉作跡	下忌部玉作跡	〃　〃	砥石	
C008	S-42	〃	一崎玉作跡	〃　一崎	砥石・玉	
C009	S-33	〃	ウシロ原玉作跡	〃　ウシロ原	砥石・玉	
C010	S-34	散布地	下忌部遺跡	東忌部町大谷	石斧	
C011	S-34	〃	水源地土製勾玉出土遺跡	〃　〃	土製勾玉	
C012	S-44	古　墳	客古墳	〃　客	石室残存	
C013	S-41	窯　跡	湯峠窯跡	〃　湯峠	須恵器片	1960-1
C014	S-44	寺院跡	忌部神社神宮寺跡	〃	瓦	
C015	S-33	玉作跡	千本玉作跡	〃　千本	砥石・玉	
C016	S-33	〃	中島遺跡	〃　中島	砥石・土師器片	
C017	S-34	城　跡	久多美山城跡	〃		
C018	S-42	散布地				
C019	S-33	〃				
C020	S-32	〃	小城口遺跡	西忌部町小城口		
C021	S-33	〃		〃	土師器・須恵器片	
C022	S-33	〃			土師器片	
C023	S-42	〃				
C024	S-44	〃			黒曜石・石鏃・赤青瑪瑙・須恵器片	
C025	S-33	横穴群	平口横穴群		3穴	
C026	S-33	古　墓		東忌部町	五輪塔2群20基	
C027	S-37	〃		〃	宝篋印塔	
C028	S-35	城　跡	桑迫城跡			
C029	S-37	散布地			土師器片	
C030	S-31	玉作跡	垣ケ原遺跡			
C031	S-33	〃	玉神谷遺跡		土師器・須恵器片・赤青瑪瑙	
C032	S-33	〃	一丁田遺跡			
C033	S-33	〃	堂廻遺跡			
C034	S-33	〃	砂子原遺跡			
C035	S-42	〃	片田遺跡			
C036	S-33	散布地		平口横穴付近		
C037	S-32	〃	平松遺跡	西忌部町	須恵器片・赤瑪瑙・碧玉(消滅)	
C038	S-33	〃	一崎遺跡	〃	砥石	

D．乃木

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
D001	S-21	散布地	下沢遺跡	上乃木町下沢	石斧・凹石・黒曜石	
D002	S-19	〃	西ノ原遺跡	〃　西ノ原		
D003	S-19	〃	宇賀Ⅰ遺跡	〃　宇賀		
D004	S-19	〃	宇賀Ⅱ遺跡	〃　〃		
D005	S-19	古　墳	向荒神古墳	〃　当貫	方墳	

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
D006	S-19	古墳	経塚古墳	上乃木町経塚	方墳(消滅)	
D007	S-21	〃	乃木二子塚古墳	〃 二子塚	前方後方墳	1951-1・1982-2
D008	S-21	〃	二子塚古墳	〃 〃	円墳(消滅)	
D009	S-28	〃	荒神古墳	〃 宇賀	円墳	
D010	S-19	古墳群	毘沙門古墳群	〃 〃	方墳4基(消滅)	
D011	S-19	古墓	桧山古墓群	乃木福富町	円形墓(消滅)	1971-3
D012	S-29	散布地	神立遺跡	〃	弥生式土器片	1977-1
D013	S-30	〃	屋形遺跡	〃	砥石・石斧・須恵器片	
D014	S-30	〃	蓮花垣遺跡	〃	石臼・たたき石	
D015	S-30	〃	福富Ⅰ遺跡	〃	石斧	
D016	S-30	〃	福富Ⅱ遺跡	〃	石斧	
D017	S-29	〃	福富湖岸遺跡	〃	石桧	
D018	S-30	〃	欠田遺跡	〃	弥生式土器・土師器片・石包丁	1977-1
D019	S-30	〃	薬師前遺跡	乃白町薬師前	弥生式土器・須恵器片	1977-1
D020	S-30	〃	乃白遺跡	〃	石斧	
D021	S-29	古墳	松本古墳	〃 松本	方墳(消滅)	1951-1
D022	S-31	〃	岩屋口古墳	〃 岩屋口	横穴式石室	
D023	S-31	横穴群	松本横穴群	〃 松本	約10穴	
D024	S-30	玉作跡	乃白玉作跡	〃 袋尻	砥石	
D025	S-28	古墓	伝佐々木高綱墓	浜乃木町	五輪塔	
D026	S-21	古墳群	運動公園内古墳群	〃	方墳(数基)	
D027	S-29	〃	二名留古墳群	乃木福富町二名留	方墳2基(1基消滅)	
D028	S-30	〃	田和山古墳群	〃 田和	前方後方墳1・前方後円墳1・方墳4基・円墳	
D029	S-31	横穴群	弥陀原横穴群	乃白町	3穴・石棺・須恵器片	
D030	S-19	散布地				
D031	S-21	古墳群	長砂古墳群	浜乃木町長砂	方墳13基(消滅)	
D032	S-29	住居跡	廻田遺跡	乃木福富町	(消滅)	
D033	S-29	〃	大角山遺跡	〃	(消滅)	
D034	S-29	古墳群	大角山古墳群	〃	6基(前方後円墳・方墳・円墳)	
D035	S-30	修法壇跡	松本修法壇跡	乃白町松本	修法壇・五輪塔	
D036	S-32	玉作跡	乃白権現遺跡	〃	瑪瑙片・土師器・須恵器片	
D037	—					
D038	S-30	古墳群	後友田古墳群	浜乃木町	円墳(消滅)	
D039	S-30	墳墓	友田遺跡	〃	土壙墓・墳丘墓(消滅)	
D040	S-30	散布地	松本遺跡	乃木福富町	土師器片・赤瑪瑙・碧玉	
D041	S-21	〃	奥山遺跡	浜乃木町	土師器片	

E．津田

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
E001	S-11	散布地	舟津田遺跡	東津田町舟津田	土師器・須恵器片	
E002	S-11	〃	タルミⅠ遺跡	〃 タルミ	黒曜石片	
E003	S-11	〃	タルミⅣ遺跡	〃 タルミ	土師器・須恵器片	
E004	S-11	〃	はぜ岡遺跡	〃 はぜ岡	石斧	
E005	S-12	〃	鷹日神社前遺跡	〃 舟津田	石斧	
E006	S-11・12	〃	石台遺跡	〃 石台	縄文晩期～古墳中・後期	1977-1・11・12・1978-4・1983-1
E007	S-11	古墳	梶尾古墳推定地	〃 梶尾	(消滅)	
E008	S-11	〃	伝兵衛山古墳	〃 伝兵衛山	方墳(8.6×6.1)	
E009	S-11	〃	高杉第1号古墳	〃 高杉	前方後方墳(26.5)	
E010	S-11	〃	高杉第2号古墳	〃 〃	方墳(11.5×11.5)	
E011	S-12	〃	東光台団地古墳	〃 石屋	墳形不明、(箱式石棺)(消滅)	1964-1・1972-3
E012	S-5	〃	石屋古墳	〃 〃	方墳(40×40)	1979-1
E013	—					
E014	—					
E015	S-11	古墓	伝兵衛山古墓	東津田町伝兵衛山	五輪塔(安土桃山時代)	
E016	S-11	〃	高杉古墓群	〃 高杉	五輪塔3基	
E017	S-20	古墳	室藤第2号古墳	西津田町室藤	前方後方墳(20.5)	
E018	S-20	古墳群	論田古墳群	〃 論田	方墳2基	1980-3
E019	S-20	横穴群	論田横穴群	〃 〃	5穴(消滅)	
E020	S-20	古墳群	城ノ前古墳群	〃 城ノ前	方墳4基	
E021	S-20	古墳	奥金見第1号墳	〃 奥金見	方墳(12×12.5)	
E022	S-20	〃	奥金見第2号墳	〃 〃	方墳(13×13)	
E023	S-20	〃	室藤第1号墳	〃 室藤	方墳(14.5×14.5)	
E024	S-20	〃	論田第3号墳	〃 論田	方墳(9.5×15)	
E025	S-11	横穴群	岡横穴群	東津田町岡	2穴以上	
E026	S-11	古墳群	岡古墳群	〃 〃	方墳3基	
E027	S-11	散布地	喰ケ谷遺跡	〃 喰ケ谷	須恵器片	1981-2

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
E028	S-11	散布地	タルミⅡ遺跡	東津田町タルミ	須恵器片	
E029	S-11	〃	タルミⅢ遺跡	〃　〃	土師器・須恵器片	
E030	S-20	横穴群	浅井横穴群	西津田町浅井	11穴(消滅)	
E031	S-20	〃	小沢横穴群	〃　小沢	2～3穴(1穴消滅)	
E032	S-20	散布地	論田遺跡	〃	土師器・須恵器片(消滅)	1980-3
E033	S-12	古墳群	南家古墳群	東津田町南外	前方後方墳(20)・方墳(10×10)(消滅)	

F．古志原

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
F001	S-22	古墳群	向山西古墳群	大庭町	1基以上(消滅)	1978-5
F002	S-13	〃	向山古墳群	〃	前方後方墳1・方墳2基	
F003	S-13	散布地	練兵場跡Ⅰ遺跡	古志原町上口	弥生式土器片(消滅)	1977-1
F004	S-11	〃	練兵場跡Ⅱ遺跡	〃　〃	土師器片(消滅)	
F005	S-20	〃	古志原遺跡	〃　富原	石斧・石鏃	

G．朝酌

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
G001	N-31	古　墳	岩屋古墳	朝酌町	円墳(石棺式石室)	1964-2
G002	N-31	〃	朝酌上神社跡古墳	〃	円墳(石棺式石室)	
G003	N-31	〃	朝酌小学校校庭古墳	〃	石棺式石室	1964-2
G004	S-5	〃	漁見塚古墳	〃　漁見塚	前方後円墳(70)	
G005	N-31	〃	廻原第1号墳	〃	円墳(石棺式石室)	1964-2
G006	N-31	〃	廻原第2号墳	〃	円墳(箱式棺様)	1964-2
G007	N-31	〃	朝酌小学校前古墳	〃	横穴式石室(消滅)	
G008	S-6	〃	阿弥陀寺古墳	〃　福富	石棺式石室	1964-2
G009	N-29	城　跡	和久羅城跡	〃		
G010	N-32	古墳群	大井古墳群	大井町	4基・横穴1穴	
G011	N-32	散布地	大井土馬出土遺跡	〃	土馬	
G012	N-32	古　墳	山巻古墳	〃　山巻	須恵器・刀子・耳環	
G013	N-32	散布地	岩崎遺跡	〃　岩崎	石斧	
G014	N-18	窯　跡	唐干窯跡	大海崎町唐干	須恵器片	
G015	N-18	〃	木ノ谷窯跡	〃　木ノ谷	須恵器片	1967-3
G016	N-16	〃	古屋敷窯跡	〃　古屋敷	須恵器片	
G017	N-17	〃	山津窯跡	大井町	須恵器片	1967-3
G018	N-32	〃	寺尾窯跡	〃　寺尾	須恵器片	1967-3
G019	N-32	〃	ババタケ窯跡	〃　ババタケ	須恵器片	1967-3
G020	N-32	〃	岩汐窯跡	〃　岩汐	須恵器片	1967-3
G021	S-9	〃		〃　郷戸	須恵器片	
G022	N-41	〃		〃　〃	須恵器片	
G023	N-41	〃		〃　〃	須恵器片	
G024	N-31	〃	松ケ鼻窯跡	〃	須恵器片	
G025	N-43	〃		〃	須恵器片	
G026	N-43	古　墳	廟所古墳	〃	方墳 (30×30)	
G027	N-43	〃	観音山古墳	〃	方墳 (30×30)	
G028	N-41	古　墓		〃	五輪塔	
G029	N-32	窯　跡	廻谷窯跡	〃		
G030	N-17	〃	ジャバン窯跡			
G031	N-32	〃				
G032	N-32	散布地	岩汐遺跡			
G033	N-32	窯　跡	後廻谷窯跡		須恵器片	
G034	N-32・S6	〃	岩汐南窯跡	大井町	土師器・須恵器片	
G035	N-32	古　墳	別所古墳	〃　別所	円墳状(石棺式石室)	
G036	N-26	散布地	薦沢野沢遺跡	〃　薦沢	須恵器片	1988-5
G037	N-32	〃	薦沢遺跡	〃	須恵器片・窯壁塊(消滅)	1988-5
G038	N-42	城　跡	稲葉城跡			
G039	N-17	散布地	大谷遺跡	大井町大谷	須恵器片	
G040	N-32	〃	岩汐峠遺跡	〃	須恵器片	
G041	N-32	窯　跡	勝田谷窯跡	〃　勝田谷	須恵器片・灰原	
G042	N-32	〃	明曽窯跡	〃　明曽	須恵Ⅳ期・灰原	
G043	N-32	住居跡	岩穴平遺跡	〃　穴平	建物・須恵Ⅱ～Ⅳ期糸切	
G044	N-32	〃	薦沢A遺跡	〃　1118番地	竪穴6・掘立住居8(消滅)	1988-5
G045	N-32	散布地	薦沢B遺跡	〃　1064番地	焼土遺構(消滅)	1988-5
G046	N-32	〃	別所遺跡	朝酌町555番地	須恵Ⅲ～平安期(消滅)	1988-5

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
G047	N-32	〃	山巻遺跡	大井町山巻	土師器片	
G048	N-17	古　墳	向山古墳	〃　向山	石棺式石室	
G049	N-17	古墳群	イズキ山古墳群	〃　イズキ山	5基(横穴式石室・組合式石棺)	
G050	N-17	散布地	山津遺跡	〃　山津	須恵Ⅲ～奈良期	
G051	N-32	〃	井ノ奥遺跡	〃　井ノ奥	須恵器片	
G052	N-32	〃	山ノ奥遺跡	〃　山ノ奥	須恵器片	
G053	N-17	〃	イガラビ遺跡	〃　イガラビ	焼土壙・柱穴・掘立柱・建物1棟(消滅)	1990-1
G054	N-17	〃	赤坂遺跡	〃　赤坂	須恵器片	
G055	N-17	〃	池ノ奥C・D遺跡	〃　池ノ奥	須恵Ⅳ～糸切(消滅)	1990-1
G056	N-17	古墳群	池ノ奥古墳群	〃　〃	円墳2基(横穴式石室2)(消滅)	1990-1
G057	N-17	窯　跡	池ノ奥窯跡	〃　〃	3基(消滅)	1990-1
G058	N-17	散布地	池ノ奥A遺跡	〃　〃	須恵Ⅳ～糸切(消滅)	1990-1
G059	N-17	古墳群	イガラビ古墳群	〃　イガラビ	方墳3・円墳5(横穴式石室3・小石室8)(消滅)	1990-1
G060	N-18	散布地	十二所神社境内遺跡	大海崎町	須恵器片	
G061	N-31	古墳群	九日宮古墳群	朝酌町九日宮	方墳5基(石棺式石室)	
G062	N-29	散布地	鈩田遺跡	〃　鈩田	須恵器片	1990-1
G063	N-29	〃	朝酌荒神谷遺跡	〃　荒神谷	須恵器片・溝跡	1990-1
G064	N-31	〃	新山遺跡	〃　新山	須恵器片	
G065	N-43	〃	間谷遺跡	西尾町	須恵器片	
G066	S-6	古墳群	阿弥陀寺裏山古墳群	福富町阿弥陀寺	方墳5基	
G067	S-6	散布地	福富神社境内遺跡	〃	須恵器片	
G068	S-6	古　墳	明事山古墳	〃	方墳（10×10）	
G069	N-32	散布地	焼山遺跡	大井町		
G070	N-31	散布地	藤谷A遺跡	朝酌町	須恵器片	
G071	N-31	横穴群	遅倉横穴群	〃	15穴以上	
G072	N-31	散布地	藤谷B遺跡	〃	須恵器片	
G073	N-31	城　跡		〃		

H．本庄

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
H001	N-2	散布地	寺ノ脇遺跡	手角町寺ノ脇	縄文式土器・弥生式土器・土師器片	1972-8・1974-5
H002	N-3	〃	権田作遺跡	〃	縄文式土器片	1974-5
H003	N-3	古墳群	堀越古墳群	〃　堀越	前方後円墳2基・方墳4基・石室1	
H004	N-3	散布地	夫手遺跡	〃　夫手	弥生式土器片	
H005	N-3	〃	柳瀬遺跡	〃　柳瀬	縄文式土器片	
H006	N-8	〃	善尾遺跡	長海町善尾	土師器片	
H007	N-8	古　墳	善尾古墳	〃　〃	方墳(石棺式石室)	
H008	N-3	〃	弁慶森古墳	〃　弁慶森	石室	
H009	N-3	〃	御供田古墳	〃　御供田	石室	
H010	N-3	散布地	杉戸遺跡	〃　杉戸	土師器片	
H011	N-3	条里制	長海条里制遺跡	〃		
H012	N-6	古　墳	淵古墳	〃　淵	方墳	
H013	N-3	古墳群	渕切古墳群	〃　渕切	前方後円墳1・前方後方墳1・円墳1	
H014	N-3	〃	藤田古墳群	〃　藤田	前方後円墳1・前方後方墳1・円墳2	
H015	N-3	〃	藤田南古墳群	〃　〃	方墳2基	
H016	N-11	横穴群	ガンダ横穴群	野原町ガンダ	須恵器片	
H017	N-11	散布地	ガンダ遺跡	〃　ガンダ	須恵器片	
H018	N-11	祭祀遺跡	弁慶島遺跡	〃	須恵器片	
H019	N-9・10	散布地		〃	須恵器片	
H020	N-9	〃	家床遺跡	邑生町家床	須恵器片	
H021	N-9	〃	蓮行遺跡	〃　蓮行	須恵器片	
H022	N-9	〃	蓑平遺跡	〃　蓑平	須恵器片	
H023	N-9	〃	月光寺遺跡	〃　月光寺	須恵器片	
H024	N-9	古墳群	兵ケ谷古墳群	〃　兵ケ谷	方墳3基	
H025	N-9	古　墳	客山古墳	〃　客山	方墳	
H026	N-9	古墳群	鈩古墳群	〃　鈩	方墳6基	
H027	N-9	古　墓	上松古墓	〃　上松		
H028	N-24	古墳群	鎌ヤガ尾根古墳群	上本庄町鎌ヤガ尾根	方墳1・石室1	
H029	N-24	〃	金比羅古墳群	〃	前方後方墳1・方墳2・石室1	
H030	N-24	〃	小馬枝古墳群	〃　小馬枝	前方後方墳1・石室1	
H031	N-24	〃	中西古墳群	〃　中西	方墳2・石室5	
H032	N-24	〃	荒神古墳群	〃	墳形不明2基	
H033	N-24	古　墳	深迫古墳	〃　深迫	方墳	
H034	N-9	〃	尊場古墳	〃　尊場	方墳	
H035	N-24	城　跡	城山城跡	〃　城山		
H036	N-25・26	古墳群	平田古墳群	〃　平田	円墳2・方墳6	

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
H037	N-26	古墳群	荒船古墳群	上本庄町荒船	円墳2・方墳5	
H038	N-26	散布地	荒船遺跡	〃 〃	縄文式土器片	
H039	N-12	古墳	天神山古墳	本庄町	墳形不明	
H040	N-12	散布地	天神山遺跡	〃 松音寺	土師器片・黒曜石片	
H041	N-12	古墳	塚根古墳	本庄町松音寺	墳形不明	
H042	N-12	〃	大塚古墳	新庄町大塚	墳形不明	
H043	N-26	散布地	前田遺跡	〃 坂山	須恵器片	
H044	N-26	古墳	扇ノ平古墳	〃 扇ノ平	土師器片	
H045	N-26	散布地	原ノ後遺跡	〃 原ノ後	弥生式土器片・土師器・須恵器片	
H046	N-12	〃	松崎遺跡	〃 松崎	縄文式土器片・黒曜石	
H047	N-12	〃	ドロケ遺跡	〃 ドロケ	土製支脚	
H048	N-12	〃	久羅弥神社遺跡	〃	土製品	
H049	N-26	古墳	松音寺古墳	〃 松音寺	方墳	
H050	N-26	古墓	松音寺古墓	〃 〃		
H051	N-12	古墳群	客山古墳群	〃 客山	方墳2(消滅)	
H052	N-12	横穴群	坂山横穴群	〃 坂山	10穴	
H053	N-12	古墳群	宮島谷古墳群	〃 宮島谷	方墳2基	
H054	N-12・13	〃	梅廻古墳群	〃 梅廻	方墳3基	
H055	N-12	横穴群	梅廻横穴群	〃 〃	1穴以上	
H056	N-13	古墳群	八日山古墳群	〃 八日山	方墳2基	1951-1・1978-1
H057	N-13	〃	大谷古墳群	〃 大谷	方墳1・墳形不明1	
H058	N-13	〃	鍛冶床古墳群	〃 鍛冶床	方墳5基	
H059	N-14	横穴群		〃		
H060	N-12	城跡	城山城跡	〃 城山		
H061	N9・12・24・26	条里制	本庄川流域条里制遺跡	〃		
H062	N-13・15	古墳群		上宇部尾町	方墳4基	
H063	N-13	古墳		〃	石室1	
H064	N-25	寺院跡	玉野寺跡	上本庄町		
H065	N-9・12	散布地	的場遺跡	〃 的場	遺構・小鍛冶跡	
H066	N-24	〃	六田遺跡	〃 六田	土師器・須恵器片	
H067	N-24	寺院跡	川上遺跡	本庄	川上社	
H068	N-24	散布地	京殿遺跡	上本庄町	土師器・須恵器片	

I．持田

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
I 001	N-37	古墳	加美古墳	東持田町大田	石棺式石室	1960-2・1966-3
I 002	N-37	〃	加佐奈子古墳	〃 〃	石棺式石室・円墳	
I 003	N-37	〃	佐々木浅市宅古墳	〃 〃	石棺式石室	1964-2
I 004	N-37	〃	佐々木亮畑古墳	〃 〃	石棺式石室・円墳	1964-2
I 005	N-37	〃	野津真宅前古墳	〃 〃	石棺式石室	1964-2
I 006	N-37	〃	常熊古墳	〃 常熊	円墳(横穴式石室)(消滅)	1960-1
I 007	N-48	横穴	鍛冶屋谷横穴	〃 以後		
I 008	N-37	〃	城の越横穴	〃 城の越	須恵器片	
I 009	N-37	〃	立花横穴	〃 立花	須恵器片(消滅)	
I 010	N-50	古墳	大源古墳	西持田町和田	円墳(30)	
I 011	N-48	〃	垣の内古墳	〃 日吉	横穴式石室	1970-1
I 012	N-47	〃	金比羅谷古墳	〃 小倉	異形石棺式	
I 013	N-48	〃	松の前古墳	〃 松の前	円墳	
I 014	N-48	古墳群	小丸山古墳群	〃 小丸山	方墳3基	
I 015	N-50	〃	宮垣古墳群	〃 和田	方墳5基・円墳1	
I 016	N-48	横穴群	尾山横穴群	〃 〃	2穴	
I 017	N-48	〃	穴の口横穴群	〃 亀尾	2穴	
I 018	N-38	散布地		川原町	須恵器片	
I 019	N-25・38	〃		〃	土師器・須恵器片	
I 020	N-38	〃		〃	土師器・須恵器片	
I 021	N-38	〃		〃	土師器・須恵器片	
I 022	N-38	〃		〃	土師器・須恵器片	
I 023	N-38	古墳	荒神古墳	〃 川原	円墳・石棺式石室	1977-2
I 024	N-38	古墳群		〃	方墳2基	1977-2
I 025	N-38	〃	後谷古墳群	〃	方墳9基	1977-2
I 026	N-38	横穴群	川原庄の上横穴群	〃 川原	須恵器・耳環(消滅)	1977-2
I 027	N-25	窯跡		〃		1977-2
I 028	N-25	古墳	内田功之助裏山古墳	福原町	円墳(横穴式石室)	
I 029	N-23	横穴群	上の堂横穴群	〃	4穴	
I 030	N-23	寺院跡	長水寺跡	〃	礎石	
I 031	N-37	古墳群	小林古墳群	坂本町小林	方墳3基	

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
I 032	N-35	古墳	小川善之助裏山古墳	坂本町別所	方墳	
I 033	N-35	〃	古妙見古墳	〃 〃	異形石棺式	1964-2
I 034	N-48	古墳群	薄井原古墳群	〃 薄井原	前方後方墳1・方墳2	1962-1・1970-1・1977-8・10
I 035	N-36	館跡	坂本館跡	〃 唐人原	土塁	
I 036	N-36	寺院跡	坊床寺跡	坂本町別所	須恵器片・瓦	
I 037	N-47	散布地			須恵器片	
I 038	N-48	古墳	洞泉寺裏古墳		方墳	
I 039	N-48	散布地			須恵器片	1977-2
I 040	N-48	〃			須恵器片	1977-2
I 041	N-50	〃			須恵器片	1977-2
I 042	N-48	〃			須恵器片	1977-2
I 043	N-48	〃			須恵器片	1977-2
I 044	N-48	〃			須恵器片	1977-2
I 045	N-37	〃			須恵器片	1977-2
I 046	N-37	〃			須恵器片	
I 047	N-37	古墳群	道仙古墳群		方墳4基(消滅)	1983-2
I 048	N-37	古墳			円墳	
I 049	N-37	古墳群			方墳2基	
I 050	N-37	〃	石野古墳群		方墳5基	
I 051	N-37	散布地	納佐池遺跡		須恵器片	
I 052	N-36・38	〃	坂本中遺跡		須恵器片	
I 053	N-38	古墳			方墳	
I 054	N-38	古墳群	香々廻古墳群		方墳3基	
I 055	N-38	古墳	中九跡古墳		前方後方墳	
I 056	N-38	〃	細曽古墳		方墳	
I 057	N-48	条里制	持田川流域条里制遺跡			
I 058	N-37	古墳群			方墳4基	
I 059	N-38	散布地			須恵器片	
I 060	N-38	〃	流田遺跡	福原町永利田	須恵器片	
I 061	N-23	〃	芝原遺跡	〃	弥生式土器・石斧・須恵器片	
I 062	N-23	〃	夏月遺跡	〃	須恵器片	
I 063	N-23	〃	石浦遺跡	〃	土師器・須恵器片	
I 064	N-37	古墳	国名古墳	西持田町	方墳(20×20)	
I 065	N-37	横穴群	沢奥横穴群	坂本町	人骨・須恵器片	
I 066	N-23	祭祀遺跡	虫野神社裏遺跡	福原町	土師器片	

J. 川津

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
J 001	N-50	散布地	西川津弥生遺跡	西川津町貝塚	弥生式土器・石斧・石	
J 002	N-52	〃	タテチョウ遺跡	〃 タテチョウ	縄文式・弥生式土器片・土師・須恵器片	1977-1・1979-5
J 003	N-50	〃	西川津貝塚遺跡	〃 貝塚	土師器片	
J 004	N-52	〃	橋本遺跡	〃 楽山	土師器片	
J 005	N-50	〃	島大構内遺跡	〃	弥生式土器片	
J 006	N-39	古墳	貝塚古墳	〃 貝塚	方墳(20×20)	
J 007	N-50	古墳群	金崎古墳群	〃 金崎	前方後方墳2・方墳3基	1951-1・1978-8
J 008	N-50	〃	馬込山古墳群	〃	方墳3基・円墳1・古墓1	
J 009	N-50	〃		〃	方墳4基	1977-2
J 010	N-39	古墳		〃	方墳(15×15)	1977-2
J 011	N-49	横穴	深町横穴	〃 深町	(消滅)	
J 012	N-39	城跡	堂頭山城跡	〃 堂頭		
J 013	N-39	〃	川津城跡	〃		
J 014	N-41	〃		〃	戦国時代	
J 015	N-41	〃		〃	戦国時代	
J 016	N-41	散布地		〃		
J 017	N-40	〃	嵩山麓遺跡	上東川津町	須恵器片	
J 018	N-40	〃		〃	須恵器片	
J 019	N-40	古墳	西宗寺古墳	〃	石棺式石室	1956-1・1964-2
J 020	N-40	〃	葉佐馬古墳	〃 真上谷	石棺式石室	
J 021	N-40	〃		〃	円墳(5)	1977-2
J 022	N-40	〃		〃	方墳(4×4)	1977-2
J 023	N-41	〃		〃	方墳(10×10)	1977-2
J 024	N-39	〃	川津第11号墳	〃	方墳(10×10)	1977-2
J 025	N-39	〃	川津第12号墳	〃	方墳(10×8)	1977-2
J 026	N-40	古墳群		〃	方墳2基	1977-2
J 027	N-40	〃		〃	方墳2基	1977-2
J 028	N-40	横穴	山根横穴	〃 門戸谷		

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
J 029	N-40	横穴群	向屋敷横穴群	上東川津町門戸谷	1穴消滅	
J 030	N-40	〃	仁王ケ谷横穴群	〃　〃		
J 031	N-40	経　塚		〃	江戸時代	1977-2
J 032	N-40	製鉄跡		〃		1977-2
J 033	N-27	峰　跡	布自枳見峰跡	上東川津町		
J 034	N-39	散布地	貝崎遺跡	〃	弥生式土器・石斧	1977-1
J 035	N-40	〃		下東川津町貝崎	須恵器片	
J 036	N-40	古　墳		〃	方墳(8×9)	1977-2
J 037	N-40	〃		〃	箱式石棺(墳形不明)	1977-2
J 038	N-39	〃		〃	方墳(15×10)	1977-2
J 039	N-39	〃		〃	方墳(10×10)	1977-2
J 040	N-39	〃		〃	方墳(15×15)	1977-2
J 041	N-39	〃		〃	方墳(10×8)	1977-2
J 042	N-39	〃		〃	方墳(15×15)	1977-2
J 043	N-39	〃		〃	方墳(21×21)	1977-2
J 044	N-39	〃	中尾古墳	〃	方墳(21×21)	1977-2
J 045	N-39	古墳群		〃	方墳6基	1977-2
J 046	N-49	古　墳	菅田丘古墳	〃	前方後方墳(消滅)	1977-3
J 047	N-49	〃	小丸山古墳	菅田町	方墳(25×25)	1951-1
J 048	N-49	〃	薬師山古墳	〃	箱式棺(消滅)	1955-1
J 049	N-49	古墳群	菅田丘古墳群	〃	方墳10・不明1	
J 050	N-50	散布地	原の前遺跡	〃	縄文式～平安時代・円墳2	
J 051	N-50	古　墳	福山古墳		3基	
J 052	N-49	古墳群	深町古墳群			
J 053	N-50	古　墳			円墳	1972-2
J 054	N-50	〃			方墳	1972-2
J 055	N-38	〃			方墳	1972-2
J 056	N-38	〃			前方後円墳1	1972-2
J 057	N-38	古墳群			方墳2基	1972-2
J 058	N-39	散布地				
J 059	N-39	寺院跡				
J 060	N-52	古墳群	柴古墳群	西川津町	方墳1・円墳2(消滅)	
J 061	N-52	古　墳	山崎古墳	〃	方墳1(消滅)	
J 062	—					
J 063	N-41	散布地	柴遺跡	西川津町		
J 064	N-41	〃	堤廻遺跡	〃	土師器・須恵器片(消滅)	1986-2
J 065	N-49	古　墳	宮田第1号墳	菅田町		
J 066	N-49	〃	宮田第2号墳	〃		
J 067	N-49	〃	浜弓第1号墳	〃		
J 068	N-49	〃	浜弓第2号墳	〃		
J 069	N-49	古墳群	上浜弓古墳群	〃		

K．法吉

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
K001	N-57・58	散布地	法吉遺跡	法吉町	縄文式土器・弥生式土器・土師器片	1975-5・1977-1
K002	N-57	〃	下り松遺跡	〃　下り松	弥生式土器片	1977-1
K003	N-58	古　墳	栗元古墳	〃　栗元	円墳	
K004	N-58	〃	山槇第1号墳	〃　山槇	円墳	
K005	N-58	〃	山槇第2号墳	〃　〃	円墳	
K006	N-58	〃	吉岡兵之助宅前古墳	〃　鴬谷	円墳	
K007	N-58	〃	松崎金一郎所有山林古墳	〃　〃	円墳	
K008	N-58	〃	伝字牟加比姫命御陵古墳	〃　〃	円墳	
K009	N-58	〃	新宮古墳	〃　新宮谷	円墳(石室)	
K010	N-57	〃	塚山古墳	〃　下り松	円墳	
K011	N-58	〃	長谷歳徳神古墳	〃　長谷		
K012	N-57	古墳群	曾田虎一郎宅上古墳群	〃　田中谷	円墳2基	
K013	N-57	〃	唐梅古墳群	〃　唐梅	方墳4基	
K014	N-51	横　穴	赤崎横穴	〃　赤崎	須恵器片	
K015	N-51	〃	切通横穴	〃　〃	人骨(消滅)	
K016	N-58	〃	栗元横穴	〃　栗元		
K017	N-49	横穴群	ひのさん山横穴群	〃　薦沢	30穴以上(2/3消滅)	
K018	N-57	窯　跡	下り松窯跡	〃　下り松	須恵器片	
K019	N-58	城　跡	白髪山城跡	〃	山城(古井戸)	1980-1
K020	N-56	〃	真山城跡	〃		1980-1
K021	N-58	古　墓	コゴメダカ山遺跡	〃	宋銭・明銭	
K022	N-59	散布地	春日遺跡	春日町	弥生式土器片	1977-1

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
K023	N-60	古　　墳	煙硝倉古墳	春日町	円墳(消滅)	
K024	N-59	横　　穴	摩利支天山横穴	〃		
K025	N-59	横 穴 群	法吉小学校裏山横穴群	〃	(消滅)	
K026	N-59	〃	とねり坂横穴群	黒田町とねり坂	(消滅)	1969-2
K027	N-68	古　　墳	小丸山古墳	比津町	前方後円墳	1951-1
K028	N-57	横　　穴	ひゃくだ横穴	〃	(消滅)	
K029	N-57	横 穴 群	比津が崎横穴群	〃	(消滅)	
K030	N-57	〃	水酌崎横穴群	〃　水酌崎	半壊	
K031	N-51	横　　穴	桜崎横穴	奥谷町桜崎	厨子形石棺	1971-7
K032	N-61	古　　墳			方墳	
K033	N-59	〃			方墳	
K034	N-60	〃			方墳	
K035	N-58	〃			方墳	
K036	N-58	古　　墓			経塚3	
K037	N-58	〃			五輪塔・宝篋印塔	
K038	N-68	散 布 地				
K039	N-57	古 墳 群			方墳3基	
K040	N-57	散 布 地	中代遺跡			
K041	N49・58	古 墳 群	打廻古墳群	法吉町	方墳5基(箱式石棺)	
K042	N-57	散 布 地	田中谷遺跡	〃　田中谷	弥生式土器・須恵器片	
K043	N-58	古　　墳	なつめ谷荒神古墳	〃　なつめ谷	円墳	
K044	N-58	城　　跡	高つぼ山城跡	〃	山城	
K045	N-49	散 布 地	白鹿谷遺跡	〃　白鹿谷	土師器・須恵器片・石帯	
K046	N-57	〃	久米遺跡	〃　久米	須恵器片	
K047	N-58	窯　　跡	長谷窯跡	〃	須恵器片	
K048	N-57	経　　塚	石在経塚	春日町石在	一字一石経	
K049	N-57	古　　墳	田中谷第１号墳	〃　田中谷	前方後方墳	
K050	N-57	〃	田中谷第２号墳	〃　〃	方墳	
K051	N-49	〃	松ケ峠古墳	法吉町松ケ峠	円墳	
K052	N-57	横 穴 群	月廻横穴群	比津町	21穴(石棺・礫床等)	
K053	N-58	散 布 地	下り松Ⅰ遺跡	法吉町下り松		
K054	N-58	〃	下り松Ⅱ遺跡	〃		
K055	N-58	神 社 跡	鶯谷遺跡	〃　鶯谷		

L．生馬

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
L001	N-55	散 布 地	法恩寺遺跡	東生馬町	石斧	
L002	N-55	〃	宮ノ下遺跡	〃	須恵器片	
L003	N-57	古　　墳	桜本古墳	〃		
L004	N-66	古 墳 群	かいつき山古墳群	〃	方墳2基(消滅)	1951-1・1972-4
L005	N-55	横 穴 群	辺田横穴群	〃	土製支脚	
L006	N-66	散 布 地	元井手遺跡	西生馬町	弥生式土器片	1977-1
L007	N-66	〃	名尾遺跡	〃	弥生式土器片	
L008	N-64	〃	大宮遺跡	〃	石斧	
L009	N-66	古　　墳	名尾丘古墳	〃	方墳(消滅)	1951-1
L010	N-66	古 墳 群	高専敷地内古墳群	〃	方墳3基(消滅)	
L011	N-64	横 穴 群	後谷横穴群	〃	5穴(4穴消滅)	
L012	N-64	〃	郷戸横穴群	〃		
L013	N-65	条 里 制	佐太川流域条里制遺跡	〃	(消滅)	
L014	N-68	横 穴 群	東前横穴群	浜佐田町		
L015	N-68	〃	殿山横穴群	〃	(消滅)	
L016	N-68	〃	小池谷横穴群	〃	2穴(消滅)	
L017	N-63	横　　穴	帳塚古墳	上佐陀町	円墳	
L018	N-63	横 穴 群	かねじ谷横穴群	〃	2穴	
L019	N-65	古　　墳	皆美山第１号墳	下佐陀町	円墳	
L020	N-65	〃	皆美山第２号墳	〃	墳形不明(石棺)	
L021	N-65	古 墳 群	松橋古墳群	〃	方墳2・円墳1	
L022	N-66	古　　墳	名尾荒神古墳	薦津町	円墳	
L023	N-65	横　　穴	船津横穴	〃	須恵器片	
L024	N-68	城　　跡	薦津殿山城跡	〃	山城(消滅)	
L025	N-65	〃	高柳城跡	〃	山城	
L026	N-55	寺 院 跡	平ノ前廃寺	東生馬町	軒丸瓦・柱穴	
L027	N-55	散 布 地	東生馬遺跡	〃	須恵器片	
L028	N-76	〃	西谷遺跡	西生馬町西谷	石鏃(消滅)	

M．古江

遺跡番号	地図番号	種別	名称	所在地	遺構・遺物	文献
M001	N-82	散布地	後谷遺跡	東長江町	縄文式土器片・石鏃・石錘	1775-4
M002	N-81	古墳群	東長江古墳群	〃	方墳4基	
M003	N-81	古墳	山崎古墳	〃	前方後円墳(36)	
M004	N-82	〃		〃	方墳(7.5×7.5)	
M005	N-82	〃	細原尻古墳	〃	方墳(9.5×9.5)	
M006	N-77	城跡	二つ山城跡	〃	山城	
M007	N-88	散布地	西長江遺跡	西長江町	須恵器片	
M008	N-88	〃		〃	須恵器片	
M009	N-88	〃		〃	土師器・須恵器片	
M010	N-88	〃		〃	須恵器片	
M011	N-79	古墳		〃	方墳(16×12)	
M012	N-79	〃		〃	方墳(12×12)	
M013	N-79	〃		〃	方墳(11×11)	
M014	N-79	〃		〃	方墳(16×15)	
M015	N-79	〃		〃	方墳(9×8)	
M016	N-79	〃		〃	方墳(10×10)	
M017	N-79	古墳群		〃	方墳2基	
M018	N-86	古墳	岩屋古墳	〃 岩屋	墳形不明(横穴式石室)	
M019	N-86	〃	下垣井戸の上古墳	〃 下垣	墳形不明(石室)	
M020	N-86	〃	塚さん古墳	〃 〃	横穴式石室	
M021	N-86	〃	山崎古墳	〃 山崎	須恵器片	
M022	N-86	〃	宗垣古墳	〃	円墳	
M023	N-86	〃	下垣古墳	〃 下垣	円墳	
M024	N-81	窯跡	常楽寺瓦窯跡	〃 常楽寺		
M025	N-86	城跡	要害山城跡	〃 桜谷		
M026	N-79・86	条里制	西長江地区条里遺跡	〃	須恵器片	
M027	N-75	古墳		古曽志町		
M028	N-75	古墳群		〃		
M029	N-75	〃		〃		
M030	N-82	〃		〃		
M031	N-75	古墳		〃		
M032	N-75	古墳群		〃		
M033	N-75	〃	大塚古墳群	〃	方墳4・円墳1(35)	
M034	N-75	古墳群	釜代古墳群	〃	方墳2・円墳1・不明7(半壊3)	
M035	—					
M036	N-74	〃	ちょう塚古墳	古曽志町	円墳	
M037	N-75	〃	丹華庵古墳	〃	方墳(47)(長持形石棺)	1951-1・1963-1・1966-3
M038	N-75	〃	大塚荒神古墳	〃 大塚	方墳(割竹形石棺)	1966-3
M039	N-75	〃	神主塚古墳	〃 神主塚	前方後方墳	
M040	N-75	古墓	道栄寺古墓	〃	五輪塔3・宝篋印塔1	
M041	N-	条里制	古曽志川流域条里制遺跡	〃		
M042	N-74	散布地	稲寄遺跡	古志町	土師器・須恵器片	
M043	N-74	古墳		〃	方墳(21×15)	
M044	N-74	〃		〃	方墳(25×22)	
M045	N-74	〃		〃	方墳(13×8)	
M046	N-74	〃		〃	方墳(13×13)	
M047	N-74	〃		〃	方墳(6×6)	
M048	N-72	古墳群		〃	方墳2基	
M049	N-72	〃		〃	方墳2基	
M050	N-74	古墳		〃	方墳(15×15)	
M051	N-74	〃		〃	方墳(8×8)	
M052	N-74	古墳群	茶臼山古墳群	〃	前方後円墳(23)・方墳(11×11)	
M053	N-73	散布地		西谷町	須恵器片	
M054	N-73	〃		〃	須恵器片	
M055	N-72	古墳		〃	方墳(16×14)	
M056	N-74	〃		〃	方墳(11×11)	
M057	N-71	〃		〃	方墳(7×7)	
M058	N-73	〃		〃	方墳(11×11)	
M059	N-76	〃		〃	方墳(16×16)	
M060	N-76	〃	屋敷古墳	〃	方墳(16×16)	
M061	N-74	〃	奥谷敷裏山古墳	〃	方墳(13×13)	
M062	N-71	〃	小丸山古墳	〃	円墳(10)	
M063	N-71	〃	長瀬金蔵畑中古墳	〃	石室・須恵器片	
M064	N-71	〃	弊差古墳	〃	方墳(14×12)	
M065	N-71	〃	牛切会場古墳	〃	石室・刀剣	
M066	N-76	〃	小笹保宅北方古墳	〃	墳形不明(消滅)	

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
M067	N-71	古　　墳	牛切古墳	西谷町	墳形不明(消滅)	1960-1
M068	N-71	横 穴 群	牛切横穴群	〃	2穴	
M069	N-76	古 墳 群		西浜佐陀町	方墳3基	
M070	N-75	〃	寺津古墳群	〃	円墳3基	
M071	N-75	横 穴 群	北小原横穴群	〃	2穴	1974-1
M072	N-75	〃	寺津横穴群	〃　寺津	5穴	
M073	N-76	〃	寺津停留所裏横穴群	〃　〃		
M074	N-67	城　　跡	満願寺城跡	〃　〃		1980-1
M075	N-67	散 布 地	宍道湖底遺跡	〃	縄文式土器片	
M076	N-74	〃	中古志遺跡	古志町		
M077	N-82	古　　墳	大谷古墳	古曾志町		1987-1
M078	N-82	集 落 跡	寺廻田遺跡	〃　寺廻田		
M079	N-82	古　　墳	善坊古墳	〃　善坊		
M080	N-82	散 布 地	清水遺跡	〃　清水		
M081	N-75	〃	幸神遺跡	〃　幸神	須恵器片	
M082	N-75	古　　墳	平屋敷古墳	〃　寺廻田	方墳2基	

N．秋鹿

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
N001	N-95	散 布 地	一久保遺跡	秋鹿町		1978-6
N002	N-106	〃	万才遺跡	〃　万才		1978-6
N003	N-85	〃	佃遺跡	〃　本谷	古式土師器・須恵器片	1978-6
N004	N-87	古　　墳	亀割坂古墳	〃	方墳	1978-6
N005	N-87	〃	後山古墳	〃	方墳(16×16)	1978-6
N006	N-86	〃	雲岸寺古墳	〃　雲岸寺	円墳(7)	1978-6
N007	N-85・87	古 墳 群	廻田古墳群	〃　本谷	方墳7基	1978-6
N008	N-86	〃	雲岸寺東古墳群	〃　雲岸寺	円墳2基	1978-6
N009	N-85	〃	結込古墳群	〃　結込	3基(2基消滅)	1978-6
N010	N-83	横 穴 群	祝谷横穴群	〃　祝谷		1978-6
N011	N-86	寺 院 跡	雲岸寺跡	〃	古式土師器片	1978-6
N012	N-85	古　　墓	出雲郷古墓群	〃　出雲郷	五輪塔2・宝篋印塔10他多数	1978-6
N013	N-85	〃	寺の前古墓群	〃　本谷		1978-6
N014	N-85	〃		〃	一石五輪塔	1978-6
N015	N-87	条 里 制	秋鹿川流域条里制遺跡	〃		1978-6
N016	N-93	散 布 地	西ノ空遺跡	大垣町		1978-6
N017	N-95	古　　墳	池窪山古墳	〃	横穴式石室・須恵器片	1978-6
N018	N-95	〃	丸山荒神古墳	〃　吉砥	円墳(15)	1978-6
N019	N-95	古　　墓	大垣氏古墓	〃		1978-6
N020	N-95	古　　墳	重里古墳	〃　重里	円墳(15)	1978・6
N021	N-95	〃	高下古墳	〃　高下	円墳(10)	1978-6
N022	N-95	古 墳 群	友田古墳群	〃　友田	円墳2基	1978-6
N023	N-93	〃	鍛冶屋谷古墳群	〃　鍛冶屋	円墳3基	1972-6
N024	N-95	〃	大垣大塚古墳群	〃　名原	方墳(36×33)・円墳(54)	1951-1
N025	N-93	城　　跡	亀畑山城跡	〃		
N026	N-87	古　　墳	石曳古墳	岡本町石曳	円墳(10)	
N027	N-87	〃	狐松古墳	〃　崎山	円墳(15)	
N028	N-87	〃	桑地谷古墳	〃	円墳(10)	
N029	N-96	古 墳 群	床常古墳群	〃　古屋垣	円墳5基	
N030	N-87	〃	崎山古墳群	〃　崎山	円墳3基	
N031	N-87	〃	三栗屋奥古墳群	〃　三栗屋奥	円墳3基	
N032	N-85	〃	横木古墳群	〃	円墳3基	
N033	N-87	〃	岡本友田古墳群	〃　友田	方墳2基	
N034	N-94	城　　跡	上岡城跡	〃		
N035	N-85	〃	鰐尾山城跡	〃	刀剣	
N036	N-84	経　　塚	経塚山経塚			
N037	N-85・86	散 布 地	井神谷西遺跡			
N038	N-86	〃	井神谷東遺跡			
N039	N-93	館　　跡	大垣氏館跡			

O．大野

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
O001	N-106	散 布 地	山崎遺跡	大野町山崎	須恵器片	1978-9
O002	N-108	〃	丁の坪遺跡	〃　丁の坪	須恵器片	1978-9

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
O003	N-105	散布地	善谷遺跡	大野町前次垣	須恵器片	1978-9
O004	N-103	〃	余慶大明神奉納遺物	〃	土製支脚	1978-9
O005	N-108	〃	津の森神社境内遺跡	〃　津の森	土師器・須恵器片	1978-9
O006	N-104	古　墳	上根尾古墳	〃　古屋垣	方墳(7.5×7.5)	1978-9
O007	N-104	〃	風の前古墳	〃　〃	方墳(13×12)	1978-9
O008	N-106	〃	下屋敷古墳	〃　松の前	墳形不明(横穴式石室)	1978-9
O009	N-104	古墳群	大野越古墳群	〃　元石	方墳4基	1978-9
O010	N-106	〃	山崎古墳群	〃　山崎	方墳2基	1978-9
O011	N-108	〃	新宮山古墳群	〃　新宮	前方後方墳1・方墳2	1978-9
O012	N-106・108	〃	丁の坪古墳群	〃　加々坪	方墳6基	1978-9
O013	N-103	〃	西添古墳群	〃　上根尾	方墳2基	1978-9
O014	N-105	〃	大坪古墳群	〃　大坪	方墳3基	1978-9
O015	N-106	古　墓	国次古墓	〃　国次	五輪塔	1978-9
O016	N-103	城　跡	十膳山城跡	〃　空山		1978-9
O017	N-102	散布地	杠遺跡	上大野町杠	須恵器片	1978-9
O018	N-104	〃	坂本遺跡	〃　小谷	須恵器片	1978-9
O019	N-104	〃	高木遺跡	〃　高木	須恵器片	1978-9
O020	N-108	〃	片山遺跡	〃　片山	土師器・須恵器片	1978-9
O021	N-104	〃	土居遺跡	〃　寺の前	須恵器片	1978-9
O022	N-104	〃	秋国遺跡	〃　秋国	須恵器片	1978-9
O023	N-104	〃	小谷遺跡	〃　小谷	須恵器片	1978-9
O024	N-93	〃	太郎丸遺跡	〃　太郎丸	須恵器片	1978-9
O025	N-104	古　墳	古名塚古墳	〃　杠	墳形不明	1978-9
O026	N-104	〃	山竹古墳	〃　山竹	方墳(10×10)	1978-9
O027	N-104	〃	天王塚古墳	〃　下毛畑	方墳(15×15)	1978-9
O028	N-106	〃	不動田古墳	〃　不動田	方墳(13×13)	1978-9
O029	N-105	〃	金山荒神古墳	〃　殿山	方墳(12×12)	1978-9
O030	N-106	〃	大森古墳	〃	方墳(9×9)	1978-9
O031	N-106	〃	平廻古墳	〃　平廻	前方後方墳(43.5)	1978-9
O032	N-104	古墳群	坂本古墳群	〃　光久	方墳4基	1978-9
O033	N-104	〃	高崎古墳群	〃　宮咲	方墳5基	1978-9
O034	N-104	〃	南山古墳群	〃　南	方墳3基	1978-9
O035	N-106	〃	杢戸古墳群	〃　杢戸	方墳2基	1978-9
O036	N-104・105	〃	廻田古墳群	〃　廻田	方墳2基	1978-9
O037	N-106	〃	栗無古墳群	〃　栗無	方墳2基	1978-9
O038	N-106	〃	北廻古墳群	〃	方墳3基	1978-9
O039	N-104	〃	本堂古墳群	〃　宮倉	方墳2基	1978-9
O040	N-104	横　穴	井尻横穴	〃　井尻	玄室のみ残	1978-9
O041	N-104	横穴群	小谷横穴群	〃　大床	2穴(消滅)	1978-9
O042	N-104	古　墓	西光寺裏山古墓群	上大野町土居	五輪塔・宝篋印塔	1977-7
O043	N-104	〃	刈山古墓群	〃	五輪塔	1978-9
O044	N-106	〃	塚の鼻古墓群	〃　番上	五輪塔	1978-9
O045	N-104	経　塚	惣源寺経塚	〃		1978-9
O046	N-93	城　跡	本宮山城跡	〃	(消滅)	1978-9
O047	N-106	寺院跡	山月神社跡	〃		1978-9
O048	N-100	散布地	魚瀬貝塚遺跡	魚瀬町貝塚	凹石	1978-9
O049	N-100	〃	魚瀬海良遺跡	〃　海良	土師器片	1978-9
O050	N-108	祭祀遺跡	杢戸祭祀遺跡	上大野町杢戸		

P．旧市内

遺跡番号	地図番号	種　別	名　　称	所　在　地	遺　構・遺　物	文　　献
P001	N-60	城　跡	松江城	殿町	平山城・天守	1980-1
P002	N-61	散布地	天倫寺前遺跡	国屋町	石斧・石皿・黒曜石	
P003	N-69	城　跡	荒隅城跡	〃	土塁・階段状遺構	1980-1
P004	N-62	散布地	茶町遺跡	茶町	石斧	
P005	N-60	横穴群	赤山横穴群	北堀町赤山	須恵器片(消滅)	
P006	S-28	古　墓	堀尾忠晴公墓	栄町	五輪塔	

埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて

1. 民間開発の場合

(1) 開発行為を計画されたら、出来るだけ早い段階で本書によって埋蔵文化財包蔵地の有無について確認して下さい。

(2) 埋蔵文化財包蔵地については、本書において出来るだけ正確な位置を記入しているが、その範囲等については図面上では表現しきれないので該当地において開発行為を計画された場合は、松江市教育委員会社会教育課と現地立会して範囲を確認して下さい。

(3) 分布調査にあたっては、主として山林の尾根沿いに踏査した。畑地、水田地については作物等の関係から立入を遠慮した場所もあり未踏査の地域が多い。又、同じ山林でも樹木が密生して見通しのきかない場所においては古墳等の有無は確認出来なかった。

従って地図上でマークのない部分については必ずしも該当しないということにはならないので、そ部分において開発行為を計画される場合は、念のため早い時期に分布調査を依頼されたい。

(4) 上記(1)(2)(3)の項において、開発予定区域内に埋蔵文化財包蔵地が該当する場合で学術的価値が高いと認められるものについては、極力現状のまま保存出来るように配慮してもらいたい。通常のものについては、事前に発掘調査を実施して価値を認かめることになる。

(5) 発掘(＝工事)にあたっては、工事に着手しようとする日の60日前までに「埋蔵文化財発掘届出書」(別紙様式１）を文化庁長官に届け出なければならない。（文化財保護法第57条の２）

一方では、松江市教育委員会教育長宛に「発掘調査依頼書」を提出されたい。

(6) 松江市教育委員会は、上記依頼書を受理したのち、「埋蔵文化財発掘調査通知書」を文化庁長官宛に提出し、発掘調査を実施することになる（文化財保護法第98条の２）が、調査に必要な経費については事業者に負担をお願いしている（文化財保護法第98条の２の３）のでよろしく御協力願いたい。

但し、事業者が個人であって、もっぱらその個人の用に供する住宅の建築等に伴う発掘調査については、地方公共団体が国庫補助等によって実施するのが適当と考えられている。

(7) 工事中に古墳や横穴など遺跡と認められるものを発見されたときは、その現状を変更することなく、遅滞なく「遺跡発見届出書」(別紙様式２)を文化庁長官宛に届出け出なければならない。（文化財保護法第57条の５）その場合の届け出義務者は、土地所有者となっている。

(8) 上記の「遺跡発見届出書」を提出した後の遺跡の取り扱いについては、上記４及び６と同様の手続きが必要である。

(9) 土木工事もしくは、農作業等において土器のかけらなど埋蔵文化財と認められるものを発見されたときは、所轄の松江警察署長宛「埋蔵文化財発見届出書」(別紙様式３)を提出しなければならない。（遺失物法第13条）

2. 国の機関等の行う開発事業の場合

(1) ここでいう国の機関等とは、「松江市」はもとより、他に政令で定められたものとしては、「財団法人松江市開発公社」・「財団法人松江市観光開発公社」が該当する。

(2) 国の機関等において公共事業にかかる開発行為を企画された場合なるべく早い段階で本書によって埋蔵文化財包蔵地の有無について確認して下さい。

(3) 不明な箇所については、現地立会もしくは分布調査を松江市教育委員会へ依頼されたい。

(4) 上記(2)及び(3)の結果、開発予定区域内に埋蔵文化財包蔵地が該当する場合で学術的価値が高いものについては極力、現状のまま保存出来るように配慮してもらいたい。通常のものについては、事前に発掘調査を実施して価値を確かめることになる。

(5) 発掘(＝工事)にあたっては、文化庁長官或「埋蔵文化財発掘調査通知書」（別紙様式４）を提出しなければならない。（文化財保護法第57条の３）

一方では、発掘調査の依頼書を松江市教育委員会教育長宛提出されたい。

(6) 松江市教育委員会は、上記(4)の依頼書を受理したのち「埋蔵文化財発掘調査通知書」を文化庁長官宛に提出し発掘調査を実施することになる（文化財保護法第68条の２）が調査に必要な経費については事業者負担となっている（文化財保護法第68条の２の３）。

但し、公立学校の建設事業に伴う発掘調査については建設場所を定めるため遺跡の範囲や、遺構のあり方の概要等を確認する調査については、文化庁所管の補助事業として実施する。計画決定後の建物部分の発掘調査は、公立学校施設費の中の付帯工事費として認められている。

(7) 工事中に古墳や横穴など遺跡と認められるものを発見されたときは、その現状を変更することなく、遅滞なく「遺跡発見通知書」（別紙様式５）を文化長官宛提出しなければならない。（文化財保護法第57条の６第１項）その場合の通知義務者は土地所有者となっている。

(8) 上記の「遺跡発見通知書」を提出した後の、遺跡の取扱いについては、上記(5)及び(6)と同様の手続きが必要である。

(9) 土木工事等により土器のかけらなど埋蔵文化財と認められるものを発見されたときは所轄の松江警察署長宛「埋蔵文化財発見届出書」を提出しなければならない。（遺失物法第13条）

第　　号
年　月　日

文化庁長官　殿

住　所
氏名等

遺跡発見の〔届出・通知〕について

遺跡と認められるものを発見したので、文化財保護法（昭和25年法律第214号）〔第57条の5第1項・第57条の6第1項〕の規定により、別記1の事項について、関係書類を添付し、別記2のとおり〔届出・通知〕します。

【別　記　1】

1. 遺跡の種類
2. 遺跡の所在及び地番
3. 遺跡の所在する土地の所有者の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名
4. 遺跡の所在する土地の占有者の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名
5. 遺跡の発見年月日
6. 遺跡を発見するに至った事情
7. 遺跡の現状
8. 遺跡の現状を変更する必要のあるときは、その時期及び理由
9. 出土品のあるときは、その種類、形状及び数量
10. 遺跡の保護のために執った、又は執ろうとする措置
11. その他参考となるべき事項

【添付書類】

遺跡が発見された土地及びその付近の地図並びに土木工事等により遺跡の現状を変更する必要があるときは、当該土木工事等の概要を示す書類及び図面。

【別　記　2】

57条の5第1項・57条の6第1項
（○で囲むこと）

都道府県文書番号
・　年　月　日

委保第　号・　年　月　日

1. 遺跡の種類	散布地　集落跡　貝塚　都城跡　官衙跡　城館跡　社寺跡　古墳　横穴墓 その他の墓　生産遺跡　その他の遺跡（　　）
遺跡の時代	旧石器　縄文　弥生　古墳　奈良　平安　中世　近世　その他（　　）
2. 所在地	
3. 土地所有者	氏名等： 住　所：
4. 土地占有者	氏名等： 住　所：
5. 発見年月日	年　月　日～　日　年　月　日
6. 発見の事情	土木工事中（　　）分布調査　試掘調査　その他（　　）
7. 現状	宅地　水田　畑地　山林　道路　荒蕪地　原野　その他（　　）
8. 現状の変更	時期：　年　月　日～　年　月　日 理由：
9. 出土品	（種類、形状、数量）
10. 保護措置	
11. 参考事項	

指導事項	発掘調査　工事立会　慎重工事　その他（　　）

起案	決裁	発送	引継

提出書	保管証	認定通知	帰属	報告書

〔注意事項〕① 太線内は届出・通知者が記入。　② 指導事項欄は都道府県教育委員会が記入。
③ 1・6・7・指導事項欄は該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は（　）内記入。

第　　号
年　月　日

文化庁長官　殿

住　所
氏名等

埋蔵文化財発掘の〔届出・通知〕について

周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事等のための発掘を実施したいので、文化財保護法（昭和25年法律第214号）〔第57条の2第1項・第57条の3第1項〕の規定により、別記1の事項について、関係書類を添付し、別記2のとおり〔届出・通知〕します。

【別　記　1】

1. 土木工事等をしようとする土地の所在及び地番
2. 土木工事等をしようとする土地の面積
3. 土木工事等をしようとする土地の所有者の氏名又は名称及び住所
4. 土木工事等をしようとする土地に係る遺跡の種類、員数及び名称並びに現状
5. 当該土木工事等の目的、計画及び方法の概要
6. 当該土木工事等の主体となる者（当該土木工事等が請負契約等によりなされるときは、契約の両当事者）の氏名及び住所（法人その他の団体の場合は、その名称及び代表者の氏名並びに事務所の所在地）
7. 当該土木工事等の施行担当責任者の氏名及び住所
8. 当該土木工事等の着手の時期
9. 当該土木工事等の終了の予定時期
10. その他参考となるべき事項

【添付書類】

土木工事等をしようとする土地及びその付近の地図並びに当該土木工事等の概要を示す書類及び図面

【別　記　2】

57条の2第1項・57条の3第1項
（○で囲むこと）

都道府県文書番号	
委保第　　号・　　年　　月　　日	・　　年　　月　　日

1. 所在地			
2. 面積			
3. 土地所有者	氏名等： 住　所：		
4. 遺跡の種類	散布地　集落跡　貝塚　都城跡　官衙跡　城館跡　社寺跡　古墳　横穴墓 その他の墓　生産遺跡　その他の遺跡（　　）		
遺跡の名称		員数	
遺跡の現状	宅地　水田　畑地　山林　道路　荒蕪地　原野　その他（　　）		
遺跡の時代	旧石器　縄文　弥生　古墳　奈良　平安　中世　近世　その他（　　）		
5. 工事の目的	道路　鉄道　空港　河川　ダム　学校　住宅　工場　その他建物（　　） 宅地造成　土地区画整理　公園造成　ガス　電気　水道　農業関連 土砂採取　観光開発　その他の開発（　　）		
工事の概要			
6. 工事主体者	氏名等： 住　所：		
7. 施工責任者	氏　名： 住　所：		
8. 着手時期	年　　月　　日	9. 終了時期	年　　月　　日
10. 参考事項			

指導事項	発掘調査　工事立会　慎重工事　その他（　　）

起案	決裁	発送	引継

〔注意事項〕① 太線内は届出・通知者が記入。② 指導事項欄は都道府県教育委員会で記入。
③ 遺跡の種類・現状・時代及び指導事項欄は該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は（ ）内に記入。

第　　号
年　月　日

文化庁長官　殿

住　所
機関名

埋蔵文化財発掘調査の通知について

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第98条の2第1項の規定により、埋蔵文化財について発掘調査を実施したいので、『文化財保護法の一部を改正する法律等の施行について』(昭和50年9月30日付庁保管第191号）第11－1、(1)により、別記1の事項について、関係書類を添付し、別記2のとおり通知します。

【別　記　1】

1. 発掘予定地の所在及び地番
2. 発掘予定地の面積
3. 発掘予定地に係る遺跡の種類、員数及び名称並びに現状
4. 発掘調査の目的
5. 発掘調査の主体となる者の氏名及び住所（国若しくは地方公共団体の機関又は法人その他の団体の場合は、その名称及び代表者の氏名並びに事務所の所在地）
6. 発掘担当者の氏名及び住所並びに経歴
7. 発掘着手の時期
8. 発掘終了の予定時期
9. 出土品の処置に関する希望
10. その他参考となるべき事項

【添付書類】

1. 発掘予定地及びその付近の地図（周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘の場合は、当該地図に埋蔵文化財包蔵地の概略の範囲を記入したもの）
2. 発掘担当者が発掘調査の主体となる者以外の者であるときは、発掘担当者の発掘担当承諾書
3. 発掘予定地の所有者の承諾書
4. 発掘予定地につき権原に基づく占有者があるときは、その承諾書
5. 発掘予定地の区域において、石灰石、ドロマイド、耐火粘土、砂鉱等地表に近い部分に存する鉱物につき鉱業権が設定されているときは、当該鉱業権者の承諾書

【別　記　2】

98条の2第1項

都道府県文書番号	
委保第　　号・　　年　　月　　日	・　　年　　月　　日

1. 所在地			
2. 調査面積			
土地所有者	氏名等：		
3. 遺跡の種類	散布地　集落跡　貝塚　都城跡　官衙跡　城館跡　社寺跡　古墳　横穴墓 その他の墓　生産遺跡　その他の遺跡（　　）		
遺跡の名称		員数	
遺跡の現状	宅地　水田　畑地　山林　道路　荒蕪地　原野　その他（　　）		
遺跡の時代	旧石器　縄文　弥生　古墳　奈良　平安　中世　近世　その他（　　）		
4. 調査の目的 調査の契機	a．学術研究（　　）　b．遺跡整備　c．自然崩壊		
	d．開発事業に伴う｛道路　鉄道　空港　河川　ダム　宅地造成　区画整理　公園造成 学校　住宅　工場　その他建物（　　）　ガス　電気　水道 農業関連　土砂採取　観光開発　その他開発（　　）｝		
	備考：		
5. 調査主体者	氏名：		
	住所：		
6. 発掘担当者	氏名：		
	住所：		
	経歴：		
7. 着手時期	年　　月　　日	8. 終了時期	年　　月　　日
9. 出土品処置			
10. 参考事項			

指導事項				
起案	決裁	発送	引継	
提出書	保管証	認定通知	帰属	報告書

〔注意事項〕① 太線内は通知者が記入。　② 遺跡の種類・現状・時代及び調査目的欄は、該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は（ ）内に記入。

松教社第　　号
平成　　年　　月　　日

松江警察署長　　殿

保管者　島根県松江市末次町86番地
松江市教育委員会
教育長　諏　訪　秀　富

埋蔵文化財発見届

下記のとおり埋蔵文化財を発見しましたので、遺失物法第13条の規定により届出ます。なお、下記物件は破損しやすい物件につき現物は指示のあるまで私の責任において保管いたすことを御了承下さい。

記

1. 物件の名称及び数量

2. 発見者の住所・職業・氏名・生年月日

島根県松江市末次町86番地

松江市教育委員会　　（　　年　月　日生）

3. 発見した土地又は家屋等の所有者の住所・職業・氏名・生年月日

島根県松江市　　町　　番地

4. 発見の年月日

平成　　年　　月　　日

5. 発見の場所

島根県松江市　　町　　番地

6. 発見の原因

発掘調査による

7. 発見した土地または家屋等の所有権を取得した年月日

平成　　年　　月　　日

8. 備　考

平成　　年　　月　　日

松江市教育委員会
教育長　　諏　　訪　　秀　　富　　殿

住　　所
申請者名　　印

埋蔵文化財の分布調査について（依頼）

このことについて、下記事業計画区域の分布調査を依頼します。

1. 開発事業名
2. 開発事業の目的及びその概要
3. 開発事業着工予定時期
4. 開発事業者名
5. 工事施工者名
6. 担当者名(連絡先)
7. 開発区域(所在地)
   （現　況）
   （面　積）
8. 添付書類○開発区域を示す平面図、現況図、計画平面図、立面図
   ○その他必要な図面

平成　　年　　月　　日

松江市教育委員会
教育長　　諏　　訪　　秀　　富　　殿

住　　所
申請者名　　印

埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）

このことについて、下記事業計画区域の発掘調査を依頼します。

1. 開発事業名
2. 開発事業の目的及びその概要並びに着工予定時期
3. 周知の遺跡名
4. 開発事業者名
5. 工事施工者名
6. 担当者名（連絡先）
7. 開発区域（所在地）
   （現　況）
   （面　積）
8. その他参考となる事項
9. 添付書類○開発区域を示す平面図、現況図、計画平面図、立面図
   ○その他必要な図面

関係文献目録

文献番号	著作者	書名
1909－1	大道　弘雄	探雲記（考古学雑誌７の11～８の９）
1918－1	梅原　末治	丹波国南桑田郡篠村の古墳（考古学雑誌９－１）
－2	梅原　末治	出雲国に於ける特殊古墳（上）（考古学雑誌９－３）
1919－1	高橋　健自	出雲国八束郡大草古天神山古墳発掘遺物
1923－1	梅原　末治	出雲国岡田山古墳調査報告（中央史壇44）
1925－1	後藤藤四郎	古天神の古墳（島根県史蹟名勝天然記念物調査報告　第２輯）
1932－1	後藤藤四郎	大庭の二子塚（出雲歴史地理叢説）
1933－1	後藤藤四郎	安倍谷の古墳（島根県史蹟名勝天然記念物調査報告　第５輯）
1951－1	山本　清	出雲国における方形墳と前方後方墳について（島根大学論集　第１号）
1955－1	山本　清	島根大学敷地薬師山古墳遺物について（島根大学論集　第５号）
1956－1	山本　清	須恵器より見たる出雲地方石棺式石室の時期について（島根大学論集　第６号）
－2	中澤　四郎	出雲国庁位置論と条里考（島根タイムス31－２）
1959－1	中澤　四郎	出雲・石見・隠岐の条里制Ⅰ・Ⅱ（郷土）
1960－1	山本　学	出雲の須恵器（島根大学10周年記念論文集）
1962－1	島根県教育委員会	薄井原古墳調査報告
－2	山本　清	横穴の形式と時期について（島根大学論集　第11号）
1963－1	島根県教育委員会	島根の文化財　第３集
－2	地方史研究所	出雲国分寺趾・国府趾調査報告（出雲・隠岐）
1964－1	山本　清	小規模古墳について（島根大学論集　第13号）
－2	山本　清	古墳の地域的特色とその交渉（山陰文化研究紀要５号）
1966－1	山本　清	山陰の土師器（山陰文化研究紀要６号）
－2	近藤　正	島根県下の青銅器について（島根県文化財調査報告　第２集）
－3	池田　満雄・門脇　俊彦・近藤　正	山陰（日本の考古学 ― 古墳時代上）
－4	山本　清	山陰の石棺についてⅠ（山陰文化研究紀要７号）
1967－1	山本　清	山陰の石棺についてⅡ（山陰文化研究紀要８号）
－2	近藤　正	島根県下の経筒について（島根県文化財調査報告　第３集）
－3	近藤　正	山陰における古代・中世窯業の発見
1968－1	山本　清	御崎山古墳（島根県文化財調査報告　第５集）
－2	近藤　正	「出雲国風土記」所載の新造院とその造立者（日本歴史考古学論叢　第２）
－3	島根県文化財愛護協会	出雲国府跡発掘調査速報（季刊文化財　第７号）
1969－1	池田　満雄	松江・東光台横穴（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅰ集）
－2	近藤　正	松江・とねり坂横穴群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅰ集）
－3	近藤　正	松江・流田横穴群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅰ集）
1970－1	山本　清	山陰の石棺についてⅢ（山陰文化研究紀要10号）
－2	松江市教育委員会	出雲国庁跡発掘調査概報
－3	大野公民館	大野郷土誌
－4	近藤　正	茶臼山城跡（季刊文化財　第11号）
1971－1	山本　清	松江・的場古墓群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
－2	山本　清	松江・西宗寺境内出土の壺（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
－3	近藤　正	松江・桧山古墓群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
－4	近藤　正	松江近辺出土の陶製壺その他（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
－5	石橋　逸郎・近藤　正	松江・馬込山古墓群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
－6	横山　純夫・近藤　正	松江・松本修法壇跡（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集）
1972－1	近藤　正・前島　巳基	島根県松江市的場土壙墓（考古学雑誌57－４）
－2	山本　清	松江・井手平山古墳（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－3	山本　清	松江・東光台古墳（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－4	山本　清	松江・かいつき山古墳（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－5	池田　満雄・東森　市良	松江・上竹矢古墳（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－6	井上　狷介	松江・鍛冶屋谷古墳群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－7	門脇　俊彦	松江・観音寺山古墳群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅳ集）
－8	近藤　正	山陰の祭祀遺跡（神道考古学講座２）
1973－1	島根県教育委員会	八雲立つ風土記の丘設置事業報告
－2	岡崎雄二郎	松江城二の丸米倉跡の発掘（季刊文化財　第21号）
1974－1	岡崎雄二郎	松江・北小原横穴（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅴ集）
－2	勝部　昭	松江・湯谷横穴群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅴ集）
－3	島根県教育委員会	出雲国分尼寺跡　第１次調査概報
－4	岡崎雄二郎	史跡松江城二の丸下の段遺構調査（季刊文化財　第23号）
1975－1	島根県教育委員会	島根県遺跡目録
－2	島根県教育委員会	出雲国分尼寺跡　第２次調査概報
－3	山本　清	古墳（未発掘）（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－4	門脇　俊彦	岡田山古墳（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－5	勝部　昭	御崎山古墳（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－6	岡崎雄二郎	十王免横穴群（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－7	山本　清・近藤　正・前島　巳基	縄文・弥生遺跡（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－8	中澤　四郎	条里遺構（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－9	町田　章・近藤　正	古代官衙跡（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－10	前島　巳基	古代寺院跡（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－11	加藤　義成	古代祭祀遺跡（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－12	近藤　正	中世土豪関係遺跡（八雲立つ風土記の丘周辺の文化財）
－13	島根県教育委員会	史跡出雲国府跡－環境整備報告書
－14	一山　典・松本　岩雄・前島　巳基	松江・灘山古墳の発掘（八雲立つ風土記の丘 No.11）

文献番号	著作者	書名
1976－1	岡崎雄二郎	松江市・井ノ奥　第４号墳の調査（考古学ジャーナル No.120）
－2	島根県文化財愛護協会	松江・平所遺跡（季刊文化財　第26号）
1977－1	風土記の丘資料館	弥生式土器集成（八雲立つ風土記の丘研究紀要１）
－2	松江市ほか	松江新都市開発整備共同調査報告書
－3	山本　清	島根大学敷地菅田ケ丘古墳について（山陰文化研究紀要17号）
－4	島根県教育委員会	国道９号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書
－5	横山　純夫	狐谷横穴群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅶ集）
－6	原田　海竜	渕切１号墳について（八雲立つ風土記の丘 No.22）
－7	岡崎雄二郎	石造遺物２例（八雲立つ風土記の丘 No.22）
－8	東森　市良	薄井原のころ上（八雲立つ風土記の丘 No.23）
－9	内田　律夫	手染郷からみた嶋根郡家とその位置について（八雲立つ風土記の丘 No.24）
－10	東森　市良	薄井原のころ下（八雲立つ風土記の丘 No.24）
－11	前島　巳基	籾痕のついた縄文式土器の破片（季刊文化財　第31号）
－12	岡崎雄二郎	山陰の縄文後・晩期の諸問題（日本考古学協会昭和52年度大会発表要旨）
－13	町田　章・池田　満雄・甲斐　忠彦	出雲国府域の調査とその成果（日本考古学協会昭和52年度大会発表要旨）
－14	島根県教育委員会	国道９号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
－15	島根県文化財愛護協会	平所埴輪窯跡出土品を探る（季刊文化財　第29号）
－16	横山　純夫	岩屋後古墳その破壊の歴史を探る（季刊文化財　第32号）
1978－1	岡崎雄二郎・原田　律夫・松本　岩雄	出雲における同氾鏡の新例（考古学雑誌63－４）
－2	松本　岩雄	松江市平所埴輪窯跡（松江考古創刊号）
－3	岡崎雄二郎	松江市・井ノ奥　第４号墳の調査（松江考古創刊号）
－4	岡崎雄二郎・恩田　清	石台遺跡について（松江考古創刊号）
－5	門脇　俊彦	向山西古墳郡調査概報（松江考古創刊号）
－6	岡崎雄二郎	遺跡の分布調査よりⅡ（松江考古創刊号）
－7	島根県教育委員会	岩屋後古墳発掘調査概報
－8	松江市教育委員会	史跡金崎古墳群－昭和52年度環境整備事業報告書
－9	大野公民館	続大野郷土誌
－10	平野　芳英	岩屋後古墳発掘記（八雲立つ風土記の丘 No.26）
1979－1	岡崎雄二郎	松江市・石屋古墳の調査（考古学ジャーナル３月号）
－2	松江市教育委員会	史跡大庭鶏塚発掘調査報告
－3	島根大学考古学研究会	菅田考古－地域へのアプローチ　第15号
－4	古藤　敦夫	朝酌
－5	島根県教育委員会	朝酌川河川改修工事にともなうタテチョウ遺跡発掘調査報告書
－6	岡崎雄二郎	出雲国分寺瓦窯跡について（八雲立つ風土記の丘 No.35）
1980－1	内田　文恵・岡崎雄二郎	島根・鳥取・山口（松江分）（日本城郭大系４）
－2	島根県文化財愛護協会	速報山代郷正倉跡（季刊文化財　第37号）
－3	松江市教育委員会	論田遺跡発掘調査報告
－4	松江市教育委員会	出雲国造館跡発掘調査報告
－5	松江市教育委員会	史跡松江城環境整備報告書
－6	松江市教育委員会	松江市の埋蔵文化財
1981－1	島根県教育委員会	史跡出雲国山代郷正倉跡
－2	松江市教育委員会	喰ケ谷古墳群
－3	島根県教育委員会	団原遺跡発掘調査概報Ⅲ
1982－1	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅰ
－2	松江市教育委員会	乃木二子塚古墳他詳細分布調査報告
1983－1	足立　克己	松江・石台遺跡（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅹ集）
－2	岡崎雄二郎	松江・道仙古墳群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第Ⅹ集）
1984－1	松江市土地開発公社・松江市教育委員会	黒田館跡
－2	松江市教育委員会	松江市北東部遺跡分布調査報告書 ①
1986－1	島根県教育委員会	岡田薬師古墳
－2	松江市土地開発公社・松江市教育委員会	堤廻遺跡
－3	島根県教育委員会	石台遺跡
1987－1	丹羽野　裕・足立　克己	松江市古曽志大谷１号墳の調査（季刊文化財　第57号）
－2	中尾　秀信	松江東工業団地内埋蔵文化財発掘調査概報（季刊文化財　第58号）
－3	昌子　寛光	下黒田遺跡発掘調査概報（季刊文化財　第58号）
－4	島根県教育委員会	島根県遺跡地図Ⅰ（出雲・隠岐編）
－5	建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会	国道９号線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ
－6	島根県教育委員会	島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅳ
1988－1	東森　市良・柳浦　俊一	松江・南尾横穴墓（島根県埋蔵文化財調査報告書　第ⅩⅣ集）
－2	島根県教育委員会	祖子分長池古墳
－3	島根県教育委員会	史跡出雲国山代郷正倉跡環境整備報告書
－4	島根県教育委員会	奥山遺跡発掘調査報告書
－5	松江市教育委員会	中国電力・北松江変電所造成予定地内発掘調査報告書
1989－1	桑原　真治・広江　耕史	石台遺跡の発掘調査について（季刊文化財　第64号）
－2	北脇　孝夫・八幡　賢一・萩　雅人	布田遺跡の発掘調査（季刊文化財　第64号）
－3	岡崎雄二郎・飯塚　康行	松江・小倉見谷横穴群（島根県埋蔵文化財調査報告書　第ⅩⅥ集）
－4	松江市都市開発部計画課・松江市教育委員会	間内越１号墓・間内越遺跡
－5	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅵ
－6	建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会	国道９号線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　（夫敷遺跡）
－7	建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会	国道９号線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ
1990－1	松本　岩雄	松江・灘山古墳（島根県埋蔵文化財調査報告書　第ⅩⅥ集）
－2	広江　耕史	勝負遺跡の発掘調査について（季刊文化財　第68号）
－3	松江市教育委員会	松江東工業団地内発掘調査報告書

松江の歴史年表

西暦	時代		まつえの歴史	日本の歴史
紀元前 8000 ～10000年前	先土器		古曽志・清水遺跡、平廻田遺跡 乃木福富・廻田遺跡	打製石器がつくられる。槍による狩猟
	縄文	早期		土器づくりを始める。 弓矢による小動物（シカ・イノシシなど）の捕獲
		前期	東長江・後谷遺跡 手角・寺ノ脇遺跡 東津田・石台遺跡 八幡・竹矢小校庭遺跡	貝塚の形成。 洞窟や竪穴式住居に住む。
		中期	竹矢・法華寺前遺跡	
		後期	西川津・タテチョウ遺跡、西川津遺跡 矢田・保地遺跡 東津田・石台遺跡 法吉・法吉遺跡	
B.C. 3		晩期		
A.D. 2	弥生	前期	タテチョウ・石台・春日各遺跡、西川津遺跡	九州に稲作が伝わる。
1		中期	平浜八幡宮所蔵　銅剣	
1				吉野ヶ里遺跡 倭国大乱
2		後期	荒神谷遺跡（銅剣・銅鐸・銅鉾）	卑弥呼、邪馬台国の女王となる。 239　卑弥呼、魏に使いを送る。
3			間内越１号墳	
4	古墳	前期	新庄町・八日山１号墳（三角縁神獣鏡） 下東川津町・道仙古墳群、佃遺跡	古墳の発生
5		中期	西川津・金崎古墳群、客山古墳、大垣大塚古墳群 矢田・石屋古墳、大庭養鶏、古曽志大谷１号墳 山代二子塚	仁徳天皇陵古墳造られる。
6		後期	山代方墳、岡田山古墳（銘文入大刀） 坂本・薄井原古墳、北小原横穴、十王免横穴群	群集墳多く造られる。 藤ノ木古墳
7	飛鳥		池ノ奥Ｃ遺跡	645　大化の改新　　高松塚古墳
8	奈良		733　出雲国風土記ができる。 出雲国庁跡、出雲国分寺跡、同尼寺跡	710　元明天皇、平城京に都を移す。 古事記、日本書紀つくられる。
9	平安		東生馬・平ノ前廃寺	794　桓武天皇、平安京に都を移す。
10			坂本・坊床廃寺	荘園、諸国に広がる。
11			山代・四王寺跡	藤原氏台頭、摂関政治 894　遣唐使廃止
12			平浜八幡宮造営される。	
13	鎌倉		出雲・隠岐の守護に佐々木義清が補任される。	1192　源頼朝、征夷大将軍となり鎌倉に幕府をひらく。
14	室町	南北朝	1346　神魂神社本殿造営 1562　毛利元就が荒隈城を築く。	1334　建武の新政 1335　足利尊氏そむき南北朝の動乱時代に入る。 1392　南北朝統一
15		戦国	1563　白鹿城落城する。	1467　応仁の乱おこる。
16	安土桃山		1583　神魂神社炎上、再建される。	1573　室町幕府がほろびる。
17	江戸		1600　堀尾吉晴、出雲・隠岐の太守に任ぜられる。 1607～1611　松江城築城。	1603　徳川家康、江戸に幕府をひらく。
18				
19	明治			1868　明治維新
20	大正 昭和 平成			

松江市の歴史

はじめに

私たちの住むこの松江は、「橋といで湯の城下町」などとうたわれ静かな湖畔のたたずまいの中に歴史の重みを投げかけているが、このような町に形づくられたのは、実は慶長12年（1607）堀尾吉晴による松江城築城以来のことである。

それまでは、大橋川の両岸に末次村と白潟村という小さなむらがあるだけで大部分は低湿地であったようである。

さらに時代がさかのぼって、奈良時代における政治、文化の中心地はどこかといえばそれは松江市の南郊、大庭地区一帯に求められる。

当地区には、出雲国庁跡や出雲国分寺、意宇六社などの官衙、寺院、神社が集中していることから容易にうなずける。

ましてや、その前代である古墳～弥生～縄文時代の遺跡となるとほぼ松江市全域にその分布がみられる。このような遺跡はその一つ一つが過去の歴史を物語る貴重な文化遺産というべきものである。

たとえば、山中で拾った黒曜石製のやじりから黒曜石を求めてはるか海をへだてた隠岐島の人々と交易を行い、その弓矢でシカやイノシシを追いかけ山野を走りまわっていた縄文人の姿を思い浮かべる。又、畑を耕作していて偶然目についた1片の土器のかけらや、小高い山の尾根にある古墳から、谷間を切り開き、水田や畑へと開発していった農業開拓者の苦難の道を想像せずにはいられない。

このように、遺跡は私達の祖先が過去数千年にわたって営みを続けてきた生活の足跡であり、それは大昔の人々の生業、概念、技術などの生活体系を知る上で貴重な資料と言えよう。

それではこれからしばらく松江の歴史をひもといて見ることにしよう。

先土器時代のまつえ

先土器時代とは、人々が未だ土器の使用を知らず石器をおもな道具として、狩猟、採集の生活を営んでいた時代である。

今から約200万年～1万年前の間のことと一般に考えられている。松江市においては、近年、古曽志町清水遺跡、乃木福富町廻田遺跡など数箇所でナイフ形の石器が発見されているが住居跡は未確認であり、今後の調査研究にまつところが大きい。

縄文時代のまつえ

縄文時代は人間が初めて土で作った焼き物を道具として使用し始めた時代である。この時代に入ると、先土器時代と比較してその遺跡、遺物の数は、やや増加する。縄文時代の人々の生活は、基本的には先土器時代と変わりないが、土器と弓矢を発明、使用した点で生活様式は著しく変化したものと思われる。

松江市における最も古い形式の土器は、手角町「寺ノ脇遺跡」出土の条痕文土器であろう。内外両面に貝殻条痕を施した深鉢形の土器で早期末頃の所産であると考えられる。

前期になると東長江町の「後谷遺跡」や前出の寺ノ脇遺跡、八幡町の「竹矢小学校校庭遺跡」東津田町の「石台遺跡」において条痕地に種々の爪形文を付けたもの、爪形文だけのものなどが検出されている。

中期に入ると、縄文地に爪形文を施したものや、縄文地に貼付口縁を付したり、その口縁に刺突文を加えるものなど山陰地方独自の様式が現れてくる。

特に寺ノ脇遺跡だけにみられる特色として、土器外面のほぼ全体に各種撚糸文地に平行沈線を施す土器片が1地点から多量に発見されていることがあげられる。撚糸文地に平行沈線を施す土器片のあることや、その胎土の質や肉厚などから、おおよそ中期頃の所産と考えられている。また縄文地貼付口縁系の土器は「波子式」と呼ばれ山陰海岸部特有の土器である。

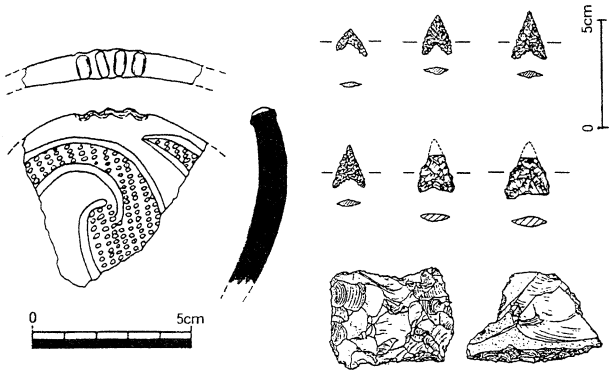
松江市においても竹矢町「法華寺前遺跡」や寺ノ脇遺跡で縄文地爪形文土器と共にこの波子式が出土し、山陰中期の代表的な土器となっている。

後期以後になると遺跡の数は著しく増加する。遺物にも山陽、近畿地方の強い影響が現れ、地方色は次第に薄らいで行く。

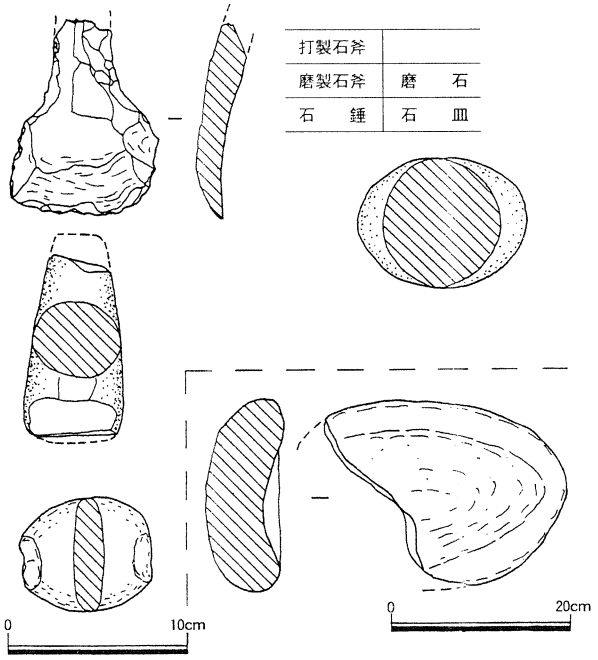
土器の文様は、摩消縄文が大部分である。形式は多様化するが文様的特色は減少する。

市内における後～晩期の遺跡としては、前出の「石台遺跡」、西川津町の「タテチョウ遺跡」、矢田町の「保地遺跡」、法吉町の「法吉遺跡」、竹矢町の「才塚遺跡」が知られる。また竹矢町の「出雲国分寺跡」や大草町の「岩屋後遺跡」の発掘の際にも縄文晩期の粗製土器片が出土している。

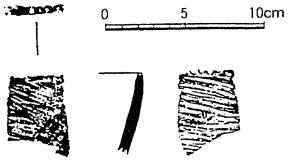
石斧は、打製と磨製のものと二種類あるが、火成岩質の硬質のもので樹木の伐採や、竪穴住居の掘削、土地の開墾など多目的に使用され



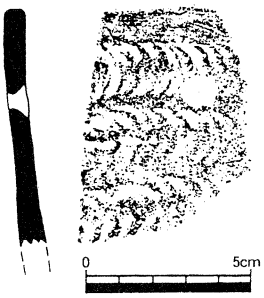
磨消縄文土器（石台遺跡）　石　鏃（下沢遺跡）



石製品（寺ノ脇遺跡）



条痕文土器（寺ノ脇遺跡）

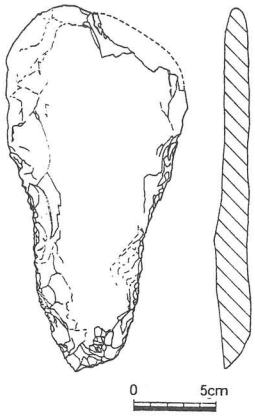


爪形文土器（石台遺跡）

たものであろう。

石錘は、魚網のおもりに使用したものであるから、中海を中心とした内湾性の漁労のおこなわれたことが考えられる。

石鏃は、弓矢の先端に取りつけたやじりで、黒曜石製の物である。山陰地方における黒曜石の産出地は、隠岐島の島後のみに限定されているので当時隠岐島の人々と物々交換によって入手したものであろう。この石鏃を取り付けた弓矢をもって、シカやイノシシを山野に追いかけていたことであろう。



扁平打製石器（石台遺跡）

磨石、石皿は、デンプン質の木の実や根茎類を叩きつぶして調理する時に使用したもののようである。

縄文時代の後〜晩期になると自然条件が悪化し、気候も冷却化して、食料の獲得がむずかしくなってきた。一方では、徐々に人口が増加し、生活の維持が困難となったので、より安定した食料源を求めるようになった。そこで食用植物の半栽培や栽培を手始めとして、畑作物をつくりはじめていたらしいことが、最近の発掘調査で明らかになりつつある。

前出の石台遺跡では、大量の扁平打製石器が出土したが、両側面は著しく内側へ打ちかかれており、刃先と基部において磨滅している。

これらのことから、この石斧は砂地において根茎類の食用植物を栽培した際に土掘具として使用したものであろうと考えられている。

弥生時代に至り水稲耕作の技術を導入し、それがまたたく間に西日本全域に広まった背景には、縄文時代の後晩期に、すでに狩猟、漁労という採集の段階から脱皮して、農耕社会へ一歩近づいた生業を営んでいたことが要因の一つとなっていたのであろう。

弥生時代のまつえ

紀元前２〜３世紀頃になると中国南部で成立した水稲耕作の技術が恐らくは朝鮮半島経由で北九州に伝わってきた。福岡の板付遺跡では初期の頃からしっかりした水田の畦畔を有し農耕具も完備していたようである。

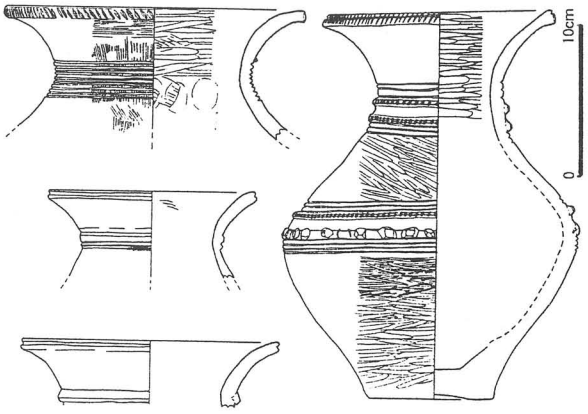
農耕技術はまたたく間に西日本全域に普及していった。生活様式の大きな変化に伴って生活上の重要な役割を担っていた土器も大きく変化した。この時代の土器は弥生式土器と呼ばれ、縄文時代の土器と違って簡素で実用的、機能的な形をしている。土器の形式も、食物を煮炊きする《甕》、食物などを貯える《壷》、お祭りに使った特殊な《高坏》や《器台》などに統一されていく。

石器は、縄文時代ほど大量には使わなかったようであるが、それでも隠岐島産の黒曜石製石鏃や瀬戸内海沿岸で多く使用されていたサヌカイト（安山岩）製の石鏃が時折発見されている。

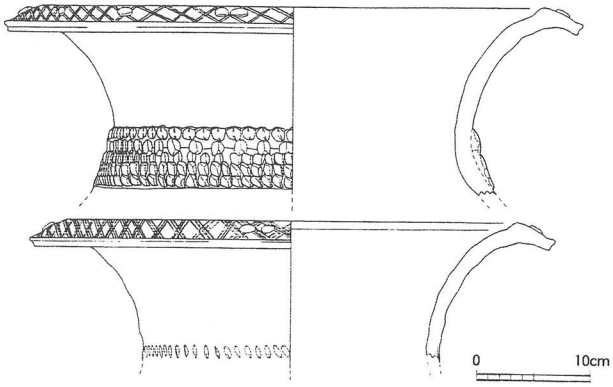
前期の土器は北九州の影響を強く受けるが、中期〜後期に至っては、山陽地方や畿内の影響を全面的に受けることになる。後期後半になると《九重式土器》と呼ばれる極めて特徴的な土器文化が出雲部を中心に発達していったことが注目される。

高坏形土器（石台遺跡）

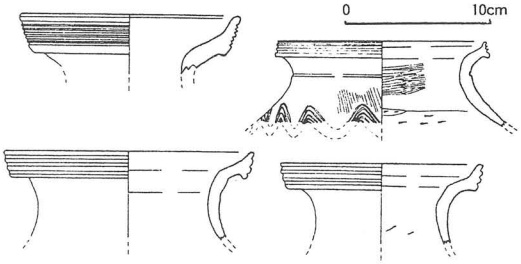
松江市内では法吉地区の春日遺跡、法吉遺跡、川津のタテチョウ遺跡、津田の石台遺跡などの低地遺跡から前期の土器が発見されている。タテチョウ、石台



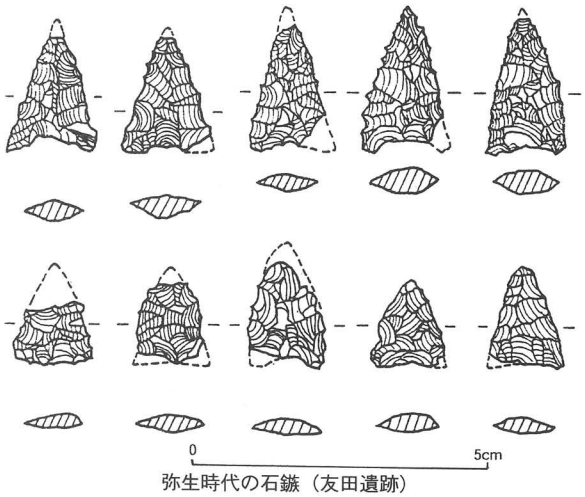
弥生前期の土器（タテチョウ遺跡）



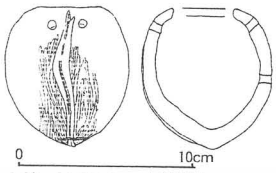
弥生中期の土器（タテチョウ遺跡）



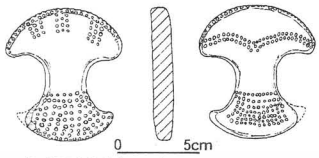
弥生後期の土器（タテチョウ遺跡）



弥生時代の石鏃（友田遺跡）



土笛（タテチョウ遺跡）



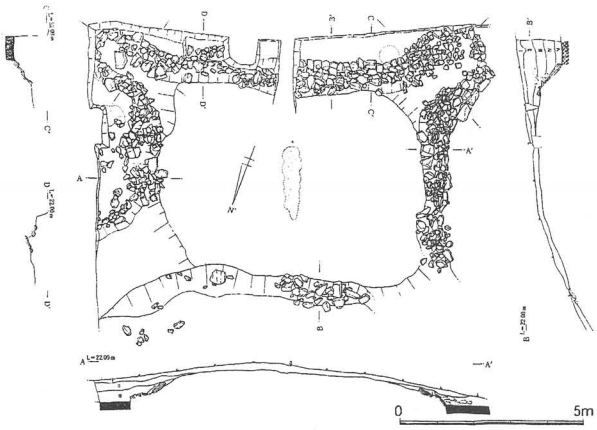
分銅型土製品（タテチョウ遺跡）

遺跡では、中期～後期の土器もみられるので農耕生活が継続的に発展し、遺跡周辺において安定した農耕集落が形成されていったことが知られる。

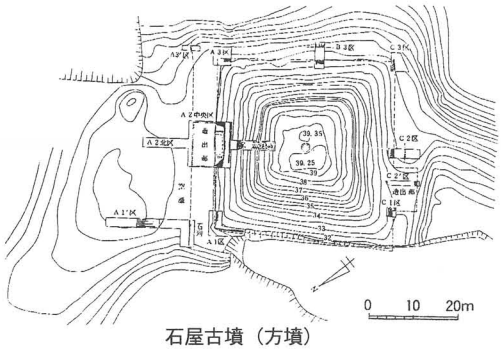
上乃木町の友田遺跡は、弥生時代中期から後期にかけての大規模な集団墳墓群である。墳丘墓は６基が互いに隣接して次々と送られ全国的にも珍しく最古のグループに属する。土壙墓群は26基を数えいずれも石を周囲に配置し木棺を据えたもので管玉、勾玉、石鏃が出土した。

貼石方形墓は、長辺約11mの四隅突出型墓である。これら３種類の異なる形態の墳墓群は、この頃の墓制を考える上で極めて貴重な遺跡であったが土地区画整理事業により消滅した。

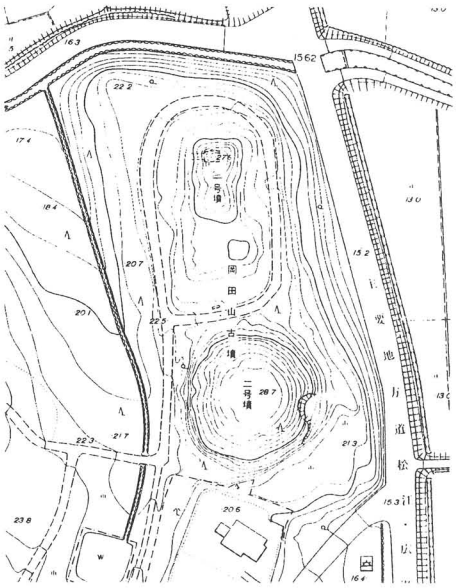
矢田町の間内越（まないごし）１号墓は、小型の四隅突出型墳丘墓で8.8m×6.7m、高さ60cmの長方形墳丘の四隅に幅２m、長さ約３m近くの突出部をそれぞれ設け、斜面に石を貼って全体の形を整えたもので古墳時代直前の墳墓として貴重である。



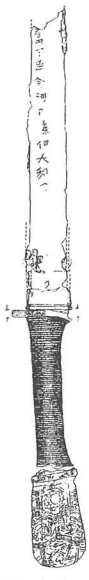
間内越１号墓（四隅突出型墳丘墓）



石屋古墳（方墳）



岡田山２号墳（円墳）



鉄地銀象嵌
「額田部臣」銘大刀

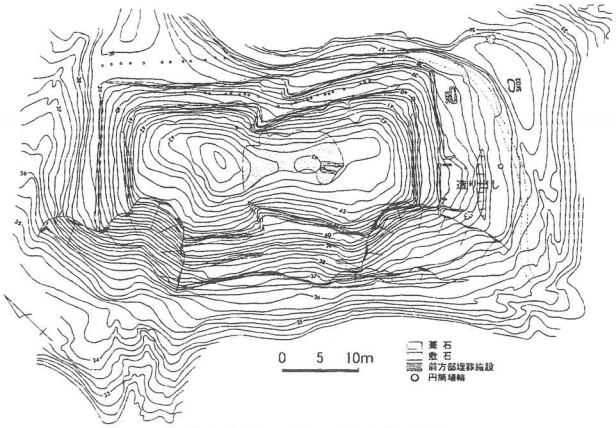
古墳時代のまつえ

弥生時代以来の農業生産力を基盤として成長してきた各地域の首長は、やがて政治的にも経済的にも強大な実権を掌握するようになった。

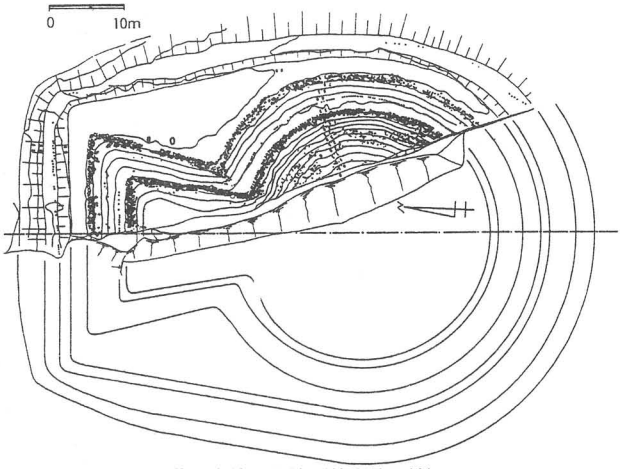
それは、葬制に特に顕著にあらわされ生前の実力を誇示するかの如く大量の労働力を駆使して壮大な墓をつくるようになった。それが古墳である。

古墳には、方墳、円墳、前方後方墳、前方後円墳などの形があるが、市内では方墳と前方後方墳が圧倒的に多い。この傾向は、広く出雲地

間内越１号墓出土壷



古曽志大谷１号墳（前方後方墳）

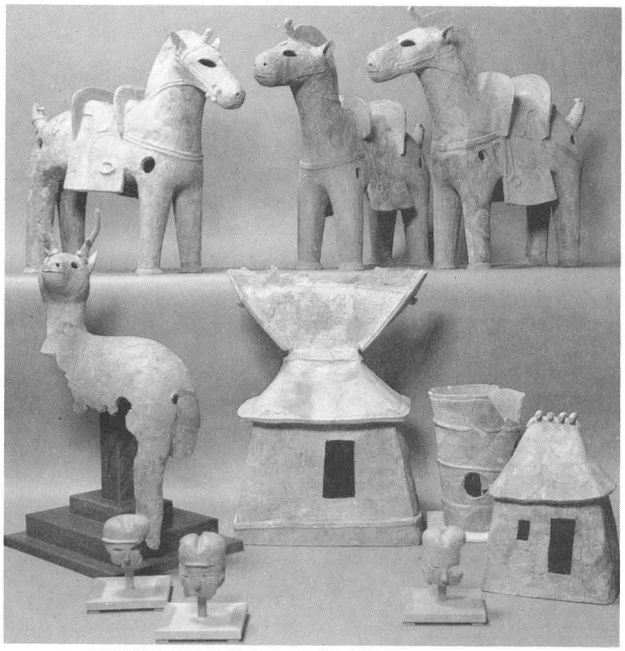


井ノ奥第４号墳（前方後円墳）

方全体についても言えることである。現在目につく古墳の大多数は、それぞれの地域を農業開発していった支配者層の墓であったと思われる。

田和山第１号墳玄室（横穴式石室）

三角縁波文帯四神二獣鏡（八日山第１号墳出土）



平所遺跡埴輪窯跡出土品（資料提供：風土記の丘）

普通一辺10m前後、高さ１m前後の方墳が多いが、まれに一辺40m余の大形の方墳もある。前方後方墳では、小規模のものは少なく長さ40～50m級のものが多い。円墳や前方後円墳は在地勢力の所産というよりは、西暦５世紀代以後、出雲地方に波及した畿内勢力の影響下に成立したものと思われる。

市内では、前期の古墳の発見例は数少ない。矢田町の来留美古墳は小規模ながら《四隅突出型方墳》であった。又、下東川津の道仙古墳群は一辺10m足らずの方墳３基が隣接して築造されていたが、その内部主体は木棺や甕棺であった。新庄町所在の八日山第１号墳は小規模の長方形墳で内部主体は不明であるが、直径21cm余りの三角縁四神二獣鏡が採集されている。

中期の古墳の代表例としては、西川津町の金崎古墳群や矢田町の石屋古墳、古曾志大谷１号墳が挙げられる。

金崎古墳の内、第１号墳は全長32mの前方後方墳で後方部に竪穴式石室があり山陰地方では最古式の須恵器類、ガラス製他各種玉類、直刀、鉾、剣他の鉄製品、彷製内花文鏡など多数の副葬品が発見された。

又、石屋古墳は、丘陵の突端を切削加工して築かれた一辺40mほどの大型方墳で南西部と北東部にそれぞれ方形の造出部を設けている。北東部の造出部からは多数の形象埴輪（馬、人物、器財）が出土している。

墳丘斜面には人頭大の石を葺き、中途に段を設けてその先端に円筒埴輪を樹立するものである。大橋川下流域における交通上の要衝に立地することから軍事的性格を強く帯びた豪族の墓であったと考えられる。

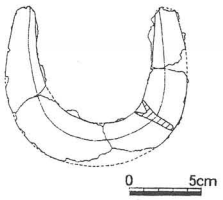
その他、国の史跡である大庭鶏塚や、山代二子塚も中期の大形古墳として知られている。

大草町、風土記の丘センターの一角にある岡田山１号墳は、全長24mの前方後方墳で横穴式石室を設け組み合わせ式の家形石棺１基が置かれている。大正４年、地元民の手により発掘された石棺の内外から後漢代の内行花文鏡１、太刀３、刀子３、鍍銀環２、金銅製馬具類などが発見され６世紀後半頃の有力豪族の墓と考えられる。

太刀の内、円頭太刀の刀身には「各田卩臣」と判断出来る銀象嵌の銘文が確認された。古代の部民制度や臣という姓制度を考える上で全国的に極めて貴重な資料を提供した。

古曾志大谷１号墳は、全長約46mの前方後方墳で前方部の前に台形の造り出しをもつ。表面はほとんど葺石で覆われ、円筒埴輪も配列されている。埋葬施設は不明だが、前方部の第二主体部からは鉄鏃、鉄斧、刀子、須恵器蓋、鉄刀が副葬されていた。なかでも鉄刀は長さ約99cmの長刀で区（まち）のあたりに刳り込みがあって特別こしらえの優品である。５世紀後半から末頃の古代「佐太の国」の王とでもいうべき豪族の墓である。

東百塚山古墳群分布図



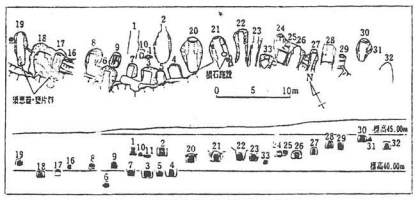
U字型鉄製鍬先（東百塚山古墳群）

後期になると、鉄製農耕具類の普及が促進されたので農業生産も一段と高まりお墓も支配者だけでなく広く一般の人々も先祖累代の墓を積極的に造るようになった。後期の群集墳とか横穴群と呼ばれているものがそれである。

群集墳の典型的な例としては大草町の百塚山古墳群があげられる。東百塚山には52基、西百塚山には32基の合計84基が知られている。そのほとんどが一辺10m前後の方墳である。横穴は、山の斜面に水平方向へ墓室をくりぬいたもので出雲地方はその密集地帯として全国的に知られている。松江地区においても郊外の低丘陵斜面に多数つくられておりその分布密度は高く、５穴から30穴程度隣り合わせにつくられているのが常である。代表的な横穴群としては、矢田町の十王免横穴

群や西浜佐陀町の北小原第２号穴が有名である。

十王免横穴群は、38穴が確認され石棺を内蔵するもの、壁画を有するもの、須恵器屍床を有するもの、積石施設を有するものなど極めて変化に富んだ横穴群として注目される。北小原第２号穴は玄室左右に石棺をそれぞれ安置したもので２つの石棺を内蔵した横穴は県内に３例しかない。又、墓室入口の閉塞石に「$_1$」字状の浮き彫りが認められるが、これも極めて希有なものである。



十王免横穴群平面図

出雲国分寺瓦窯跡出土瓦拓影

土　馬（薦沢遺跡）

歴史時代のまつえ

古墳時代の後期に一般農民層の経済的基盤が一段と強まってきたことにともなって支配関係も微妙に変化してきた。

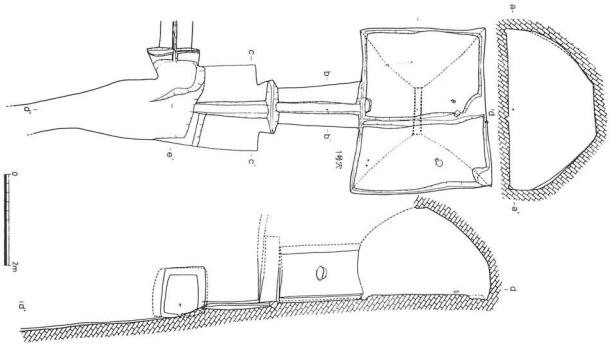
畿内政権は、それまで地方の豪族の長を掌握していればよかったが、もはやそれだけでは支配力を行使することは困難となった。

そこで農民層一人一人を把握する必要にせまられてきた。大化の改新から律令制度の導入へと大きく政治、社会の流れが変わっていった背景にはそのような必要性があったのではないかと思われる。

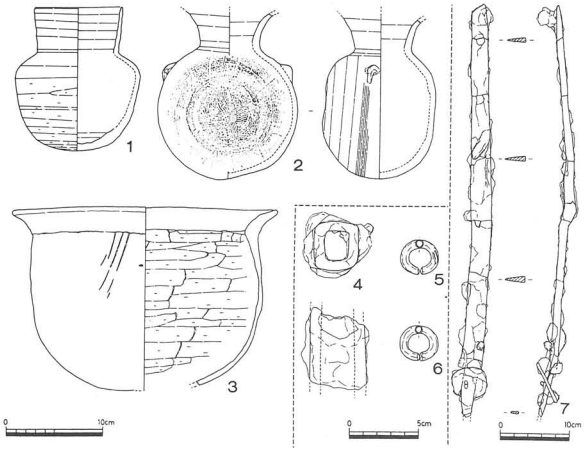
大化二年、薄葬令が出され古墳時代以来の墳墓の造営が禁止されたが、出雲地方では横穴墓が、まだ依然として造られていた。このことは、矢田町十王免横穴群、狐谷横穴群、西津田町論田横穴群の玄室内部において奈良時代頃の須恵器を副葬していることからわかる。

横穴の入口付近、前庭部床面からは奈良末～平安時代にかけての糸切り底を有する坏が発見されるので墓前祭祀は平安時代頃まで行われていたらしい。

このように、葬制の上から考えると律令制度の地方への浸透の度合は、必ずしも完全なものとはいえなかったようである。



小倉見谷第１号穴平面図



小倉見谷第１号穴出土遺物

他方、仏教も政治的色彩を強く帯ながら地方に徐々に浸透し、有力豪族の手により寺院が建立されたが、完全な伽藍配置のものではなかった。

奈良時代の寺院は、当時編集された『出雲国風土記』（以下「風土記」という。）に「新造院」として記載されているが、瓦等の散布が風土記記載の方位と距離からその遺跡が推定されている。

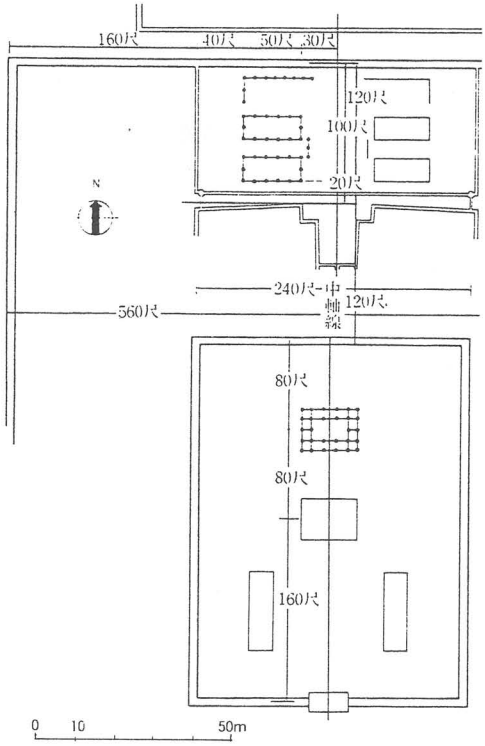
例えば、山代町の来美廃寺は、山代の北の新造院に、四王寺跡は山代の南の新造院にそれぞれ推定されている。

これらは、いずれも出雲臣などの有力豪族が、その力を誇示するために造営したものであろう。宗教的な色彩がどの程度民衆に反映したのかは疑問である。

これに対して、出雲国分寺や国分尼寺は、聖武天皇の詔により各国に１ヵ所ずつ造営された官立の寺院ということになる。これらの寺院建築は、基礎をよくつき固めたのち柱の礎石を配列し、太い柱をたてた後、屋根には重い瓦を葺いている。瓦は、近くの丘陵斜面の窯で焼かれたもので、その瓦窯跡が確認されている。

神社建築の起源については定かではないが「風土記」には松江市内に54社もの多くの神社のあったことが記載されている。大半の神社は今もなお農村地帯にその姿を留めている。

大庭地区には、《意宇六社》と呼ばれる古式ゆかしい神社がある。神魂神社、真名井神社、八重垣神社、六所神社、熊野神社、揖屋神社がそれである。



出雲国庁復元図

これらの神社の頂点に立つのが出雲の杵築大社である。その祭祀をつかさどる出雲国造家はもともと大庭・黒田畦地区一帯に推定される「出雲神戸里」を本貫地として、古墳時代後期以後隆盛を極めた出雲国内最大の豪族であった。

出雲国造は、意宇郡の役人として政務を執行するかたわら、一方では熊野大社、杵築大社の祭祀をつかさどり、勢力を一般民衆に浸透させていった。ところが延暦17年（798）の太政官符（政府の命令書）により国造と郡領の兼帯が禁じられたので、やがて住居の地を大庭から杵築へと移したようである。しかし、熊野大社や神魂神社の祭祀の時にはやはりこの大庭の館に泊まり、儀式を執り行ったので、中世以後明治の初期までは宿館として建物は存続していた。実際には、南北朝時代に千家と北島の両家に分立するので宿館も２ヵ所に別れてあった。

国造館推定地の調査については、昭和54年度において周辺の圃場整備事業に先立ち主として水田地において発掘調査が実施されたが、おびただしい数の須恵器、土師器片に混じって中国南宋から明時代にかけての青磁、青白磁、白磁の碗、皿などの破片や布目瓦が発見され、出雲国造の経済力の一端をうかがうことが出来る。

奈良時代の律令制度に基づいて、行政気候も整えられた。出雲国は、９郡62郷に区分統合された。南郊大草町の水田一帯には、出雲国府があった。これは、今の殿町界隈のような官庁街を想像してもらえばよいのであるがこの中には出雲国庁（国衙ともいう。今の島根県庁のような役所で出雲国の行政を司った）、意宇郡家（今の松江市役所のような役所で意宇郡の行政を司った）、意宇の軍団（今の松江警察署のように治安、国防の任にあたった）、意宇の駅（今の松江駅のような機関で、国の伝令を伝えるための馬をつないでいた）などの諸官庁の建物が立ち並んでいた。

この内、出雲国庁跡の所在地については、江戸時代以来学者によって論議されてきたところであるが、恩田清氏によって毛利氏の検地帳から「こくてう」という水田の字名が発見されたことから六所神社北方説がにわかにクローズアップされた。松江市教育委員会では、その明確な位置を確認するため昭和43～45年度にかけて発掘調査を実施した。

その結果、水田下からおびただしい数の掘立柱穴や土器類が発見された。中でも、木簡（当時は、紙が貴重であったので役所で使用するメモやカードの類は全てうすく削った木札に墨で用件を記入した。）や硯、墨書土器などの出土品は、筆を自在に扱う役人の存在を決定的なものとしたため、ここが風土記にいう出雲国庁跡にほぼ間違いないと思われている。

当時の租税は「イネ」で納めた。そのため各地に米倉が必要であったが『風土記』には「正倉」という言葉で表現されている。

この内、意宇郡山代郷の正倉は現在の大庭十字路付近に推定されている。昭和53年以後の継続調査では、総柱づくりの高床式倉庫が２棟と通常の建物が７棟発見されている。

福原町の圃場整備工事により発見された芝原遺跡は、掘立柱の建物跡21棟、総柱造りの倉庫跡５棟がやや計画的に配置されていた上、遺物をみると大量の土器は８世紀後半から９世紀前半にかけての須恵器が多く、墨書土器の中には「出雲家」のように出雲氏の居館又は管理施設が近隣の地にあることをほのめかすものや「校尉」のように軍団の職階を明確に表現するものもあり、製塩土器や丹塗土師器も出土志、この地が出雲国風土記に記載される「島根郡家」跡ではないかと考えられている。

一般民衆の殆どは、田を耕す農民であったが、彼らの住まいがどこにあり、どんな生活をしていたのかは調査が進んでおらずよく分かっていない。

ただ、水田と山に挟まれたなだらかな斜面（今、農家や畑のあるあたり）にはよく見ると無数の土器のかけらが落ちているので、恐らくは、そういう場所で、昔から生活していたのであろう。

やがて、平安時代になると前代に整備された律令制度が寺社勢力や地方の土豪らによって有名無実化されていった。

これは、主として彼らによって荘園の拡大が図られ、私的土地所有が進んだことによるものである。

市内における荘園の名残りは、大野地区などに見られる。

そこは「土居」など荘園にちなんだ字名が遺存し、古文書の上では「大野庄」とみえる。

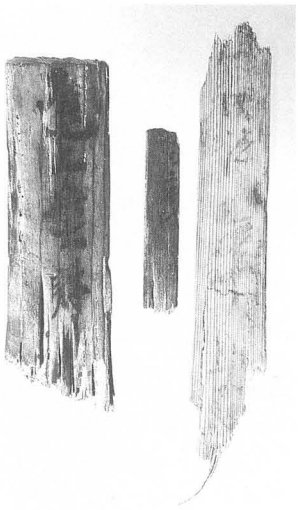
又、石清水八幡宮の別宮として八幡町に「平浜八幡宮」が造営された。

一方、平安期の寺院跡は、坂本町の「坊床廃寺」や生馬町の「平ノ前廃寺」、山代町の「四王寺跡」において瓦や須恵器の散布が見られる。

中でも、「四王寺跡」は『三代実録』貞観九年の条にみえる四天王安置の寺に推定されている。これは、当時の新羅の侵寇を防ぐために設置されたお寺である。

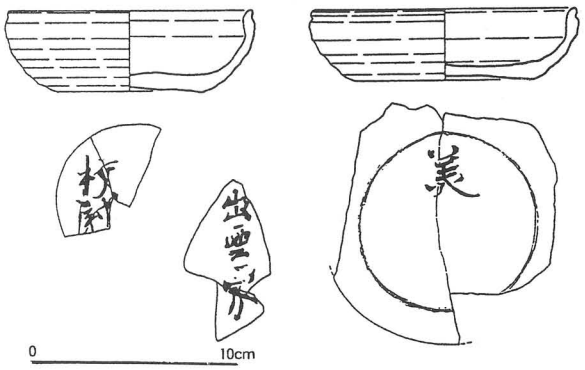
鎌倉時代以後、武士が政治の実権を握る時代となり、出雲、隠岐の守護には佐々木義清が補任された。

以後、戦国時代に至るまでは、古文書、古記録の数少なく松江周辺の詳しい様子はつかめないが、大橋川を挟んで「末次村」と「白潟村」という二つの小さな村があった。

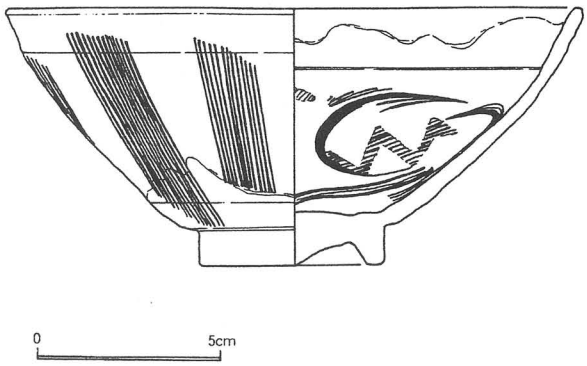


出雲国庁跡出土木簡

和銅開珎（国庁跡）



墨書土器（芝原遺跡出土）



同安白磁碗（本庄町・的場遺跡出土）

中世の墳墓で目につくのは五輪塔と宝篋印塔である。いずれも、武士や貴族の墓石として使用された場合と、供養塔とされた場合の二つの性格がある。鎌倉時代頃のものは、比較的大形のどっしりとしたものである。大庭町の正林寺裏山に「出雲国造廟」というのがあって、この時代の五輪塔が安置したある。

その他、墓地の一角や山中にひっそりと祭られている石塔の殆どは室町時代〜江戸時代にかけてのものである。恐らくは、尼子〜毛利の合戦にかかるものであろう。

やがて、出雲国の守護も京極氏に替わったが、守護代尼子経久が富田城主になったのちは、その支配力を中国一円に強め勢力を誇った。

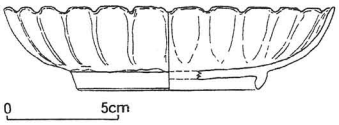
しかし、安芸国に本拠を持つ毛利氏は尼子氏と対立し永禄5年富田城を攻略すべく、国屋町の荒和井山に「荒隈城」（洗合城とも書く）を向城として築いた。

荒隈城の調査は、昭和42年に西半分が、住宅団地造成に伴って調査され、山頂に掘立柱の建物遺構が検出されている。

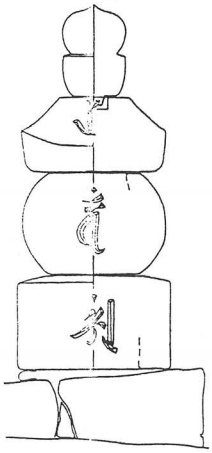
昭和54年の東部の調査では、土塁と階段状遺構が発見された。

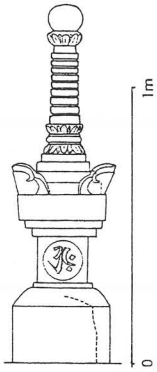
荒隈城には、毛利元就自ら布陣し、法吉町の白鹿城を兵糧攻めで落としたのち、富田城にも数回攻撃をしかけたが守りは固くなかなか落とせなかった。

和　鏡（荒隈城跡）



青磁碗（荒隈城跡）





五輪塔（正林寺）と宝篋印塔（二反田古墳）

しかし、永禄9年ついに和議が成立し富田城は毛利氏に明け渡された。

関ヶ原の合戦によって功のあった堀尾吉晴は慶長5年（1600）出雲、隠岐23万5千石の太守として広瀬の富田城に入城した。

しかし、近代戦に不利であることと、広大な城下町を形成する必要のあったことなどの理由で現在の殿町亀田山に城地を移した。

工事は慶長12年（1607）から慶長16年（1611）までの5年間にわたって行われた。

城地最高所には、本丸をおき、五層六階の天守を築いている。本丸周辺には二之丸、二之丸下の段、後曲輪、外曲輪などを配し、三之丸は現在の県庁敷地にあって藩主の御殿があった。

築城以来、ただの一度も戦乱に巻き込まれることなく明治維新を迎えた。

新政府の方針はこうした城郭を無用の長物と見なし、とうとう明治8年に取り壊されることになったが、旧藩士らの嘆願により天守のみ保存されることになり、今もなおその威容を誇っている。

松江城では、昭和47年度から環境整備事業に着手しているが、その中で本丸遺構の発掘調査を実施し、当時の絵図である「松江城縄張図」とほぼ合致する石積遺構が姿をあらわした。又、二之丸下の段では築城初期から江戸末期に至るまで次々と立てられた米蔵の石積基壇が絵図どおりの位置に検出された。

松江城米蔵遺構

指定文化財概略一覧表

（平成３年２月現在）

種別	指定区分	国宝	重要文化財	国指定	県指定	市指定	合計
有形文化財	建造物	1	3		5	6	15
	絵画		1		11	3	15
	彫刻		3		3	7	13
	工芸品		3		7	8	18
	書跡				2	1	3
	古文書				3	4	7
	考古資料		2		2	1	5
無形文化財	工芸技術						
民俗文化財	有形民俗文化財					4	4
	無形民俗文化財					1	1
記念物	史跡			13	12	1	26
	名勝					1	1
	史跡及び名勝			1			1
	天然記念物			(1)	(1)	3	3
	特別天然記念物			(1)			
	重要美術品	(2)					
		1	12	14	45	40	112
		27					

（　）内の数字は、地域を定めない物件もしくは旧法令による物件で、合計数には入れていない。

【国指定文化財】

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
1	国宝 建造物	神魂神社本殿附内殿1基心御柱古材1箇	1棟	昭和 27. 3. 29	大庭町 563	神魂神社 秋上　洋二	正平元年(1346)の造営と伝えられ、神社建造物では最古である。20尺(約6m)四面、古式による大社造りで、結構壮大なことは出雲大社についでいる。
2	重文 建造物	松江城天守	1棟	昭和 10. 5. 13	殿町 1	松江市	五層六階、本瓦葺、桃山時代の遺風を伝える壮重実戦本位の望楼式独立天守である。慶長16年(1611)完成、昭和30年春解体修理が完成した。
3	重文 建造物	菅田庵及び向月亭	1棟	昭和 16. 5. 8	菅田町 106	有沢　弐保	菅田庵は、寛政4年(1792)松平治郷(不昧)の好みで山荘台地に建てられ、向月亭は、その弟雲川の作、全国的にも風格のある茶室である。
4	重文 建造物	末社貴布禰稲荷両神社本殿	1棟	昭和 27. 3. 29	大庭町 563	神魂神社 秋上　洋二	二間社流造りの珍しい神社建築様式で、室町時代（天正11年－1583）頃の優れた建造物。昭和52年度解体修理完成。
5	重文 絵画	板絵著色神像	3面	昭和 34. 12. 18	佐草町 155	八重垣神社 佐草　宗夫	本殿の障壁及び羽目板に描かれたもので、藤原期(893)の作と伝えられ、神社壁画では稀有なものである。
6	重文 彫刻	木造十一面観音立像	1軀	明治 36. 4. 15	大庭町 246	浄音寺 大北　哲也	もと神魂神社神宮寺の本尊。流麗で端正な仏像である。文永□□(1260年代)の墨書のある、鎌倉時代の作品である。
7	重文 彫刻	木造薬師如来坐像	1軀	昭和 35. 7. 31	枕木町 205	華蔵寺 松田　秀保	本寺薬師堂の本尊、高さ85.2㎝、台座73㎝法衣手法流麗、全体に精妙な彫刻で光背の中心に五仏を配し、藤原初期の優品である。
8	重文 彫刻	銅造阿弥陀如来立像	1軀	昭和 39. 1. 28	浜乃木町 143	善光寺 石倉　観	源頼朝の守本尊であったのを、夫人政子より受けた佐々木高綱が、本寺に安置した。正治2年(1200)で、全国三体の善光寺如来中最も古く、鎌倉前期作の貴重な像である。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
9	重文工芸品	銅鐘	1個	明治42. 9. 22	堂形町589	天倫寺横田 秀愚	朝鮮(高麗国)製1011年の辛亥4月8日の銘文がある。総高87.1㎝。雅美あふれる音色にすぐれた名鐘である。
10	重文工芸品	太刀(銘 景光)	1個	昭和28. 11. 14	大正町435	雲洲三谷家明徳会三谷貴一郎	長さ75㎝、反り2.3㎝、造り、庵練、作者景光は、鎌倉末期に出た備前長船派の名工である。
11	重文工芸品	太刀(銘 貞真)附糸巻太刀拵	1個	昭和28. 3. 31	大正町435	雲洲三谷家明徳会三谷貴一郎	長さ71.2㎝、反り2.8㎝、貞真は鎌倉時代の備前国福岡一文字派刀工と伝えているが、現存の同作中随一の品である。
12	重文考古資料	平所遺跡埴輪窯跡出土品	1括	昭和52. 6. 11	矢田町	県教委	古墳時代の窯跡。昭和50年度発掘。形象埴輪、土師器等が出土精巧な技術で美術的価値も高く古代史研究資料として貴重である。
13	重文考古資料	出雲岡田山古墳出土品	1括	昭和60. 6. 6	大草町496	六所神社	岡田山1号墳(6世紀後半頃)から大正4年に出土した副葬品。中でも円頭太刀は「額田部臣」の銀象嵌銘文を有し、古代の部民制や氏姓制度を解明する上で貴重な根本資料である。
14	国指定史跡	出雲国分寺跡附古道	1所	大正10. 3. 3	竹矢町	松江市	奈良時代に建立された寺院。金堂講堂・僧房等の礎石があり、当時の堂塔配置を知ることができる。古道は我国では数少なく意宇平野条里制及び国分寺の寺域画定に密接な関係をもつ。
15	国指定史跡	山代二子塚	1基	大正13. 12. 9	山代町二子塚4760外18筆	角正治松江市	前方後方墳の名が全国最初に付けられた。県下最大(約90m)の古墳で、周濠部を含めると約120mで、原形が大体保存され、円筒埴輪が検出された。推定古墳時代中期頃。
16	国指定史跡	大庭鶏塚	1基	大正13. 12. 9	大庭町茶臼山1595	荒川一吉外	代表的方墳(1辺約42m)として全国に知られ、二段築成で、南と西に突出部がある。周濠があるといわれる中期古墳である。
17	国指定史跡	丹花庵古墳	1基	昭和8. 2. 28	古曽志町	松江市	平地に築かれた方墳(1辺42m)で、山陰では珍しい長持形石棺を有し、蓋に特殊な文様がある。もと二段築成であった。土師器甲冑が出土した中期古墳である。
18	国指定史跡	松江城	1所	昭和9. 5. 1	殿町1	松江市	慶長12(1607)～16年に堀尾吉晴によって築かれ、天守・石垣・濠等旧形保存されている。山陰の代表的平山城である。
19	国指定史跡	安部谷古墳	5穴	昭和9. 5. 1	大草町1180外	吉岡乙重松江市	端正な四柱式平入り家形の玄室をもつ、類例まれな後期横穴群である。
20	国指定史跡	小泉八雲旧居	1所	昭和15. 8. 30	北堀町315	根岸安藝	松江を世界に紹介した小泉八雲(ラフカディオハーン)の明治24年の旧居。三方の庭を居間から眺められる旧士族屋敷で、当時のまま保存され、八雲の偉業をたたえるにふさわしい。
21	国指定史跡	山代方墳	1基	昭和16. 8. 1	山代町893－1外3筆	角重雄松江市	方墳(一方約45m)で、濠の幅約10m、二段築成の墳丘、内部は複式構造、切石造りの石棺式石室をもつ。代表的後期古墳である。
22	国指定史跡	金崎古墳群	5基	昭和32. 7. 27	西川津町金先3365	奥田淳郎松江市	前方後方墳(1号36m、6号25m)2基と、方墳3基が保存され、1号墳は割石積の竪穴式石室で、古式須恵器・子持勾玉をはじめ貴重な資料が出土した中期古墳。
23	国指定史跡	岡田山古墳	2基	昭和40. 4. 9	大草町884の3外	松江市	前方後方墳(1号約24m)と円墳(2号43m)の2基。1号墳は横穴式石室で、鏡・馬具・太刀・土師器等出土した。代表的な後期古墳である。
24	国指定史跡	出雲国府跡	1所	昭和46. 12. 13	大草町山代町竹矢町	三島誉太郎外128名	大草町宮の後、六所神社裏を中心とする2町(約152m)四方の国府跡と、これを囲む当時の条里制の水田地帯を含めた41万㎡の広大な地域で、全国的に貴重な史跡である。昭和43－45年の発掘調査で確認し、整備された。
25	国指定史跡	石屋古墳	1基	昭和54. 4. 6	東津田町字石屋矢田町字児守	松江市他	大庭鶏塚に次いで規模の大きい古墳で、南と北に空濠を作り、その内側に1辺40m、高さ平均7.5mの墳丘を築成するものである。5世紀代から6世紀前半期にかけての中期古墳と推定される。
26	国指定史跡	出雲国山代郷正倉跡	1所	昭和55. 12. 5	大庭町	島根県他	出雲国風土記の中に記載されている山代郷に附属する正倉と方位、里程が合致する。出雲国風土記の編纂された天平5年(733)の出雲国を知る上では貴重な遺跡である。
27	史跡及び名勝	菅田庵	1所	昭和3. 2. 7	菅田町106	有沢弐保	旧松江藩家老有沢家の山荘、お成り門から菅田庵を含む丘陵の地域。四季の風情あり、眺望絶佳、閑静な景勝地である。

【県指定文化財】

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
1	県指定建造物	興雲閣	1棟	昭和44. 2. 18	殿町1－59	松江市	明治36年建築、松江市内の稀少な明治擬風建造物。入母屋造瓦葺二階建で、北欧風。明治40年5月皇太子(後の大正天皇)の行啓当時の宿舎となった。二階のシャンデリヤにその豪華さが偲ばれる。昭和48年松江郷土館として開館している。
2	県指定建造物	明々庵本席・水屋鎖の間	1棟	昭和44. 5. 23	北堀町278	財団法人松江博物館	この茶室は、松平家7代治郷(不昧)29才の折、安永8年(1779)殿町有沢弐善の邸内につくられた。後四転し、現地に移された。二帖台目の本席・水屋・鎖の間を対象とし、不昧好みの特色ある席である。
3	県指定建造物	真名井神社本殿	1棟	昭和49. 12. 27	山代町86	真名井神社広江　克己	本殿(4.85×4.12m)は切妻造り、外部は神魂神社本殿を模し、内部構造は神仏習合様式の装飾で、五面の板壁には壁画がある。寛文2年(1662)軸立の大社造りの模式的建造物である。
4	県指定建造物	高真院(松平治郷)廟門	1棟	昭和53. 6. 23	外中原町179－1	松平家	一間一戸薬医門の形式になり、切妻造りの屋根の正面及び背面に軒唐破風を付す。正面3.65m、側面1.82mを測る。江戸時代初期の藩威を偲ばせるに足る貴重な建造物。
5	県指定建造物	大円庵(松平治郷)廟門	1棟	昭和53. 6. 23	外中原町179－1	松平家	向唐門の形式になり、唐破風造りの破風を正面及び背面に見せる妻入形式になる。桁行3.63m、梁間2.00mを測る。江戸時代後期の遺構であり当時を偲ばせるに足る貴重な建造物である。
6	県指定絵画	紙本墨画 大応国師図白隠筆 大燈国師図白隠筆 関山国師図白隠筆	3幅	昭和38. 7. 2	堂形町589	天倫寺横田　秀愚	白隠は天倫寺開祖東愚和尚と親交があり、立ち寄った際に描いたもので、師81才の作といわれ、枯淡な美しい作品である。
7	県指定絵画	紙本墨画 出山釈迦図白隠図	11幅	昭和38. 7. 2	堂形町589	天倫寺横田　秀愚	白隠は釈迦の入出山の図を数多く描いており最も得意の画材である。いずれも筆法の巧拙超越した作品である。
8	県指定絵画	紙本著色勅使代参向図	5幅 1面	昭和47. 7. 28	大草町499	六所神社吉岡　光弘	祭礼図2幅、新嘗会図内裏図雅楽図各1幅はともに本殿内壁に貼布されていたもの。他の図はもと額面であったかと思われ、構図は上記5幅のそれをまとめたものである。いずれも土佐派の筆致による江戸時代初期の秀作。
9	県指定絵画	絹本著色騎獅子文殊像 付養法院寄進状1通	1幅	昭和51. 4. 30	外中原町179－1	月照寺安井　昭雄	本図は雲上の獅子に乗った文殊渡海図である。文殊菩薩の豊麗な尊様は藤原時代の高い格調を伝えるもので、優婉高雅な筆触は12世紀末期の制作と考えられる。
10	県指定絵画	絹本著色尼子経久像	1幅	昭和52. 5. 4	新町832	洞光寺諏訪　正積	中世の写実的な肖像画の伝統を嗣ぐもので、筆者は明らかでないがその清潔で豊かな描線、落ち着いた紋様彩色は、美術的に貴重である。月山城を奪回し中国経略に着手した壮年経久の風姿を如実に伝え、郷土史的価値の高い作品である。
11	県指定絵画	絹本著色両界曼荼羅	2幅	昭和54. 8. 24	八幡町373	迎接寺田村　宣順	大永4年(1524)に寄進された由緒あるもので、室町期の本格的な両界曼荼羅として資料的な価値が高いものである。
12	県指定絵画	美人読詩(額装)	1面	昭和57. 6. 18	殿町1	県立博物館	署名によれば明治39年(1906)の作で、明治時代後期の日本洋画界で堅実な写実技巧を標傍した和訓の代表作である。
13	県指定彫刻	木造馬頭観世音菩薩坐像	1軀	昭和34. 9. 1	東長江町299	金剛寺才木　寛山	馬頭観音に立像が多いが、この像は坐像であり、藤原期の地方作としては貴重で、しかも大作である。
14	県指定彫刻	木造神像群	23軀	昭和36. 6. 13	荘成町348	成相寺池本　智城	33体の内、破損の甚だしい10体を除き23体を指定。大体藤原・鎌倉期の作といわれ、数量・製作年代の上から全国的にも貴重である。
15	県指定彫刻	木造神馬	3具	昭和50. 8. 12	八幡町303	平浜八幡宮青木　基	宝徳2年(1450)神有月吉日の墨銘あり。室町時代の作品である。馬形に人物を配したものもある。著彩はかなり剥落しているが、古雅素朴で健康な美しさがある。
16	県指定工芸品	迎接寺灌頂法具 戒体箱1合・居箱1合・如意1提・香炉箱1合・柄香炉1柄・鈸子1双	1合	昭和35. 9. 30 51. 4. 30 名義変更	八幡町373	迎接寺田村　宣順	天文3年(1534)在銘の戒体箱から逐次指定。大永4年(1524)亀井能登守惟宗秀綱、平浜八幡宮別当宝光寺寄進の目録がある。室町時代の後期の中央作が保存され貴重である。
17	県指定工芸品	銅鐘	1個	昭和36. 6. 13	外中原町	宝照寺	嘉元2年の鋳造、県下に残存する鐘の中では製作年代が古く、よく時代相を表現している。鎌倉時代1304年の作。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
18	県指定工芸品	刀 表銘 元治元子年八月吉日雲州住長信作 裏銘 君萬歳	1口	昭和44. 2. 18	内中原町15－113	勝部 昌美	刃長66.5㎝、反り1.7㎝、長信全盛期の作で、精魂をこめた跡がうかがえる。
19	県指定工芸品	刀 表銘 守貞作 裏銘 主三沢二良左衛門為景 天正二年二月十二日	1口	昭和47. 3. 31	内中原町15－113	勝部 昌美	刃長70.0㎝で、地鉄・刃文がしっかりしている。銘文の守貞は、仁多郡三沢住の初代安部忠貞の子初代守貞である。三沢二良左衛門為景は、14代為虎の若名ともいわれている。
20	県指定工芸品	銅鐘	1口	昭和47. 7. 28	八幡町373	迎接寺 田村 宣順	天正3年に鋳造され、平浜八幡宮に寄進されたもので、奥の院であった迎接寺に奉納されたもの。高さ101.5㎝、撞座八弁連花口径67㎝、下帯線模様、音色がことのほか美しい。
21	県指定工芸品	色々威腹巻付袖鎧1双	1領	昭和51. 4. 30	大庭町357	神魂神社 秋上 洋二	比較的軽量で、指揮官用の実戦的なこしらえで、室町時代中期(15世紀後半)の作品。尼子経久着初の鎧との伝えがある。
22	県指定工芸品	小太刀 額名 長光附銀荘葵紋 散毛抜太刀拵	1口	昭和55. 6. 27	殿町1	松江市	総長64.0㎝、刃長49.9㎝、反り1.1㎝。長光は鎌倉時代中期に備前国長船に住した名工である。毛抜太刀拵は江戸時代末期の製作である。
23	県指定書跡	紙本墨書大智度論	2巻	昭和41. 5. 31	西川津町	島根大学	論は経の注釈、大智度は大般若波羅蜜多の意。これはもと近江国石山寺にあったものの一部である。巻末に天平6年の紀年がある。
24	県指定書跡	紙本墨書大智度論	1巻	昭和42. 5. 30	殿町1	県立博物館	島根大学のものと同様で、巻末に天平6年の紀年がある。
25	県指定古文書	紙本墨書秋上家文書	55巻31冊	昭和47. 3. 31	大庭町563	神魂神社 秋上 洋二	神魂神社と社職関係のもので、応永31年(1424)大草坪付はじめ、室町時代107点、安土時代79点、江戸時代118点の文書。
26	県指定古文書	紙本墨書八重垣文書	43通1巻2冊	昭和47. 3. 31	佐草町155	八重垣神社 佐草 宗夫	毛利元就判物をはじめ、松平家各代の寄進状まで、戦国から江戸時代にかけての重要文書が網羅されている。
27	県指定古文書	紙本墨書迎接寺文書	64通	昭和48. 9. 25	八幡町373	迎接寺 田村 宣順	鎌倉時代の元徳2年(1330)から、明治4年(1867)にわたる間の文書で、特に尼子氏関係のものが多く、地方史上の貴重な資料である。
28	県指定考古	細形銅剣	1口	昭和39. 5. 26	八幡町303	平浜八幡宮 青木 基	史跡出雲国分寺跡付近から出土したもので、長さ約30㎝、銅剣文化の東限を示す貴重な資料である。
29	県指定考古資料	銅印 印文「春」	1顆	昭和43. 6. 7	雑賀町829	松尾 二朗	大草町六所神社裏、水田、国庁想定地から発掘されたもので、古代宮人の私印と思われ、国庁跡決定上貴重な資料である。
30	県指定史跡	古天神古墳	1基	昭和35. 9. 30	大草町字古天神	島根県	前方後方墳で、小形ではあるが立派な石棺式石室をもち、出土遺物は太刀・馬具・土器等があり、現在東京国立博物館に置かれている。
31	県指定史跡	薄井原古墳	1基	昭和37. 6. 12	坂本町227	小草 通男	長さ50mの前方後方墳で、東西両側から羨道をもつ片袖形横穴式石室の双室墳であり、後期前方後方墳の著例である。
32	県指定史跡	東百塚山古墳群(52基)	1所	昭和45. 10. 27	大草町	三島 美明他	一大群集墳で、県下の最も代表的な古墳群、内部構造や副葬品などは調査段階だが、木棺直葬の構造が多いとみられ、単に丘陵上だけでなく、谷間におよぶ特異な立地も注目されている。
33	県指定史跡	西百塚山古墳群(32基)	1所	昭和45. 10. 27	大草町西百塚	三島 美明他	標高73mの丘陵を中心とする尾根筋と谷間に分布し、大きく四つの支群に分かれる。第1支群は東百塚に近い一帯の円墳5基、第2は北へ8基、第3は西北へ9基、第4は第3の西10基。
34	県指定史跡	大草岩船古墳	1基	昭和45. 10. 27	大草町岩船1176	三島 美明他	尾根筋の西寄りに露頭する岩壁を加工し、船形石棺様に造成している。岩壁を刳り込んで棺身をつくり、蓋石を破損しているが、今は蓋石は失われている。中期か後期初の古墳。
35	県指定史跡	岩屋後古墳	1基	昭和45. 10. 27	大草町岩屋後	島根県	史跡岡田山古墳の東方、凝灰岩の切石を用いた後期後半の石棺式石室で、四壁を切石で構成し、天井石は尾根形、明治39年に発見され、昭和52年発掘調査を行った。人物埴輪は東京国立博物館蔵。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
36	県指定史跡	御崎山古墳	1基	昭和45.10.27	大草町御崎	日御碕神社他	岡田山1号墳とほぼ同じ後期のものと推定。前方後方墳長さ41m、後方部幅約23m、高さは後方部3m、前方部2m、特異な形態をしている。小形小石積の石室を有する。
37	県指定史跡	荒神谷・後谷古墳群	1基	昭和45.10.27	佐草町荒神谷	渡部　達郎他	八重垣神社の東方、標高約60m。丘陵地があり、約3ヘクタールの範囲にわたり、古墳と横穴とが谷を囲んでU字形に連なっている。約15基。多くは方墳と円墳。横穴との関連大切。
38	県指定史跡	出雲国分寺瓦窯跡	1所	昭和48.3.30	竹矢町1533	菅井　作夫 菅井　花子	出雲国分寺・同尼寺跡の中間の山際にある。瓦窯遺構は惰円形で幅2m、高さ約80m、奥行4～5m、遺物は軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦と須恵器破片、奈良期の出雲国分寺軒丸瓦と同種のものが出土している。
39	県指定史跡	十王免横穴群	1所	昭和50.2.12	竹田町250－67	松江市	山代二子塚の東方1kmの丘陵中腹にある横穴群27穴、内部に石積遺構や、家形石棺や、弓矢を射る人物壁画等、貴重な遺構を有する古墳時代後期の群集墓である。
40	県指定史跡	松江藩主松平家廟所（月照寺）	1所	昭和53.6.23	外中原町179－1	松平家	山内の諸建造物は、それぞれ松江藩繁盛の俤を今にとどめ、その多彩な配置は稀有であり、近世大名の葬制や墓制を知るうえに貴重である。
41	県指定史跡	乃木二子塚古墳	1基	昭和57.6.18	上乃木町3250－1	景山　幸二	全長36mの前方後方墳で出土した須恵器器台から西暦6世紀前半ころと推定される。平地に立地し、周濠を有するなど出雲地方における代表的な古墳の一つである。
42	県指定絵画	版画東海道五十三次	55枚	昭和59.5.4	殿町1	島根県	安藤広重筆。天保4－5年に刊行。人馬を添景として駅路の寂しさ、つれなさ、面白さ、あわれさを描き出した日本風景版画の最高峰ともいわれる作品である。
43	県指定絵画	版画凱風快晴図	1枚	昭和59.5.4	殿町1	島根県	葛飾北斎筆。「富嶽三十六景」(46枚）の第一傑作。「赤富士」ともいわれ、構図の単純さと簡単な色彩が雄大な富士を描くのに効果を発揮している。
44	県指定絵画	版画神奈川沖浪裏図	1枚	昭和59.5.4	殿町1	島根県	葛飾北斎筆。「富嶽三十六景」の名作。波間に漂う三隻の小舟と巨大な波の向こうには泰然とした富士の雄姿。静と動の組み合わせ、画面の視点を低く設定し波の大きさを誇張するのは、西洋画風の影響によるものである。
45	県指定絵画	版画山下白雨図	1枚	昭和59.5.4	殿町1	島根県	葛飾北斎筆。「凱風快晴図」を意識し、一対のものとして制作したといわれるもので、黒い富士を描き、山麓に稲妻を光らせ雨を降らすという、富士山に対する印象を強烈なものとしている。

【市指定文化財】

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
1	市指定建造物	塩見畷旧武家屋敷遺構	2棟他	昭和28.3.31	北堀町305、310	松江市他	武家屋敷の旧態をよく保存している。滝川・木山・田部・岸・吉岡・布施家の長屋門、板塀。この中、滝川家のものはその母屋と共に昭和45年松江市が買収した。中老塩見小兵衛の邸があったため、塩見畷の名がある。
2	市指定建造物	お成りの間附茶室	1棟	昭和42.11.1	枕木町205	華蔵寺 松田　秀保	歴代藩主参向の節、休息所並びに宿泊所となった。様式は、片平屋入母屋造建築。年代は江戸中期。小林如泥の彫刻がある。
3	市指定建造物	鐘楼門・お成り門・地蔵堂	3棟	昭和42.11.1	枕木町205	華蔵寺 松田　秀保	鐘楼門は明暦元年直政の建立になり、文化4年に修理しているが、当山現存建物中最古のもの。お成り門は建築年代不明であるが、鐘楼門と同一頃の作と思われる。地蔵堂は単層六角形の小堂で、その建築様式は宝形造築で全体に手のこんだ精巧な作。
4	市指定建造物	武家屋敷	1棟	昭和45.6.10	北堀町305	松江市	松平氏の中老席塩見氏が200年にわたり居住し、幕末明治以後氏家、滝川氏等が居住した。武家屋敷の特徴をよく残している。昭和43年松江市が買収した。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
5	市指定建造物	観月庵及び待合付露地	2棟	昭和47. 6. 29	北田町27	普門院谷村 常昭	松平不昧も臨席され、二帖隅炉の調和のとれた茶室である。待合は茅葺四柱屋根の立派なもので、内部は西と南側に腰掛を設ける。露地は、観月庵と待合を結ぶ多くの飛石と美しい苔から構成され、ほの暗い静寂な感を与える。
6	市指定建造物	田原神社随神門	1棟	昭和57. 8. 18	奥谷町122	田原神社藤脇 久稔	入母屋造り、総欅造りの優美な建造物で、桁行7.12m、梁間1.68mや測る。市内に所在する随神門の中では最も保存程度が良好で、江戸時代の建物として価値の高いものである。
7	市指定絵画	紙本墨画襖絵	2点	昭和42. 4. 10	上大野町土居	西光寺昌子 英亮	円山応挙の弟子、長沢芦雪の筆になる。大胆にして雄渾な筆致である。
8	市指定絵画	絹本著色阿弥陀如来並聖衆来迎図	1幅	昭和52. 10. 20	和多見町29	西光寺藤原 行正	阿弥陀三尊と六地蔵菩薩の習合した特異な構図で、金泥を使用した華麗な仏画。絵画史上の価値も高い室町末期の作と伝えられる。
9	市指定絵画	絹本著色阿弥陀如来立像図	1幅	昭和52. 10. 20	和多見町29	西光寺藤原 行正	踏分蓮座にのる慈悲円満な阿弥陀如来の容姿で、江戸初期の典型的な金泥図像。描法秀技。同じ図柄の原図と考えられる。
10	市指定彫刻	木造ルシャナ仏坐像	1軀	昭和38. 5. 28	邑生町	清安寺森 重二	初代荒川亀斎の作。松江家庭学院の孤児の幸せを祈願して作った。
11	市指定彫刻	木造釈迦如来涅槃像	1軀	昭和41. 4. 15	馬潟町	阿弥陀堂田村 朝夫	像高117.3cmのかなり大きなもので施無畏の印をとり、台座上に右向きに横臥している。衣丈肉身金泥に僅か後補がみられるが、よく鎌倉時代の特徴を表す名作である。
12	市指定彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1軀	昭和41. 4. 15	馬潟町	阿弥陀堂田村 朝夫	像高71.8cm、台座高42.5cm、この像は上記の像と同じ仏師の作。良質の桧木の寄材造りで、量感豊かな鎌倉時代の代表作の一つである。
13	市指定彫刻	木造大日如来坐像	1軀	昭和41. 4. 15	大草町636	大日堂石川 仂	像高86.3cm、台座高44.0cm、桧材の一本造り。胎像界大日如来像であって、地方仏師の手になるものと思われるが力勢非凡である。
14	市指定彫刻	木造薬師如来脇待像	2軀	昭和42. 11. 1	枕木町205	華蔵寺松田 秀保	日光菩薩・月光菩薩の二像。この像は桧材寄木作り、素朴であるが唇(朱)、髪・目(黒)、白毫(白)、台座連華座(緑)は彩色してある。様式は宋風で室町時代の作。
15	市指定彫刻	木彫欄間	1点	昭和42. 11. 1	枕木町205	華蔵寺松田 秀保	小林如泥の作。流水(うず潮)菊花をあしらい、その彫刻の美は天才如泥の面目躍如たるものがある。
16	市指定彫刻	木彫狛犬	1対	昭和52. 10. 20	佐草町155	八重垣神社佐草 宗夫	簡素な装飾を施した彫刻で、頭上に一角という古様を伝え、狛犬の変遷を知る文化史的資料である。室町末期までの地方作である。
17	市指定工芸品	松江城天守雛形	1点	昭和28. 8. 31	殿町1	松江市	寛永年間、松江城修理のため竹内右兵衛の作ったもの。
18	市指定工芸品	刀 付寄進状2通	2口	昭和38. 5. 28	大庭町563	神魂神社秋上 洋二	尼子晴久寄進僧定秀鵜首作りと吉川元晴寄進行平菖蒲造り。いずれも立派な美術品である。
19	市指定工芸品	松平直政公初陣胴丸 付真田軍扇一柄	1領	昭和40. 9. 21	殿町1	松江神社松江市	紫糸威木地金箔押立具前黒立鳥毛後立、五三桐、葵紋直政公は慶長19年12月大阪冬の陣に初陣し、これを着用し真田幸村のまもる真田丸を攻めて勇名をはせた。軍扇は幸村自らその勇をたたえて投与したもの。
20	市指定工芸品	蒔絵手箱勝軍木庵作	1合	昭和40. 9. 21	殿町1	松江神社松江市	外側は金銀の鈑を用い、内側は刑部梨地に三葉葵の紋章を高く浮かせ紐金具は銀製葵紋。まことに豪華絢爛。勝軍木庵の最も勝れた作品。
21	市指定工芸品	歌合カルタ彰楽院筆	1箱	昭和40. 9. 21	殿町1	松江神社松江市	絹張り金銀砂子ちらし書、裏は金砂子、箱は黒塗り、筆勢極めて流麗、裏書は夫君不昧公のもので、これまた雅味あふれている。
22	市指定工芸品	太刀 銘 備前国包平	1口	昭和44. 7. 31	殿町1	松江市	鎬づくり刀身の長さ71cm刀紋のたれ。直政が将軍家綱の正使として参内したとき、霊元天皇より拝領したものと伝えられる。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
23	市指定工芸品	刀　表銘八幡宮奉寄進堀尾丹家□□裏銘寛永十癸酉八月十五日雲州住銀祐作	1口	昭和52. 10. 20	八幡町303	平浜八幡宮 青木　基	桃山時代の姿をもつ刀。松江藩主堀尾家にかかわる銘文をもつ由緒ある刀として貴重である。
24	市指定工芸品	横笛銘　元興寺附推朱彫筒1筒・添筒1筒	1管	昭和52. 10. 20	和多見町29	西光寺 藤原　行正	横笛は外側樺巻黒漆塗、内部は朱塗り、江戸時代の逸品。推朱彫筒は江戸時代中期までの優品。添筒は明治時代松江の名工荒川亀斎の作である。
25	市指定書跡	墨書顕如上人御真影図裏書	1幅	昭和52. 8. 10	和多見町29	西光寺 藤原　行正	顕如上人図像の裏面に貼付された墨書。慶長　戊申年松江村の記名があり、紙質・筆跡とも適合し、諸材料中最も価値が高い。
26	市指定古文書	竹内右兵衛書つけ	1冊	昭和28. 8. 31	殿町1	松江市	天守雛形と同時に書かれたもので、松江城修理に関し、技術的資料の唯一のものである。
27	市指定古文書	堀尾山城守給帳	1冊	昭和57. 9. 18	栄町792	円成寺 若槻　大峰	堀尾山城守こと三代目忠晴の治世下における松江藩初期の給帳で当時の政治・経済を知る上で貴重な資料である。寛永年間の写本である。
28	市指定古文書	松江藩給帳	13冊	昭和57. 8. 18	雑賀町1587	野津　誠	松江藩の堀尾・京極松平各代の給帳であるが松平四代及び七代～九代の給帳を欠く。書写の年代は文化10年(1813)～明治初年に及んでいるが原本が失われている今日にあっては高い価値を有する。
29	市指定古文書	内神社文書	1括	平成2. 5. 29	大垣町746	内神社 家原　成宜	中世から近世・近代に至る内神社及び宮司職に係る古文書1787点。当時の政治、宗教を知る上で貴重な資料である。
30	市指定考古	上代玉作関係遺物	1括	昭和39. 1. 18	東忌部町	忌部神社 和田　統彦	忌部地区には、古代の勾玉関係の遺物が多く残っており、ここから発見された砥石、勾玉製品78点を指定。
31	市指定有形民俗文化財	火鑽白	1点	昭和39. 7. 6	大庭町563	神魂神社 秋上　洋二	神魂神社本殿内に保管されていたもので、古くから新嘗祭に用いたものと思われる。貴重な民俗資料である。
32	市指定有形民俗文化財	大垣の影人形道具(錦影絵)135点	1式	昭和49. 8. 10	大垣町1176	土島　広一	うつし絵ともいい、幻燈の一種。享保年間(1720年間)江戸蔵前、池田都慶の発明で土島徳兵衛が天保時代松江に伝え、代々継承。庶民娯楽として昭和初期まで行われ画面の動きと色彩で人気を博した。道具一式保存されているのは、全国的に貴重な資料である。
33	市指定有形民俗文化財	運輸関係資料	1括	昭和49. 8. 10	母衣町	原　国樹	白潟三度飛脚問屋原文助家の所蔵。江戸時代の定飛脚から日通に発展するまでの経済・通信の発達を知る原家5代に及ぶ資料である。
34	市指定有形民俗文化財	松江藩御船屋・御水主・大相撲関係資料(79点)	1括	昭和62. 3. 27	東本町5－60	中山　英男	江戸期、松江藩の水運行政及び当時の相撲との関わりを知る上で欠くことのできない歴史資料である。古文書、古書が38点、絵図が16点、相撲関係の文献及び番付表が35点、計79点を教える。
35	市指定有形民俗文化財	秋鹿大日堂御頭行事		昭和38. 5. 28	秋鹿町	大日堂御頭行事保存会	すたれていく御頭行事の中で、古式をよく残し、行事規模も島根県下最大であり、貴重な無形文化財である。昭和53年復活。
36	市指定史跡	月照寺松平家墓所	1所	昭和28. 8. 31	外中原町 井神 本谷	月照寺 安井　昭雄	松江藩主の菩提所で松平直政を始め、9代に及ぶ墓碑があり、各時代の特色をもつ廟門が保存されている。
37	市指定名勝	枕木山	1所	昭和42. 11. 1	枕木町205外	華蔵寺 松田　秀保	寺領山林及び境内地を指定。島根半島をほぼ中央に位し、山頂からの眺望は絶景である。山腹には千数百年の伝統をもつ華蔵寺がある宍道湖北山県立自然公園に指定されている。
38	市指定天然記念物	舟つきの松	1株	昭和39. 1. 18	南田町150	野津　茂人	松平不昧の室彭楽院が、伊達から入輿した察持参したもので、歴代藩主が楽山へ鷹狩りの際、舟をつないだのでこの名が生まれた。一名カサ松とも呼ばれる。

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
39	市指定天然記念物	タチバナ	1株	昭和47. 6. 28	東長江町224	柳浦　義夫	タチバナは、ミカン科に属する常緑の亜高木で、静岡県・和歌山県・四国・九州の海岸に近い山地にまれに自生する日本特有の植物である。柳浦氏宅のものは、その樹高5.7m、樹周は基部で6.0m、枝葉の繁り直径4.5mの広がりをもっている。
40	市指定天然記念物	ヤマモモ	2株	昭和54. 3. 8	坂本町144	石川　達郎	ヤマモモは、ヤマモモ科に属する温暖性常緑樹で、本州西南部の潮風の多い地域に分布し、この二株はその北限地における大木で学術的価値は極めて高い。石川氏宅のものは甲樹樹高9.00m、樹周は基部で2.25m、目通りで2.03m、乙樹樹高8.50m、基部樹周2.63m、目通り1.80mを測る。

【認定重要美術品】

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
1	重要美術品書跡	着到懐紙二十鷹	1幅	昭和12. 12. 24	東茶町19	桑原　茂	後柏原天皇(1500年代)の宸翰もある。
2	重要美術品書跡	紺紙金字陀羅尼門諸部要目		昭和18. 10. 1	殿町1	島根県	神護寺の経である。

【地域を定めず】

通番	区分・種別	名称	数量	指定年月日	所在地	所有者管理者	概要
1	国指定特別天然記念物	オオサンショウウオ		昭和27. 3. 29			地域を定めず指定したもの。
2	国指定天然記念物	黒柏鶏		昭和26. 6. 9			島根県下全域に指定したもの。
3	国指定天然記念物	いづもナンキン		昭和57. 6. 18			島根県下全域に指定したもの。

松江市文化財調査報告書 第46集

松江市遺跡地図

平成３年２月発行

発行　松江市教育委員会
　　社会教育課

印刷　有限会社谷口印刷
　　松江市母衣町89